

○判文(山林盜伐)明治十六年二月廿二日上告
同 年十二月十二日發付

百七十四

熊本縣肥後國天草郡崎津村平民
農業

田崎時太郎

右時太郎カ被告事件ニ付明治十五年七月廿二日天草治安裁判所ニ開キタル熊本縣輕罪裁判所
於テ被告ハ浦壁百市所有ノ居村舊字ホタルメ同田ノ迫山林ノ立木ヲ盜伐セシ行爲アルモノ
ニ所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ其輕キ刑法第三
百七十三條ニ依リ一月廿日ノ重禁錮ニ處シ明治十四年第八十二號^{二一ハ一ノ誤}布告ニ從ヒ
監視ヲ附加セスト言渡シタル裁判ニ對シ被告時太郎カ上告シタル要領ハ第一小出廣太カ証
言中第四次ノ陳述ノ如キ事實ノ始末ヲ盡セシニモ拘ハラフ第二次ノ失言ヲ以テ悉ク撥斥シ
タルハ不當ナリ第二立木等ノ賣買上ニ証書ヲ授受スル例ハ當時ノ慣習ニ於テ之レナキカ故
ニ確手タル約束ヲ爲サ、リシハ却テ親睦間ノ情義ニ出テタルモノニシテ且証人大平辰次郎
外一名參考人中村久次ノ陳述ニ據ルモ右廣太亡父小出助市ヨリ買受ケシ事蹟ヲ証明スルニ
足ル然ルニ買受ケタル証左斷シテ之レナシトセラレタルノミナラス山下半年次郎松田磯吉カ
口供ハ畢竟スルニ浦壁百市ヲ保庇スルニ出テタルモノト云ハサルヲ得サレハ確實ノ証言ト
爲スヘカラサルニ原裁判所於テ容易ク刑ヲ言渡セシハ不當ナリト云フニアリ爰ニ大審院於
テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本件上告ノ旨趣ハ要スルニ原裁判官カ職權上爲シタル事實ノ認定及ヒ証憑採擇上ノ當否ヲ
論辯シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ規定セル以外ニ涉リ上告ヲ爲
シ得ルノ理由ナキモノトス因テ同法第四百廿七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

熊本縣肥後國天草郡崎津村平民
農業

田崎次四郎

右次四郎カ被告事件ニ付明治十五年七月廿二日天草治安裁判所ニ開キタル熊本縣輕罪裁判所
於テ被告ハ浦壁百市所有ノ居村舊字ホタルメ同田ノ迫山林ノ立木ヲ田崎時太郎ノ發意ニ同
シ盜伐セシ所爲アルモノトシ所犯刑法實施前ニ係ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ其輕キ刑法第三
百七十三條ニ依リ一月十日ノ重禁錮ニ處シ明治十四年第八十二號^{二一ハ一ノ誤}布告ニ照シ
監視ヲ附加セスト言渡シタル裁判ニ對シ被告次四郎カ上告セシ要領ハ小出廣太カ証言中第
二次ノ失言ヲ以テ一三四次ノ証言ヲ撥斥シ而シテ立木等ノ賣買上ニ証書ヲ授受スルノ例ハ當
時ノ慣習ニ於テ之レナシテ其確平タル約束ヲ爲サ、リシハ却テ親睦間ノ情義ニ出テシ事
實ナルヲ知ルニ足ルノミナラス証人大平辰次郎外一名參考人中村久次ノ陳述ニ據レハ廣太
亡父助市ヨリ買受ケシ事蹟ヲ証明スルニ足レリ然ルニ買受ケシ証左斷シテ之レナシトセラ
レ而シテ山下半年次郎松田磯吉カ陳述ハ浦壁百市ヲ保庇スルニ出タルモノニテ確實ノ証言ト
ナルヘカラサルモノニ根據シ原裁判所カ容易ク刑ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニアリ爰

百七十五

ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ノ旨趣ハ原裁判官カ職權上爲シタル事實ノ認定及ヒ証憑採擇上ノ當否ヲ論辨シテ不服ヲ訴フルニ過キスシテ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナキモノトス且ツ訴訟書類ヲ監査スルニ毫モ違法ノ廉アルコトナシ因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ棄却スル者也

第千九百卅六號

○判文(失火)明治十六年一月廿九日上告
同 年十二月十二日發付

千葉縣上總國夷隅郡守谷村平民
船乘職業

野村源次郎

明治十五年十一月二十九日

火ヲ失シテ人ノ宅舎ヲ延燒シタル被告事件ニ付明治十五年十一月二十七日千葉縣輕罪裁判所カ無罪ノ言渡シヲ爲シタル裁判ニ對シ檢事補村山次郎一ハ上告セリ其要領ハ原裁判所ニ於テ被告源次郎カ不注意ニテ其自家ヲ燒失セシハ直接ノ結果ナルモ爲メニ其隣家森與惣兵衛カ家屋ニ延燒セシハ人力ノ抗拒スル能ハサルヨリ延燒シタル者ナレハ被告ノ不注意ニ連係スル間接ノ結果ナルヲ以テ罪ノ問フヘキナシト言渡サレタルモ刑法第四百九條ハ人ノ財產ニ對シ損害ヲ及ホシタル疎漏ヲ責ムルノ法章ニシテ其結果ノ直接間接ヲ論別スヘキ者ニアラサレハ原裁判ハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ
對手人野村源次郎ハ答辭セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
森與惣兵衛カ家屋ノ燒毀ニ至リシハ被告源次郎宅失火ノ延燒ニシテ畢竟源次郎カ不注意ニ原因セシ者ナレハ刑法第四百九條ニ依リ其罪ヲ問ハサルヲ得ス然ルニ原裁判所カ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡シヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

野村源次郎

原裁判所カ認メタル事實ト各証憑トニ依リ火ヲ失シテ其隣家森與惣兵衛家屋ヲ延燒シタルコト明白ナリ此事實ヲ罰スヘキ法律ハ刑法第四百九條火ヲ失シテ人ノ家屋財產ヲ燒毀シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該ル因テ二圓ノ罰金ニ處スル者也

第千九百卅七號

○判文(氏名詐稱)明治十五年十二月廿五日上告
明治十六年十二月十二日發付

岡山縣備前國兒島郡赤崎村平民
農業

洲脇桂太郎

明治十五年八月十七日

氏名詐稱被告事件ニ付明治十五年八月二十三日岡山縣輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百三十一條
百七十七

ニ照シ二圓ノ罰金ニ當ル所十六歳ニ滿タサルヲ以同第八十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ罪ノ科スヘキナキヲ以放免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補樺島鎮八ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ本案ノ事實ニヨレハ刑法第二百三十一條第八十條第七十條ニ依リ一圓以上十圓以下ノ罰金ヲ適用スヘキニ本刑ニ二等ヲ減シ罪ノ科スヘキ無キヲ以云々ト言渡シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ

對手人洲脇桂太郎ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第二百三十一條ニ官署ニ對シ云々二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス同第八十條ニ罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ハ云々判別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス同第七十條ニ禁錮罰金ニ該ル者減輕スヘキ時ハ云々刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ云々トアリ之ニ依ル時ハ上告ニ論スル如ク一圓以上拾圓以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ罰金ニ處スヘキニ原裁判ノ爰ニ出テスシテ罪ノ科スヘキ無キヲ以放免スト言渡シタルハ全ク擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之レヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

洲 脇 桂 太 郎

原裁判所ニ於テ認メタル事實ニ依レハ判別アリテ犯シタル罪跡明白ナリトス之ヲ法律ニ照スニ刑法第二百三十一條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ當ル而犯時十二歳以上十六歳ニ滿タサ

ル者ニ付刑法第八十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ一圓以上拾圓以下ノ範圍内ニ於テ二圓ノ罰金ニ處スルモノ也

第千九百卅八號

○判文(山林盜伐)明治十五年十一月廿八日上告
明治十六年十二月十二日發付

石川縣加賀國能美郡丸山村チノ

八番地平民農業

林

清 次 郎

明治十五年七月

山林盜伐被告事件ニ付明治十五年七月六日金澤輕罪裁判所カ刑法第三百七十三條及第三百七十二條ニ依リ重禁錮一月二十日ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ依リ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告林清次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ薪ヲ採伐セシ箇所ハ古來一村ノ共有ニ係ル山林ニシテ被害者ノ私有地ニアラス且ツ其山地所有權ノ争ニ付現ニ民事訴訟中ナリ然ルニ原裁判所カ被告事件ニ付事實ノ審理ヲ盡サスシテ輒ク盜伐ノ罪アリト斷定セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

原檢察官ハ上告趣旨ノ不理ナルヲ論シ原裁判ハ至當ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノト思量スル旨答辨セリ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ趣旨ハ原裁判所カ正當ノ証憑ニ據リ認定シタル事實ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ原由ナキモノトス何トナレハ諸般ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ特有ス

ル權内ニシテ越權等不法ノ点アルニ非サレハ輒ク其當否如何ニ論及スルヲ得サレハナリ因テ上告趣旨相立ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第九百卅九號

○判文(竊盜未遂)明治十五年十二月十一日上告
明治十六年十二月十二日發付

三重縣伊勢國一志郡中林村平民
農業

北 浦 音 次 郎

明治十五年九月
十八年四月

竊盜未遂被告事件ニ付明治十五年九月五日安濃津輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十二條第三百七十五條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ十五日ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付スト
言渡シタル裁判ニ對シ檢事補箕浦元嘉ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ原裁判ニ於ル未遂犯ニ係ル減等ト刑法第八十一條ノ減等ト通減シテ本刑ニ二等ヲ減シタルハ加減順序ノ總則ニ背違セシ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ

對手人北浦音次郎ハ答辨セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ檢事加納久宜ハ附帶上告ヲ爲ス其要旨ハ裁判言渡書ノ末文ニ犯人ノ手ニ現在スル肥料草云々トアリテ尙一件書類ヲ閱スルニ被告ハ業已ニ肥料草ヲ苴リ取り了リテ竊取ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ何トナレハ斷根

ノ枯草復タ生ニ回ラサレハナリ且夫已ニ苴取ルモ持去ラサルヲ以テ未遂犯ナリトセハ持去ル途中ニ於テ取還サレタルモ亦未遂犯ナリト云ハサル可カラサルニ至ラン未遂犯罪ノ法章豈如斯漠然タルモノナランヤト云フニアリ之ヲ審按スルニ

刑法第九十九條ニ犯罪ノ情狀ニ因リ云々但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ加減シタルモノヲ以テ本刑ト爲ストアルニ依レハ原裁判ノ通減法ヲ用ヒタルハ固ヨリ背法タル論ヲ竣タサルヘシ然而被告ノ所爲タル目的ノ結果ハ遂ケサルモ已ニ之ヲ竊取シタルニ相違無キハ檢事附帶上告ノ如ク原裁判言渡書ノ末文ニ於モ明瞭ナルノミナラス其公判始末書ヲ見ルニ被害者榎原增吉ハ肥料草二把ヲ苴取リ持歸ラントスルヲ取押ヘタリト云ヒ被告モ又肥草二把ヲ苴取リ盜去ラントスル際所有主ニ取押ヘラレタルニ相違無シト云ヘルニヨルモ既ニ竊取ノ目的ハ遂ケ得タルモノナレハ未遂ニアラスシテ既遂犯者タル勿論ナルニ原裁判ノ爰ニ出スシテ未遂犯ト爲シ處斷セシハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ付治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本案ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

北 浦 音 次 郎

原裁判所ニ於テ認メタル事實ニ依テ罪證明白ナリトス依テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第三百七十二條田野ニ於テ穀類菜菓其他ノ產物ヲ竊取シタルモノハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ附スルトアルニ當ル而シテ罪ヲ犯ス時十六歲以上二十歲ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ依リ其罪ヲ宥恕シ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十日以上九月以下ノ範圍内ニ於テ

二十二日ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付スルモノ也
第千九百四十號

○判文(竊盜及ヒ逃走)明治十六年二月廿八日上告
同 年十二月十三日發付

滋賀縣近江國神崎郡小幡村平民
日雇稼

前 川 新 吉
明治十五年十一月
滿十八年

竊盜及ヒ囚徒逃走被告事件ニ付明治十五年十一月二十五日彦根輕罪裁判所カニ罪ノ内一ツ
ノ刑法第三百六十六條同第三百七十六條同第九十二條同第八十一條ニ從ヒ三月ノ重禁錮ニ
處シ八月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事西村讓ハ上告セリ其要領ハ舊法ニ於
テ處斷シタル者再ヒ罪ヲ犯シ新法ニ於テ重罪輕罪ニ該ルキハ再犯ヲ以テ論スヘキニアラサ
ルハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ被告新吉カ明治十四年中犯シタル罪ヲ同十五年ニ至リ新舊法
ヲ比照シ其輕キ新法ヲ以テ處斷セラレタル罪ヲシテ之レヲ犯數ニ計ヘ再犯ト認メタルハ擬
律錯誤ナリト云フニアリ

對手人前川新吉ハ之レニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審按スルニ

被告前川新吉カ前ニ受ケタル刑ノ言渡ハ明治十四年ニ犯シタル罪ニ對スルモノニテ明治十
五年ニ至リ新舊法ヲ比照シ其輕キ新法ニ依リ處斷セラレタルモ個ハ是特例ニ因レルモノニ

テ其性質タル舊法ノ支配中ニアルコト明瞭ナリ然ラハ則チ其舊法支配ノ下ニアリテ犯シタル
罪ヲ以テ新法上之レヲ再犯ナリト云フヲ得サルヤ論ヲ俟タサルナリ然ルチ原裁判所ハ之レ
ヲ再犯ナリト認メ加重ノ刑ヲ言渡タルハ擬律錯誤ニ係ル上告ノ原因アル被判ナリト判定ス
右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

前 川 新 吉

原裁判言渡シニ認メタル事實ノ理由及ヒ証憑トニ依リ竊盜ノ罪ヲ犯シ且拘留中逃走セン
ト欲シテ其目的ヲ遂ケサルコト明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重
禁錮ニ處ス同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スルモノハ六月以
上二年以下ノ監視ニ附ス

刑法第四百四十四條未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪
ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス其第四百四十二條ニ已決ノ囚徒逃走シタ
ル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス而シテ未遂犯ニ係ルチ以テ同第四百四十九條同第
百十二條ニ照シ一等ヲ減シ二十二日以上四月十五目以下トナルニ罪俱發スルニ因リ刑法
第百條ニ從ヒ一ツノ情狀重キ同第三百六十六條ニ依リ仍ホ齡二十歳ニ滿タサルチ以テ同
第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ニ相當ス
因テ被告前川新吉チ二月十五日ノ重禁錮ニ處シ八月ノ監視ヲ附加スルモノ也
但シ現在スル時計打紐外二点ハ沒収ス

○判文(偽造私書) 明治十六年二月九日上告
年十二月十三日發付

東京府赤坂區青山北町二十七番
地平民

花山院家威

明治十五年十月

同府下谷區練堀町五十番地平民

石内幸平

明治十五年十月

右兩名カ私印及ヒ證書偽造ノ被告事件ニ付明治十五年十月二日東京輕罪裁判所於テ刑法第
二百八條同第二百十條ニ依照シ同第百條ニ從ヒ犯狀ノ重キ第二百十條ニ依リ各重禁錮三年
ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ仍ホ同法第二百十二條ニ照シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁
判ニ對シ被告兩名俱ニ上告ヲ爲シタリ其要領ハ私印私書ヲ偽造シタル等ノ所爲會テ之ナク
原判官ニ於テ偽造シタリト誤認セラレタル戸澤正定連借ノ金員借用証書及ヒ同人ノ委任狀
ハ本人承諾ノ上自ラ証書ニ署名シ且抵當品タル第十五國立銀行株券番号ヲ記入及ヒ委任狀
ハ正定ノ自筆ニシテ毫モ疑フヘキ廉ナシ又印影モ同人自ラ捺押セシモノニシテ偽印ニアラ
ズ然ルニ幸平カ先キニ誤ツテ申立タル口述ト戸田正定等カ陳述ノ如キ薄弱ナル証憑ヲ採テ
有罪ナリト判定セラレシハ不當ナリト云フニ在リ原檢察官ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由

ナキ旨趣ヲ答辨セリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ花山院家威代理人西村楨造ハ
家威上告ノ旨趣ヲ擴張陳辨シテ曰ク第一ニ犯罪タルノ證據一モ之ナキニ判官ノ思想ヲ以テ
空ニ有罪ト判定セラレタルハ越權ノ處分ナリ第二ハ原裁判ハ犯罪ノ理由ヲ明示ナキヲ第三
ハ共犯者トシテ公訴セラレタル秋山儀左衛門ハ却テ私印私書偽造ノ罪アル者ナルニ無罪ノ
言渡ヲナシ無罪タル家威ヲ有罪ナリトセラレタルハ事實ニ齟齬アルトノ第四ハ假リニ原
裁判所カ認定サレタル事實アルトシテ論スルモ家威ハ幸平カ偽造シタル印ヲ証書ニ捺捺シ
タルニ止マレハ偽造シテ使用シタル者ト異ナルヲ以テ刑法第二百十條ノ制裁ヲ受クヘキモ
ノニアラス又証書偽造罪ハ權利義務ニ關スル有無ニ依テ成立モノナレハ家威カ變造シタル
ト云フ金員貸借証ハ戸澤正定カ承諾上ニテ連借人トナルノ後其小部分ヲ記入スルモ權利義
務ニ關セサレハ刑法第二百十條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラサルニ該二條ニ問擬ヒラレタ
ルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ因テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本件ヲ審案スルニ被告兩名カ上告ノ趣意又ハ家威カ擴張趣意ノ第一第二ハ越權或ハ事實ノ
齟齬アルト云フモ其歸スル所探證及ヒ事實判定上ニ對シ之カ當否ヲ論疏スルニ止ルヲ以テ
上告ノ原由ト爲スヲ得ス然リト雖モ原判文ヲ觀ルニ事實判定ノ前項ニ「幸平ハ己レカ偽造
ニ係ル處ノ私印使用ノ法ヲ家威ト謀リ明治十五年一月十七日家威等ヲシテ戸澤正定ニ迫テ
其署名ノ連借証書ヲ得該偽印ヲ捺捺シ併テ第十五國立銀行株券ヲ記入シ及其委任狀ヲ造リ
タル者ニシテ」トアリ之ニ依レハ被告兩名ハ私印ヲ偽造シテ之ヲ使用シタルト証書變造及
ヒ私書偽造ノ三罪ヲ犯シタル者ノ、如クナレヒ其判文ノ末項ニ至リ「共ニ私印私書偽造ノ

實アル者ト判定ス。トアリテ私印私書偽造ノ二罪ヲ犯シタル者ノ如ク而シテ之ヲ使用又ハ行使シタルヤ否ノ理由ヲ明示セサルノミナラス前後齟齬シタル事實ノ理由ニシテ刑ノ適用ニ至リテ之カ當否ヲ鑑別スルニ由ナキ不法ノ裁判ナリトス
右ニ辨明スル理由ナルヲ以テ明治十五年十月二日東京輕罪裁判所ニ於テ花山院家威石内幸平ニ言渡シタル裁判ノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ニ則リ横濱輕罪裁判所へ移シ之ヲ審判セシムルモノ也

第千九百四十二號

○判文(竊盜)明治十六年一月廿九日上告
同 年十二月十三日發付

岐阜縣美濃國羽栗郡笠松村平民

岩 佐 フ シ

明治十五年十二月
四十一年七月

右「フシ」カ被告事件ニ付明治十五年十二月十一日岐阜輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十二月十六日居村ヨリ岐阜へ通行ノ際往來街道ニ干シタル同村杉山傳四郎所有ノ稻壹把竊取シタル所爲ハ刑法第三百七十二條一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ルモ情狀ヲ酌量シ本刑ニ一等ヲ減シ二十二日以上九月以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二十二日ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ照シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事武田直行ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ所爲ハ刑法第三百六十六條ヲ適用スヘキニ原裁判茲ニ出テサルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ被告ハ原裁判相當ナリトノ旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據

リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件上告ノ要旨タル被告ハ既ニ収獲シタル稻ヲ竊取シタルモノナレハ刑法第三百六十六條ヲ適用スヘキニ同法第三百七十二條ニ依リタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フト雖モ前三百七十二條ニ曰ク田野ニ於テ穀類菜草其他ノ產物ヲ竊取シタル者ハ云々トアリテ其穀類等ハ収獲シタルト否トチ區別シ罰スルノ法章ニアラサレハ原裁判所ニ於テ被告カ所爲テ該條ニ擬シ斷了セシハ素ヨリ至當ニシテ上告論旨ノ如ク刑法第三百六十六條ノ支配スヘキモノニ在ラストス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第千九百四十三號

○判文(度量衡犯則)明治十六年一月三十一日上告
同 年十二月十三日發付

岩手縣陸中國西磐井郡下黒澤村

平民農業

佐々木太郎左衛門

明治十五年十二月
四十四年九月

右佐々木太郎左衛門カ被告事件ニ付明治十五年十二月一日磐井輕罪裁判所於テ被告ハ未ダ檢査ヲ經サル所持ノ秤量ヲ以テ薩摩芋ヲ阿部「キツ」ナル者ニ賣渡シタル証憑明瞭ナリ是ニ於テ檢察官ノ述ル該訴放棄ノ意見ヲ聽キ此所爲ハ明治九年第十七号布告第二條ニ掲ケタル犯罪ト雖モ本條各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條以前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日迄右改所ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ以テ商業上ニ用ユルヲ

禁ストアリテ明治十四年第七十二号布告第四條法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアル外ナルニ付刑法第二條ニ依リ免訴ヲ言渡スモノナリトノ裁判ヲ不當トシ同裁判所檢事補福島小太郎カ上告爲シタル要領ハ被告カ所爲ヲ明治九年第十七號布告第二條ノ禁止ニ違背シタル者トシタルコトハ該裁判所ノ明認スル所ナレハ茲ニ之ヲ詳陳スルヲ要セスト雖本職ノ該裁判ヲ不當トスル所ハ明治九年第十七号布告第二條ハ明治十四年第七十二号布告第四條ノ外トシテ免訴ヲ言渡シタルニアリ明治九年第十七号布告第六條ニ第四條以下ノ禁令ヲ犯スモノハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキコト明治九年二月二十二日史官ノ報告ニ本年第十七号布告度量衡三器改正規則第六條中「第四條以下」ハ「第二條以下」ノ誤リトアリ又明治十四年第七十二号布告第四條ニ法ニ照シ律ニ照シ若クハ云々總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアレハ被告ハ則チ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ且其商業ニ用ヒタル無檢印ノ權衡ヲ沒収スヘキモノナルニ之ヲ無罪トナシタルハ不當ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ適應スルモノナリト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ原裁判所カ認定シタル事實ニ對シテハ上告旨趣ノ如ク明治九年第十七號布告ヲ以テ明治十四年第七十二號布告第四條ニ照シ處斷スヘキハ相當ナルニ原裁判玆ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百廿九條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ大審院於テ直ニ判決スル左ノ如シ

佐々木太郎左衛門

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ明治九年第十七號布告第二條各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候

條以前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日迄ニ右改所ニ差出シ檢査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルコトヲ禁ス云々其第六條第四條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其器取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事トアリ而テ明治九年二月廿二日史官ヨリ本年第十七號布告度量衡三器改正規則第六條中「第四條以下」ハ「第二條以下」ノ誤ト達シタルニ依照スレハ被告カ所爲ハ明治十四年第七十二號布告第四條法ニ照シ律ニ照シ云々貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該ルヲ以テ右範圍内ニ於テ罰金貳圓ニ處シ無檢印ノ秤量ハ之ヲ沒収スルモノ也

第一千九百四十四號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年二月廿三日上告
 同 年十二月十三日發付

兵庫縣播磨國飾東郡北條口士族
 政記三男無職業

鎌

原 幸 二

明治十五年十二月

右幸ニカ被告事件ニ對シ明治十五年十二月六日姫路輕罪裁判所於テ被告ハ學術演說席ニテ聳者ノ待遇ト云フ演說題ノ演說中太政大臣以下ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ト判定シ刑法第百四十一條ニ依リ給未タ二十歳ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ二十五日ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ被告幸ニカ上告爲シタル要領ハ本會ハ學術會ニシテ教育ノ道ヲ講讀セシモノニテ太政大臣云々ノ如キハ則

引例シタルニ過キサレハ刑法ニ觸ル、モノニアラスト云フニ外ナラス又趣意書第二條ニ公判々事カ拘引狀ヲ發シテ事實ヲ訊問スルカ如キハ固ヨリ宜キモ一回ノ應答モナク輕々シク偏見ヲ持シ事ノ是否罪ノ有無ヲモ察セス直ニ拘留狀ヲ發シタルハ治罪法第二百六條ニ違ヒタル不法ノ所分ナリ云々論告スルニアリ同裁判所檢事補岡本綴治ハ原裁判相當ニシテ又本件ノ如キ豫審ヲ經サル輕罪事件ニ付テハ公判々事ハ拘留狀ヲ發シ得ヘキモノニテ右等ノ場合ニ於テハ豫審判事カ爲スヘキ所ノ手續ヲ履ムニ及ハサルモノト信認スト答辨シタリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

本案上告ノ旨趣タル本會ハ學術ノ演說ニシテ太政大臣初メテ引例シタルニ止リ之ヲ侮辱シタルニアラスト云フト雖總テ會同ノ學術タルト否トニ拘ラス其演スル所ノ事實果シテ侮辱ニ涉ルヲアラハ刑法ノ問フ所ナルハ論ヲ俟タズ即チ被告人カ犯罪ノ事實ニ付キテハ原裁判官ニ於テ太政大臣以下ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ナリト判定シタルモノナレハ之ヲ輒ク非難シ得ヘキモノニアラス何ントナルニ事實ノ判定及ヒ證據ノ取捨ハ原裁判官ニ專任スル所ノ職權内ニ屬スルモノナレハナリ將タ公判々事カ一應ノ訊問モナク拘留狀ヲ發シシハ治罪法第二百六條ニ違背セル所分ナリトシ上告爲スト雖モ登時果シテ被告人カ云ヘル如キ處分アリテ之レニ服從シ難キキハ公判ニ臨ミ治罪法第三百二條ニ從ヒ異議ノ申立ヲ爲スヘキニ原書類中其申立アリタルヲハ視ルヘキノ証徴ナキノミナラス公判始末書ニ徵スルニ被告ハ直ニ本件ノ辨論ヲ爲シタルモノナレハ既ニ該申立ノ權利ヲ拋棄シタルモノニシテ假令ヒ原裁判官カ治罪法第百廿六條ニ背戾スル處分アリトスルモ之ヲ以テ上告ノ原由トスルヲ得

サルモノトス故ニ本案上告ハ併セテ相立サルモノナリ依テ同法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

第千九百四十五號

○判文(毆打創傷) 明治十六年二月十五日上告 同 年十二月十三日發付

三重縣伊勢國度會郡田丸町平民 質屋業

岡村鹿三郎

明治十五年十一月 三十四年六月

右鹿三郎カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十二日山田輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十月二十四日山田倭町阿竹「マツ」方ニ於テ同郡田丸町西山吉五郎ト口論ノ末互ニ組合吉五郎カ右手ノ小指ニ咬付キ創傷ヲナシ二十日以上ノ時間職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタルモノト判定シ刑法第三百一條第一項ニ照シ重禁錮一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告鹿三郎カ上告爲シタル主要ハ被告ノ所爲タル原ト正當防衛不得已ニ出ツルモノナレハ刑法第三百九條若クハ同法第七十五條ニ照スヘキハ勿論其傷所タル小指ニ在レハ疾病休業等ノ結果ヲ來スノ理ナキノミナラス醫師ノ診斷書ニ依ルモ亦數日ニシテ治癒ノ見込アリトノナレハ假ニ正當防衛ニアラストスルモ刑法第三百一條第三項ニ擬スヘキモノナリ若シ又右兩項ノ判定ナキトスルモ下手ノ前後ヲ認ムヘキ證據ノナキニ由リ同法第三百一條第一項ノ刑ヨリ二三等ヲ減輕ルヘキモノナリ然ルチ原裁判ハ此數項外ニ出テシハ何レモ不當

ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補柏田諫見ハ原裁判至當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ
リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ頗ル多端ニ涉ルト雖モ歸スル處探証及ヒ事實判定ノ當否ヲ訴フルニ外ナラス
シテ治罪法第四百十條第一項乃至第十一項ニ定メタル規則外ノ事柄ニ係ルヲ以テ上告ノ原
由ト爲スヲ得サルモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也
第一千九百四十六號

○判文(氏名詐稱及ヒ侮辱)明治十六年一月十六日上告
年十二月十三日發付

宮崎縣日向國臼杵郡延岡柳澤町
居住平民常三郎長男

中村初三郎

明治十五年十一月
十九歲二ヶ月

屬藉ヲ詐稱シ官吏ヲ侮辱シタル被告事件ニ件明治十五年十一月八日人吉治安裁判所ニ開キ
タル熊本輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第二百三十一條及ヒ第四百一十一條
ヲ適用スヘキニ罪俱發スルヲ以テ刑法第一百條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ刑法第四百一十一條ニ依
リ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ處斷スヘキ者ナルモ二十歲未
滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ從ヒ一等ヲ減シ重禁錮六月ニ處シ罰金貳拾五圓ヲ附加スト
ノ言渡ヲ爲シタリ

被告中村初三郎ハ該裁判ニ服セスシテ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ政談演說開筵ニ際シ其演題

ノ屆書ニ郡名詐稱ノ罪アリトシテ處斷セラル、モ固ヨリ故意ヲ以テ詐稱シタルニアラス其
證ハ正副二通ヲ人吉警察署へ差出シ其一通ハ諸縣郡トアルモ下渡サレタル一通ニハ被告人
カ本郡タル臼杵郡ト記載シアレハ筆者ノ誤記ニ係ルヲ明瞭タル可シ何トナレハ同時ニ差出
ス書面ニ詐稱ス可キ謂レナケレハナリ又夢中ノ譬喩ヲ以テ沼警部ノ職務ニ對シ侮辱シタル
者トノ判定ヲ與ヘタレモ夢ハ精神ノ疲勞ニ因リ種々雜多ノ事ヲ夢ミル者ニシテ當時被告人
カ演ス可キ野蠻政府ノ義解中其三起源ヲ辨スルニ方リ閉塞ノ譬喩ニ適中スルヲ以テ奇妙ナ
ル多ヲ見云々ヲ以テ愚夫愚婦ニモ解シ易カラント勉メ演述シタルニ過キサレハ毫モ人ヲ
侮辱スルノ精神ニアラサルヲ明察スルニ足ル可シ然ルニ原裁判所カ刑ノ適用ヲ爲シタル
ハ不法ナルニ付更ニ公明ノ裁判ヲ仰クト謂フニ在リ

對手人檢察官警部代理巡查國友角馬ハ上告ノ論旨ヲ辨駁シ原裁判不當ノ廉ナキ理由ヲ詳述
セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣旨ハ原裁判
官カ認視シタル事實ノ判定ニ不服ヲ鳴スニ過キサレハ其理由不相立者ト思考スル旨陳辨セ
リ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

本案侮辱事件ハ原裁判官於テ被告人ノ所爲ハ政談演說中夢ニ託シ警部沼正直ノ職務ニ對シ
侮辱シタル者ト其事實及ヒ法律ノ理由ヲ付シ裁判シタル者ナリ被告人ハ之ヲ一時ノ譬喩ニ
過キサル者トシ無罪ナル旨論告スト雖モ事實ノ認定ハ法律上裁判官ニ任從シタル者ナレハ
之ヲ動かスニ由ナキ者トズ又詐稱事件ハ上告論旨ノ如ク果シテ人吉警察署ニ差出シタル演

題屆書正副二通ノ内其一通ハ諸縣郡ト記シ其一通ハ白杵郡ト記シタル者ナレハ詐稱罪ノ成立サル無効犯ナリト言ハサルヲ得ス然レモ本院ハ被告人カ提供シタル贖本ヲ以テ事實ノ如何ヲ再審ス可キ所ニアラサレハ上告ノ原由ト爲スヲ得ス假令無効犯ニシテ罪ノ成立サル者トスルモ被告人ハ數罪併發例ニ依リ一ノ重キ刑法第四百一十一條ニ從ヒ處斷ヲ受ケタル者ナレハ其利害ニ影響ヲ及ホサ、ルヲ以テ破毀ノ限ニアラサル者トス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第千九百四十七號

○判文(賭博) 明治十六年三月十四日上告
同 年十二月十三日發付

山梨縣甲斐國東八代郡英村平民
農

中 川 武 啓

明治十五年十一月
四十四年九月

同縣同國同郡一櫻村平民農

菽 原 久 一

明治十五年十一月
四十四年九月

同縣同國同郡清野村平民農

榎 原 周 兵 衛

明治十五年十一月
四十六年七月

同縣同國東八代郡錦村平民農

角 田 明 吉

明治十五年十一月
三十七年

同縣同國同郡清野村平民農

酒 井 惣 兵 衛

明治十五年十一月
四十四年十月

右武啓外四名カ被告事件ニ付明治十五年十一月十一日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告等ハ賭博ヲ犯シタルモノト認定シ刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮二月ニ處シ罰金十圓ツ、附加シ賭博ノ器具及ヒ金拾六錢八厘ハ沒収スト言渡シタル裁判ニ對シ被告上告ノ旨趣ハ武啓及ヒ惣兵衛ハ賭博ヲ企タルモ未ダ手合ニ至ラス久一ニ於テハ賭博ヲ爲サンコトヲ勸メテレタルモ相斷リタリ周兵衛及ヒ明吉ニ於テハ武啓方ニ參リタル折柄突然巡查ニ捕リ押ヘテレタリト云フニアリ爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
凡ソ上告ヲ爲スノ場合ハ治罪法第四百十條ニ依ラサルハ勿論ナリ今被告カ上告旨趣ノ歸着スル所ハ犯罪ノ事實判定上ニ不服ヲ鳴スニ過キサレモトス然ルニ衆證ニ依リ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ專ラ裁判官ニ任スル所ノ職權ニ在リ故ニ被告ニ於テ其職權ニ侵入シタル申立ハ總テ同條ニ則ラサル上告ニシテ其原由ナキモノトス因テ本件ハ治罪法第四百廿七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第千九百四十八號

○判文(水利妨害) 明治十五年十二月廿五日上告
全 十六年十二月十三日發付

秋田縣羽後國由利郡出戸村三番
地平民

齋 藤 惣 兵 衛

明治十五年八月
五十一年

同縣同國同郡同村平民

石 川 鉄 吉

明治十五年八月
二十三年

水利妨害被告事件ニ付本莊治安裁判所ニ開シ秋田縣罪裁判所ニ於テ刑法第四百十三條ニ據
リ重禁錮一月罰金二圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ右被告人之ヲ不當ナリトシ上告セ
リ其要領ハ官有地ヲ擅ニ穿タルハ不都合ト雖モ中村喜代助外一名カ許可ヲ得テ穿タル飲用
水ニ供スル水源ノ堰ヲ三四間穿テ足シタル迄ニテ敢テ妨害シタルニアラスト云ニアリ
同所檢察官大久保千集ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シテ其原由ナキヲ答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ
上告趣意書ヲ差出スヘキ期限ハ其申立ヲ爲シタルヨリ滿五日ナリトス本案被告事件ノ裁判
言渡ハ明治十五年八月二十一日ニシテ被告等カ上告申立ヲ爲シタルハ同月二十二日ナリ而
シテ其翌日即二十三日ヨリ起算スレハ最終ノ日休暇ニ當ルヲ以テ之ヲ除キ滿五日ハ同月二
十八日ナリ然ルニ同月二十九日ニ至リ上告趣意書ヲ差出シタルハ則チ治罪法第四百十七條

ノ期限ヲ經過シタルモノニシテ同法第二十條ニ依リ上告ヲ爲スノ權ヲ失ヒタルモノトス因
テ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第千九百四十九號

○判文(竊盜) 明治十六年二月廿二日上告
全 年十二月十三日發付

愛媛縣伊豫國宇摩郡大町村平民

高 橋 柳 松

明治十五年十一月
四十四年

明治十五年十一月二十二日西條治安裁判所ニ開キタル松山縣罪裁判所ニ於テ右高橋柳松カ
竊盜被告事件ヲ審理シ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ重禁錮四月監視六月ニ
處シタリ

原裁判所檢察官警部代理愛媛縣巡查武智徳重郎ハ之ヲ不法トシ上告シタルノ要旨ハ被告人
柳松ハ賭博ノ罪アリ先ニ同一ノ裁判所ニ於テ重禁錮五十日附加罰金五圓ノ判決ヲ經裁判確
定ノ後チ竊盜ヲ犯シタルモノニシテ即チ輕罪ノ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ依リ本
刑ニ一等ヲ加重スヘキ者ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ檢案スルニ被告人柳松ハ明治十五
年八月二十四日賭博罪ヲ犯シ其月三十一日ヲ以テ重禁錮五十日罰金五圓ニ處セラレ裁判確
定ノ後チ竊盜ヲ犯シタル者ナルハ訴訟書類ニ徴シテ明確ナリ故ニ竊盜罪ハ再犯ニ係ルヲ以
テ刑法第九十二條ヲ適用シ加重ヲ爲サルヘカラサルニ原裁判爰ニ出ス初犯ヲ以テ論シタ

ルハ即チ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

高橋柳松

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依リ刑ヲ科スヘキ處先ニ賭博罪ヲ犯シ重禁錮五十日附加罰金五圓ニ處セラレ即チ再犯ニ係ルヲ以テ同第九十二條先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フトアルニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ該リ仍ホ同第三百七十六條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ依リ其範圍内ニ於テ重禁錮五月監視七月ニ處スルモノ也

第千九百五十號

○判文(詐欺取財)全 明治十六年一月十八日上告 年十二月十三日發付

岡山縣備前國邑久郡尾張村平民

岡竹吉太郎

三十八歲

同縣同國同郡豐原村士族

今田秀太郎

明治十五年十一月三十四歲

明治十五年十一月十三日岡山輕罪裁判所會議局ニ於テ右岡竹吉太郎今田秀太郎カ詐欺取財被告事件ニ付豫審終結ノ言渡ニ對スル故障申立ヲ判決シ豫審判事ノ言渡ハ管轄違又ハ越權ノ處分アルニ非スシテ故障ノ趣意ハ治罪法第二百四十六條第三項ニ適當セサルヲ以テ之ヲ棄却スト言渡シタリ被告人二名ハ其判決ニ服セス各自ニ上告ヲ爲シ吉太郎ハ地所ヲ二重抵當トナシ金圓ヲ騙取シタルノ所爲ナキニ豫審判事ハ告訴人カ誣罔ノ申立ヲ信認シ審理ヲ盡サスシテ有罪ノ判定ヲ下シタルハ不當ナリ且一ノ拘留狀ヲ以テ十月六日ヨリ二十四日迄十九日間留置シタルハ治罪法第二百二十七條ノ法章ニ違背セリト論告シ秀太郎ハ他人ヨリ委託セラレタル權利ニ關スル證書ヲ騙取シタル所爲ナキニ因リ犯罪ノ證據アルニ非ス然ルニ豫審判事ハ被告カ利益トナル證人ノ陳述ヲ擯斥シ告訴人等カ詐僞ノ申立ノミヲ採用シタリト論告シ其要点ハ共ニ原會議局ハ豫審判事カ無罪人ヲ有罪ト判定シタル不法ノ言渡ヲ認可シタルハ即チ治罪法第四百十條第十項第十一項ニ該當スル判決ナルヲ以テ破毀ヲ請願スト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スヲ左ノ如シ
本案豫審終結ノ言渡ヲ檢閱スルニ豫審判事ハ諸般ノ證據ヲ集取シテ被告人等ハ共ニ刑法第三百九十九條ヲ適用スヘキ犯罪アリト判定シ輕罪公判ニ付スルノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ固ヨリ管轄違又ハ越權ノ處分アルニ非ス故ニ會議局ニ於テ其言渡ヲ認可シ故障ヲ棄却セシハ相當ノ判決ニシテ擬律ノ錯誤アリ越權ノ處分アリト謂フヲ得サルナリ而シテ上告ノ旨趣ハ事實證據ノ有無ヲ陳辨シ漫ニ豫審判事カ判定ノ當否ヲ論難シ以テ會議局ノ判決ニ對シ

不服ヲ訴フルニ過キス特ニ豫審判事カ一ノ拘留狀ヲ以テ十九日間被告人ヲ留置シタルハ令狀ノ規則ニ違フモノナルモ被告人ハ其處分ニ對シ故障ノ申立ヲ爲サス已ニ故障ノ權利ヲ拋棄シタルニ因リ亦上告ヲ爲スノ權ヲ失フモノトス之ヲ要スルニ本件上告ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノト確認ス依テ同第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千九百五十一號

○判文(竊盜)全 明治十六年三月二十日上告 年十二月十三日發付

石川縣越中國上新川郡富山旅籠 町士族

中川 拾次郎

明治十六年二月二十三年

右拾次郎カ被告事件ニ付明治十六年二月十四日富山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ勝守宗次郎カ商品タル靴一足ヲ竊取シタルモノトシ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮二月十五日監視六月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告拾次郎ハ明治十六年二月十六日上告申立ヲ爲シ明治十六年二月二十二日趣意書ヲ差出タリ因テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十七條上告申立人ハ其中立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ同法第二十條此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時

ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアリテ本案上告ハ規定ノ期限經過シテ趣意書ヲ差出シ且特別ノ場合アルモノニ非サレハ既ニ上告ノ權ヲ失フタルモノトス因テ本件ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也 第千九百五十二號

○判文(証券印稅犯)明治十五年十二月廿八日上告 明治十六年十二月十三日發付

茨城縣常陸國新治郡土浦大町平民

杉山 久八

明治十五年十一月三十九年二月

埼玉縣兒玉郡本庄驛四百三十四番地平民

江原 茂四郎

明治十五年十一月四十七年

証券印紙規則違犯被告事件ニ付土浦輕罪裁判所ニ於テ刑法第五條証券印紙規則第一條同第二則第一條同第四則第二條ニ據リ久八ハ對シ脫稅高二十倍茂四郎ニ對シ脫稅高ノ十倍ノ罰金ニ處シタル裁判ニ對シ檢察官山口重理ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ証券印紙規則第四則第七條ニ違犯セシモノナレハ証書渡入久八ハ十倍受取人茂四郎ハ五倍ノ罰金ヲ言渡サ、ルハ不當ト云フニアリ

對手人江原茂四郎ハ原裁判ハ不當ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以テ審接スルニ
 被告兩名カ間ニ於テ金預リ証書三通ヲ授受セシニ金高六百圓ナレハ六十錢ノ印紙ヲ貼用セ
 スンハ有可カラサルニ一通毎ニ一錢ツ、ヲ貼用シ五十七錢減稅シタルモノナレハ檢察官上
 告論旨ノ如ク証券印紙規則第四則第七條明治八年四月第五十一號布告改正條ヲ適用スヘキ
 ニ原裁判所ニ於テハ印紙脫稅シタル者ニ適用スヘキ同規則第二條ニ據リテ斷定シタルハ不
 當ノ裁判ナリト判定ス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之カ全部ヲ破毀シ直ニ判決スル左
 ノ如シ

杉山久八
 江原茂四郎

前ニ說明スル如ク被告兩名カ証券印紙六十錢貼用スヘキニ三錢ヲ貼用シ五十七錢減稅シタ
 ル事實明瞭ナルヲ以テ刑法第五條ニ照シ証券印紙規則第一條同第二則第一條第二類末項ニ
 右ノ証書類ハ金高三十圓以上四十圓未滿印稅三錢右以上幾許ノ高ニ到ルモ總テ之レニ準シ
 印稅增加イタスヘシトアル又同第四則第七條明治八年四月第五十一號布告諸証書帳簿ニ証
 券印紙不足ニ貼用セシモノハ其減稅高ノ十倍其証書ヲ受取リタルモノハ減稅高五倍之過
 料タルヘキトアルニ依リ証書渡人杉山久八ハ減稅五十七錢ノ十倍金五圓七十錢証書受取
 人江原茂四郎ハ同五倍金二圓八十五錢ノ罰金ニ處スルモノ也
 第千九百五十三號

○判文(竊盜)明治十六年一月廿九日上告
 同 年十二月十三日發付

茨城縣下總國北相馬郡筒戸村平
 民

石塚由兵衛

竊盜被告事件ニ付明治十五年十二月九日土浦輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十二條第三百
 七十三條第三百七十六條ヲ適用シ重禁錮三月監視七月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告人
 石塚由兵衛ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ニ於テ木村要藏ノ爲メニ竹ヲ賣却シタルモノ
 ニシテ固ヨリ竊取ノ所爲アルニ非ス然ルニ原裁判官ハ事實ヲ審究セシテ不當ノ推測ヲ下
 シ竊盜ノ罪アリト斷決シタルハ言渡ノ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判
 所檢事補恒河修一郎ハ上告趣意ノ不當ナル旨ヲ辨駁シ且附帶ノ上告ヲ爲シ被告人カ他人所
 有ノ竹五十九束ヲ竊取セシ事實判然明白ナルニ原裁判所カ二十五束ノ外ハ竊取ニ非スト判
 決セシハ事實ノ理由ニ齟齬アルナリト論決セリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式
 ヲ履行シ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ被告人及ヒ原檢察官カ論決ノ旨趣ハ專ラ裁判官ノ認
 定セシ事實ノ不當ヲ辨スルニ過キサルヲ以テ固ヨリ相立タサルモノトス然レトモ原裁判ニ
 確認シタル事實ニ據レハ山林ニ於テ竹木ヲ伐取セシニ非スシテ既ニ其所有主ノ勞力ニ因リ
 伐採蓄積シアルヲ竊取セシモノナレハ刑法第三百六十六條ノ竊盜ヲ以テ論スヘキニ原裁判
 之ニ反シ同第三百七十三條ヲ適施セシハ擬律ノ錯誤ナリト思考スルヲ以テ附帶ノ上告ヲ爲

シ破毀ヲ求ムト陳述シタリ依テ判決ヲ爲ス左ノ如シ
 被告人上告ノ旨趣ハ事實證據ノ有無ヲ陳辨シテ裁判官ノ判定ニ對シ漫ニ不服ノ旨ヲ訴フル
 ニ過キス原檢察官ノ附帶上告モ亦單ニ事實ノ不當ヲ論難スルモノニシテ共ニ治罪法第四百
 十條ニ規定シタル上告ヲ爲スヲ得ルノ原由ナキモノトス而シテ本院檢事ニ於テ原裁判所
 カ刑法第三百七十三條ヲ適用セシテ以テ錯誤ナリト論告スルモ同條ニハ山林ニ於テ竹木礦
 物其他ノ產物ヲ竊取シ云々トアリテ其已ニ伐採シタル物ト否トヲ區分シタルニ非サレハ所
 有主ノ勞力ニ因リ伐採積聚シタル物品ト雖モ山林ニ於テ之ヲ竊取シタル時ハ仍ホ同條ニ照
 依スヘキモノニシテ原裁判ハ擬律ノ錯誤アルニ非サルナリ
 右ノ理由ナルニ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告及ヒ附帶上告ヲ棄却スル
 モノナリ

第九百五十四號

○判文(賭博) 明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十二月十三日發付

大坂府島下郡南村百二十九番地
居住平民農業

吉

本 源 七

明治十五年十一月
四十歲十月

賭博犯罪被告事件ニ付明治十五年十一月八日大坂輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ土本
 友助外數名ノ者ト金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲シタル罪證明確ナリト判定シ刑法第二百六十一條ヲ

適用シ重禁錮一月罰金五圓ニ處斷セリ

被告吉本源七ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ上告人ニ於テ毫モ犯罪ノ覺ヘナキヲ
 以テ原裁判所ニ於テ飽マテ其旨ヲ辨解シタリ然ルニ曾テ面識タモ之レナキ土本友助カ口供
 ナ偏信シ或ハ巡查荒井政基カ上申書ニ因リ有罪ノ判定ヲ下スト雖モ他ノ一方ト符合セサル
 陳述ハ證據ト爲スニ足ラサルノミナラス巡查ノ上申書ヲ觀レハ友助カ取押ヘラレタル節南
 村要助ト申者ト博奕ヲ爲シタリト友助カ申居タリトノミアリテ巡查自ラ撞見シタリト云フ
 ニアラス固ヨリ其場ニ居合セサレハ見答メラル可キ謂レモ之レナシ且共犯者ト指定サレタ
 ル土本友助カ現行犯ノ場ニ在テ捕ヘラレタルハ明治十五年二月廿日ニシテ上告人カ共犯ナ
 リトシテ拘引セラレタルハ明治十五年九月廿三日ニ在レハ其犯シタリト云フノ時ヨリ其間
 七八月ヲ隔テタリ之ヲ以テ現行犯罪ナリト爲スヲ得ヘキヤ決テ其理ナキヲ信ス況ヤ賭博ヲ
 犯シタルノ無ク又其犯ス方法モ知ラサルニ於テチャ是レ原裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ナリト
 痛論シ對手人檢事補大野吉利ハ被告人ノ上告ハ徒ニ事實認定ノ如何ニ付不服ヲ稱ヘ其無罪
 ナルヲ主張スルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ規定スル所ニ適當セサル者ナリト答辨セ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告ノ論旨
 ハ原檢察官答辨ノ如ク不相立者ト思考スレハ原裁判モ亦瑕瑾アルヲ以テ茲ニ其趣意ヲ述テ
 以テ附帶ノ上告ヲ爲ス可シ原裁判言渡書ヲ檢スルニ被告人ハ明治十五年二月廿日夜島下郡
 小路村古本忠七方ニ於テ土本友助外數名ト金錢ヲ賭ケ博戲ヲ爲シタル事實ハ云々トアルノ

ミニシテ現ニ其罪ヲ犯シタルヤ否ヤノ事實ハ之ヲ明示セサルヲ以テ被告人ハ果シテ刑法第
二百六十一條ノ制裁ヲ受ク可キ者ナルヤ否ヲ檢スルニ由リテ依テ治罪法第四百十條第九項
ノ理由ニ觸ル、裁判ナルヲ以テ破毀シテ相當ノ裁判所ニ移サレシトシテ望ムト開陳セリ依テ
審理判決スルヲ左ノ如シ

被告人ノ上告論旨ハ原裁判官カ認定シタル事實ノ理由ヲ辨駁スルニ過キヌシテ治罪法第四
百十條ニ定メタル項目外ニ涉ルヲ以テ之ヲ採用スルニ由リ無キ者ナリ然レモ附帶上告ニ辨
明スル如ク原裁判官渡書ニハ被告人カ古本忠七方ニ於テ土本友助外數名ト金錢ヲ賭ケ博戯
ヲ爲シタルコトヲ証シ其現行犯ニ係ルヤ否ヤハ明示セサルノミナラス訴訟書類ヲ閱スルニ被
告吉本源七カ賭博ヲ爲シタルト云フハ明治十五年二月十日ニシテ巡查播磨次郎外二名カ
其犯罪ノ上申ヲ爲シタルハ明治十五年三月三日ニ在レハ現場臨檢シテ作りタル告發書ノ効
力ヲ有セサル者ノ如シ由是觀之被告人カ所爲ハ刑法第二百六十一條ノ問フ處ナリヤ否ヤ原
裁判官カ事實ノ理由ヲ明示セサルニ因リ之ヲ監査スルニ由リ無キ者ニシテ治罪法第四百十
條第九項ニ相當スル上告ノ理由アル者トス

右ノ理由ナルヲ以テ被告吉本源七カ上告ハ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ本院檢事
池上三郎ノ附帶上告ニ原キ治罪法第四百廿八條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ神戸輕罪裁判所ニ移
シ更ニ審判セシムル者也

第九百五十五號

○判文(印影盜用)明治十六年三月六日上告
年十二月十三日發付

大坂府大和國葛下郡王寺村平民
農

松 浦 嘉 四 郎

明治十五年十一月
五十五年生月不詳

右嘉四郎カ被告事件ニ付明治十五年十一月廿九日奈良輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年
九月廿五日同村松浦彌三郎外一人カ家資分散ノ際其財產藏匿ノ所爲ヲ石田作平カ見受ケテ
リト虚偽ノ上申書ヲ詐爲シ同人ノ名義ヲ連署シ其名下ニ作平ノ印影ヲ盜用シテ檢事ニ呈供
シタル者ト認定シ刑法第二百八條第二項及ヒ同法第二百十條第二項ニ照シ同法第百條ニ依
リ一ノ犯情重キ同法第二百八條第二項ヲ適施シ重禁錮五月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ尙ホ同
法第二百十二條ニ照シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告嘉四郎カ上告爲シタ
ル主要ハ被告於テ右等犯罪ノ覺ヘ毫モ之ナキニ一朝此冤罪ヲ蒙リタル所以ハ畢竟告訴人共
ノ奸計ニ罹リ其誣言ニ陥リ而シテ被告ノ之ヲ充分辨護シ得サルニ出ツ故ニ原裁判ハ不服ナ
リト云フニ在リ原裁判所檢事補伊藤安靜ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ茲ニ專任判事ノ報
告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ要旨被告ハ告訴人ノ誣言ニ陥リタルモノニシテ固ト無罪ナリト主張スト雖モ是全ク
事實上ノ論告ニシテ治罪法第四百十條第十一項ノ規定外ニ涉リ上告ノ理由ナキノミナラス
試ニ原訴訟書類ヲ調査スルニ本件ノ告訴ヲ誣告ナリト認ムヘキ證據ノ端緒タモアルニア
ラサレハ右告訴人ノ誣告ニ陥リタル云々ノ申分ハ是其口實ニ過キサルモノトス依テ治罪法

第四百廿七條ニ遵ヒ該上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百五十六號

○判文(賭博)明治十六年二月廿二日上告
年十二月十三日發付

兵庫縣但馬國七美郡村岡町平民
日雇稼

榊 井 與 八 郎

明治十五年十一月

四十九歲

明治十五年十一月二十九日豐岡治安裁判所ニ開キタル姫路輕罪裁判所ニ於テ右被告人榊井與八郎ニ對シ賭場ヲ開張シ博徒ヲ招結シタル罪アリトシ刑法第二百六十條ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ黑野權三郎宅ニ至リタルハ已ニ衆人會合ノ後ニ在リテ固ヨリ賭場ヲ開張シ博徒ヲ招結スル等ノ所爲ナシ從テ犯罪ノ證據アルニ非ス然ルニ原裁判所カ毫モ其所爲ナキ者ニ對シ刑ヲ言渡シタルハ事實ノ理由ニ齟齬アル不當ノ裁判ナリ又假リニ賭博犯者ナリト看做スモ刑法第二百六十條ヲ適用セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告事件ヲ審理シ被告人カ現場ノ供述巡查ノ告發調書及ヒ上申書其他證據物件證人ノ申立等ニ依リ犯罪ノ事實ヲ判定シ法律ニ照シ相當ノ刑ヲ言渡シタルモノナレハ擬律ノ錯誤アルニ非ス事實ノ理由ニ齟齬アルニ非サルナリ而シテ上告ノ旨趣ハ徒ニ事實証

憑ノ有無ヲ陳辨シ裁判官カ判定ノ當否ヲ論難スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス依テ同第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

第千九百五十七號

○判文(毆打創傷)明治十六年一月十七日上告
年十二月十三日發付

埼玉縣武藏國大里郡熊谷驛二百
九十九番地平民

伊 藤 正 則

明治十五年十一月

二十九歲

右正則カ被告タル毆打創傷及ヒ衣類毀棄ノ事件ニ付明治十五年十一月十日熊谷輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年六月三日大村代次郎ノ咽喉ヲ絞メ爲メニ疾病休業ニ至ラシメサルモ負傷セシメタルモノト判定シ而シテ被告カ右代次郎及ヒ其妻「イッ」ノ衣類ヲ破毀シタル所爲ハ故意ニ出テタルニアラサレハ無罪トナシ單ニ刑法第三百一條末項ニ照シ重禁錮二十日ニ處スル旨言渡シタル裁判ニ對シ被告正則カ上告爲シタル主要ハ被告於テ大村代次郎及ヒ其妻ニ對シ暴行ヲ加ヘタルヲ之レナキノミナラス被告カ所爲タル被盜品ヲ取戻スカ爲メニ出レハ不論罪トナルヘキモノナリ然ルニ原判文ニ大村代次郎ノ咽喉ヲ絞メ且同人及ヒ其妻ノ衣類ヲ破毀シタリト掲ケ遂ニ被告カ竊盜云々ノ申立ヲ採用ナクシテ毆打創傷ノ罪アリト斷了セラレシハ共ニ不當ナリト云フニ在リ原裁判所檢事補水郡長義ハ本案上告ノ旨趣其

二百九

理由ナキ旨ヲ答辨シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ代次郎等ノ衣類ヲ破毀シタル所爲ハ是又故意ニ出タルモノナルニ原裁判官ハ然ラスト認メ此所爲ヲ無罪トナセシハ不當ナリト云フニ在リ玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ被告カ論告スル大村代次郎及ヒ其妻ニ對シ暴行ヲ加ヘタルヲ之ナキトノ點ハ公判始末書豫審終結言渡書及ヒ告訴狀等ニ徵スルニ本件ノ被害者ハ佐藤代次郎及ヒ其妻「ツチ」ナルヲ明瞭ナリ然ルニ原判文ニ大村代次郎并ニ其妻「イッ」ニ暴行ヲ加ヘシトアルハ全ク其誤記ニ出テタルモノニ過キサレハ之ヲ改正スルニ止メ全部ヲ破毀スルノ限リニアラストス其他被告カ不當トスル處ノ事柄及ヒ檢案官カ附帶上告ノ旨趣ハ何レモ事實ノ判定上ニ係リ治罪法第四百十條ノ規則外ニ涉ルヲ以テ其論旨ハ總テ相立タサルモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ本案及ヒ附帶ノ上告ヲ併セテ棄却スルモノ也

第九百五十八號

○判文(謀殺未遂) 明治十六年二月二日上告
同 年十二月十四日發付

神奈川縣相模國高坐郡草柳村平
民

柳

澤 榮 玉
明治十五年十一月

四十五年

右榮玉カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十八日神奈川重罪裁判所於テ被告榮玉ハ明治十五年六月一日酒醉ノ上出宅シ上草柳村ニ趣カント道ヲ誤リ門澤橋村ニ到ル途中田間ニ於テ

短刀ヲ拾ヒ得シヨリ曾テ路人ニ惡口セラレタルヲ思出シ其遺恨ヲ露サントノ念慮ヲ生シニ見久藏方家中ニ人聲アルハ即チ自己ヲ嘗リシ路人ノ聲色ナリシト該家ニ突入シ右久藏妻「ヨチ」ニ負傷セシメタルモノニ其殺意ヲ生シタリトノ証憑ハ無之モ右「ヨチ」ヲ以テ己レヲ罵詈セシモノト誤信シ腕及ヒ頭部ニ傷ヲ負ハセ二十日間疾病休業ニ至ラシメタル者ト判定シ刑法第三百八十五條第三百二條第三百四條第三百一一條第一項ニ依リ數罪併發スルヲ以テ同第百條ニ照シ一ノ重キ前第三百一二四條ヲ適用シ仍ホ同第八十九條第九十條ニ依照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮八月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢案官上告ヲ爲シタル要領ハ被告カ侮辱セラレタル恨ヲ露サンカ爲メ侮辱セシモノヲ殺害セント其人聲ヲ誤認シ決行ノ間意外ノ障礙ニヨリ目的ヲ遂ケ得サレシハ企圖ト成跡ニ於テ昭カナリ故ニ檢事豫審等ノ調ノ節申立ノ如キハ司法警察官ノ調書ヲ翻異スルニ止リテ謀殺未遂犯タルヲ免カレサレハ刑法第二百九十二條同第百二十三條ヲ適用スヘキモノナリ仮令之ヲ殺意ナキモノトスルキハ其聲ヲ聞キテ其人ナリトシ之ヲ創傷セシモノナレハ傍人誤傷ニアラサルヲ以テ單ニ刑法第三百一條第一項ヲ適用スヘキハ當然ナリ又途中ニ於テ拾得タル短刀ハ明治九年第九十六号布告遺失物取扱規則第二條ノアルアリテ法律上五日間猶豫ノ時日ヲ與ヘアレハ其時間内ハ未ダ以テ該短刀ヲ隱匿シテ官私ニ送還スルノ念アルヤ否ヲ認ムルノ跡ナキニ刑法第三百八十五條ヲ適用セシハ共ニ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ對手人即チ被告ハ答辨書差出サス茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ハ上告ノ旨趣其理由ナキ旨ノ意見ヲ陳述シタリ大審院長ノ職權ヲ以テ撰任シタル被告代行人大岡育造ハ上告ノ

論旨其理由ナキ旨ヲ答辨シ且附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ拾得シタル短刀ハ之ヲ
隱匿シテ官私ニ送還セザリシヤ否ヤノ事實ノ理由ヲ付セズ直チニ刑法第二百八十五條ヲ適
用セラレタルハ不當ノ裁判ナリト思料スルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云ヒ立會檢事ハ原判文
ヲ閱スルニ其理由ヲ擧示シアルヲ以附帶上告ノ旨趣不當ナリト答辨セリ因テ判決スルコト左
ノ如シ

治罪法第四百十六條第二項被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立
其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ証憑ノ採擇事實ノ判定ハ承審官ニ專任スル
所ノ職權ニシテ他ヨリ之レヲ論難シ得ヘカラサルモノナリ

本案被告カ犯罪ノ事實ハ原判文ニ掲載スル如ク被告カ殺意ヲ生シタルトノ証據ハ不充分ナ
リトシ而シテ會テ己ヲ警リシ人ナリト誤認シ預メ謀テ人ヲ毆傷シタル所爲明確ナリト判定セ
リ然レハ其事實ニ對シ刑法第三百二條第三百四條第三百一條ヲ適用セシハ最モ當然ナリ又
遺失物取扱規則第二條凡ソ遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ
官ニ送ルヘシ云々トアリテ本條ハ其拾得シタル物品ヲ官又ハ其主ニ送還スルノ手續及ヒ時
間ヲ指定シタルモノニシテ隱匿送還ノ有無ヲ此時間ニ依リテ定ムル法意ニハアラサルナリ
而シテ本案被告カ短刀ヲ拾得テ隱匿セシモノトノ事實ニ於テハ原判文途中田間ニ於テ短刀ヲ
拾得シヨリ云々セシコトハ其方自白被害人ノ申立(中略)物件ニ徵シ明確ナリト掲載シアリテ
被告公判廷ノ陳供其他ノ訴訟書類ニ照合スルニ隱匿ノ念慮アリテ官私ニ送還スルノ情ナキ
モノト原裁判官カ確認セシ事ハ認ムルニ足レリ故ニ原裁判官ハ擬律ノ錯誤又ハ事實ノ理由ヲ

付セサルモノト爲シ之ヲ破毀スルノ理由ナキヲ以テ原檢察官上告及ヒ被告代理人附帶上告
ノ旨趣共ニ相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ總テ棄却スルモ
ノ也

第千九百五十九號

○判文(証券稅犯則)同 明治十六年三月十三日上告
年十二月十四日發付

島根縣出雲國神門郡日下村三十

八番地平民農

福

代 富 藏
明治十六年二月
四十年三月

右富藏カ被告事件ニ付明治十六年二月七日今市治安裁判所ニ開キタル松江輕罪裁判所於テ
被告ハ証券印稅規則第二則第一條ニ違犯セシモノトシ同第四則第二條及ヒ明治十四年第七
十二號布告第三條ニ依リ科料金壹圓六十錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告富藏ハ明治
十六年二月九日上告申立ヲ爲シ同月二十日趣意書ヲ差出シタリ爰ニ大審院於テ專任判事ノ
報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

治罪法第四百十七條上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記
局ニ差出スヘシ同第二十條此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ
特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアリテ本案上告ハ規定ノ期限ヲ經過シタル後之ヲ
差出シ且特別ノ場合アルニモアラサレハ自ラ其訴權ヲ失セシノミナラス明治十四年第四十

四號布告違警罪ノ審判ニ關スル云々其裁判言渡ニ付テハ総テ上訴ヲ許サストアリテ本案言渡ハ違警罪ノ範圍内ニ於テ處分セシモノナレハ到底上告成立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第千九百六十號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十二月十四日發付

新潟縣越後國西頸城郡歌村平民

雲晴寺前住職水莖智圓長女

水莖

明治十五年八月

十九歲

明治十五年八月二十八日高田輕罪裁判所ニ於テ右水莖「イツミ」カ竊盜被告事件ヲ審判シ「イツミ」カ所爲ハ明治十五年二月中續針ノ折レ外一品ヲ以テ杉田「キヨミ」ノ箆筒ノ鑰ヲ開キ衣類外四十六品ヲ竊取シタルモノト確認シ刑法第三百六十六條ニ依リ二十歲未滿ナルヲ以テ同第八十一條同第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ同第三百七十六條ニ從ヒ重禁錮五月ニ處シ監視八月ニ付スト言渡シタリ
被告水莖「イツミ」ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ被告ニ於テ固ヨリ竊盜ヲ爲シタルヲ無之假令証人ノ陳述アルモ該証人ハ其事實ヲ與知ス可キ理由アラサルヲ以テ正當ノ証言ト爲スニ足ラス又被害者杉田「キヨミ」ハ被告人カ親屬ニ係ルヲ以テ罪トナルヘキモノニアラス然ルヲ竊盜ノ刑ニ處セラレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人檢事補堀小太郎ハ被告カ上告ノ旨趣ハ治罪法第四百十條ニ定メタル原由一モ之レ無クシテ原裁判至當ナル旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ成規ヲ履行シ之ヲ判決スルノ如シ
原裁判言渡書ヲ檢閱スルニ被告人ノ所爲ニ對シ各証憑ヲ舉示シ相當ノ刑ヲ適用シタルモノナレハ毫モ不當ト言フ可ラス抑諸般ノ証憑ヲ採擇シテ事實ノ有無ヲ判定スルハ單ニ裁判官ノ職權ニ任從シタルモノニシテ他ヨリ之ニ侵入シ得可カラサルモノトス而シテ被告人カ上告ノ趣旨ハ裁判官ノ事實認定及探証上ノ如何ニ對シ徒ニ原裁判ヲ非難スルニ過キスシテ治罪法ニ定メタル上告ノ原由ト爲スヲ得ス又被告人ト被害者トノ間法律ニ定メタル親屬ニアラサルヲ以テ不論罪ノ限ニ在ラサル者トス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百六十號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月十四日發付

岡山縣美作國大庭郡上長田村平民

民

吉村類吉

明治十五年九月
二十一年十月生

同縣同國同郡同村平民

二百十六

吉村伊三吉

明治十五年九月

同縣同國同郡吉田村出生無籍

姓不詳末吉

明治十五年九月

鳥取縣因幡國矢上郡船岡村平民

田村石藏

明治十五年九月

二十六年八月生

窃盜被告事件ニ付明治十五年九月二十日津山輕罪裁判所カ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルヲ不當トシ原檢察官ハ上告セリ其要領タルヤ被告カ窃取ニ係ル死牛一頭ハ被害者ニ於テ其所有權ヲ拋棄シタルモノニアラス且ツ被告等カ所爲ノ窃盜ノ念慮ニ出テタルヲ明確ナリトス然ルニ原裁判所カ窃盜ノ所爲ナキヲ以テ無罪ト言渡シタルハ頗ル失當ノ裁判ナルニ付之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

原檢察官上告ノ旨趣ハ被告カ他人ノ所有ニ係ル死牛一頭ヲ窃取シタル所爲ハ窃盜ヲ以テ論スヘキモノト云フニ在リト雖モ已ニ原裁判所ニ於テ正當ノ証憑ニ據リ被告等ハ窃盜ノ念慮ナク投棄物ナリト信シテ死牛一頭ヲ拾得シモノト判定シタル事實ニ對シ其証據取捨ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ原由ト爲スヲ得ス何トナレハ各証憑ニ據リ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ特權ニシテ越權等不法ノ點アルニ非サレハ輒ク其當否如何ニ論及スルヲ得サ

レハナリ因テ上告趣旨ハ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百六十二號

○判文(傳染病規則犯)明治十六年一月廿四日上告
年十二月十四日發付

京都府上京區第三十一組常磐木

町居住平民乾物商

今井孫太郎

明治十五年十一月

四十歲

傳染病豫防規則違犯被告事件ニ付明治十五年十一月二十四日神戸輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ明治十五年第三十一号布告第一條ヲ適用ス可キ犯則ニアラサルヲ以テ無罪ナリト裁判セシテ檢事補吉川直簡ニ於テ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ被告人ハ横濱港ニ於テ英國彼阿會社添船ニ乗組明治十五年九月十八日神戸港ニ着航セリ登時横濱ハ虎列刺病流行地方ト認定シアルヲ以テ其地方ヨリ入港ノ船舶ハ明治十五年第三十一号布告第一條ニ定メタル規則ニ從ヒ檢査官ノ取調ヲ受ケタル後ニアラサレハ上陸スルヲ得サルニ直ニ上陸シタルハ即チ該規則ヲ犯シタル者ナリ然ルニ無罪ノ言渡ヲ爲シタル原裁判ハ擬律ノ錯誤ニアラサレハ刑法第二百四十六條ノ支配ヲ受ク可キ者ニ非サルノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ原裁判所カ無罪ノ

二百十七

言渡チ爲スニ付テハ其理由缺ク所ナキヲ以テ不法ノ廉ナキ旨ヲ陳辨セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ檢スルニ裁判官カ被告人ノ所爲ヲ認ル所ハ船長ノ命ニ從ヒ檢疫ノ執行ヲ待ツニ違マナク上陸シタル者ナレハ明治十五年第三十一號布告第一條ノ規則ヲ犯シタル者ニアラスト謂フニ在リテ其事實ノ理由ハ擧示シテ太々明カナル者ナリ依テ原裁判官カ被告人ニ無罪ノ言渡チ爲シタルハ相當ニシテ上告ノ趣旨不相立者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第一千九百六十三號

○判文(毆打創傷)明治十六年三月六日上告
年十二月十四日發付

德島縣名東郡南岩延村平民農業

谷川傳平

明治十五年十一月
二十二年十一月生

右傳平カ毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十一月二十九日德島縣輕罪裁判所於テ犯罪ノ證據充分ナラストシ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補印南富彦ハ明治十五年十二月一日上告申立チ爲シ同月七日趣意書ヲ差出シタリ因テ大審院於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立チ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ同第廿條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時

ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シトアリ然ルニ本案上告趣意書ハ其上告申立チ爲シタルヨリ起算スレハ右期定ノ期限ニ於テ既ニ一日ヲ經過シタル後之ヲ差出シ且特別ノ場合アルニモ非サレハ自ラ上告ヲ爲スノ權ヲ失フタルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千九百六十四號

○判文(官吏侮辱)明治十五年十二月廿六日上告
同十六年十二月十四日發付

山形縣羽後國飽海郡酒田内匠町

平民兩羽新報編輯長

川長治

明治十五年八月
十五年七月

明治十五年九月七日酒田輕罪裁判所ニ於テ右柗川長治カ被告事件ヲ審理シ被告人ハ兩羽新報第三百五十七號ニ日本鐵道會社ハ人民ノ私業ナリ及ヒ近事一則ト題シ登錄シタル事項ハ山形縣大書記官深津無一カ管内人民ヲ獎勵勸誘シタル職務ニ對シ侮辱シタルモノト認定シ又同第三百七十號乃至第三百七十二號ニ神戶義方氏ノ諫死ト題シタル一項ハ酒共忠篤外壹名ヲ誹毀シタルモノト認定シ又同第三百七十八號ニ飽海郡役所ヨリ各町村戸長ヘノ諭達文ヲ登錄シ其文中ニ脱落セシ數字外ナル誤ノ一字ヲ刷入シ醫師ノ診斷ヲ誤ルトノ文詞ト爲シタルハ其故意ニ出テ酒田醫業組合幹事大平禎作外五名ヲ誹毀シタルモノト認定シ刑法第四百一十一條刑法第三百五十八條刑法第百條ニ依リ一ノ重キ刑法第百四十一條ノ刑ニ從ヒ一月

以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ處十六歳ニ滿タスシテ其所爲是非ノ辨別アリテ犯シタル者ナルニ付刑法第八十條第二項ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ一月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告人榊川長治ハ其裁判ヲ不服ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ノ第一ハ日本鐵道會社ハ人民ノ私業ナリ及ヒ近事一則ト題シ兩羽新報ニ登錄シタル事項ハ山形縣大書記官深津無一カ私立鐵道會社株金募集ノ一ニ付人民ヲ説諭セラレタル大書記官ノ職務ヲ離レ人民ノ資格ヲ以テ談話セラレタルコトヲ論シタルニ過キサレハ之ヲ以テ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタル者ト言フヘカラス第二神戶義方ノ諫死ト題シタル一篇ハ唯義方ノ諫死シタルコトヲ記シタルノミ然レトモ事ヲ記スルニ當テハ其關係スル所ヲ記セサルヘカラス其諫死ノ事ヲ記シ偶々酒井忠篤外一名ノ事ニ及フト雖モ敢テ之ヲ誹毀シタリト言フヘカラス第三飽海郡役所ノ論達文中誤ノ一字ヲ刷入シ醫師ノ診斷ヲ誤ルトノ文詞ト爲シタルハ植字者等ノ過誤ニ出タル者ニシテ決テ故意ヲ以テ刷入シ大平楨作外五名ヲ誹毀シタルニアラス又其論達文ニ醫師トアルハ飽海郡内一般ノ醫師ヲ指シタル者ニシテ大平楨作外五名ト限リタルモノニアラス然ルニ判文ニ大平楨作外五名ト掲ケタルハ誤解ナリ而シテ其論達文ハ兩羽新報ニ掲ケタル當日郡役所ヨリ其錯誤ヲ責ラレタルヲ以テ其翌日直チニ正誤シタレハ今日ニ至リ告訴セラルヘキ理由ナシ第四公判廷ニ於テ被告人カ陳述ヲ錄取セラレシモ敢テ之ヲ被告人ニ讀聞カセス又署名捺印セシメス其謄本ヲ求ムルモ之ヲ許サス又辨論ノ最終ニ被告人ヲシテ發言セシメサリシハ違法ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

被告人カ上告第一ノ論旨ハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルニアラスト謂フニ在ルモ其新報ニ登錄シタル所ニ於テハ山形縣大書記官深津無一カ其職務ヲ以テ私立會社ノ事ニ干渉シタルハ非ナリ大書記官カ爲スヘカラサル事ヲ爲シタリト云フノ主意ニシテ即チ山形縣大書記官深津無一カ其職權ヲ以テ管内人民ヲ獎勵勸誘シタルコトヲ侮辱シタルニ外ナラサレハ官吏ノ職務ニ對シ侮辱シタルニアラスト言フコトヲ得ス第二神戶義方ノ諫死ト題スル一編ハ義方ノ事ヲ主トシテ記シタリトスルモ酒井忠篤外一名ヲ誹毀シタルコトハ其一編ニ記載シタル所ニ於テ明瞭ナレハ誹毀シタルニアラスト爲スコトヲ得ス第三飽海郡役所ノ論達文中ニ醫師ノ診斷ヲ請ハス云々トアルヲ醫師ノ診斷ヲ誤リ候ヨリト爲シタルハ過誤ニ出テタル者ト認メ難ク又誹毀ノ罪タル告訴ヲ待テ論スヘキ者ナレハ告訴セサル者ヲ誹毀シタリト言フヘカラス故ニ告訴シタル大平楨作外五名ヲ誹毀シタリト爲シタルハ誤解ニアラス又其論達文ハ直チニ正誤シタリト雖モ正誤ニ因テ誹毀罪ノ消滅スヘキ謂ハレナケレハ告訴スヘキ理由ナシト言フコトヲ得ス第四公判廷ニ於テ錄取シタル陳述ヲ被告人ニ讀聞カセ署名捺印セシメ其謄本ヲ下付スヘシトノ成規ナク又公判始末書ヲ閱スルニ被告人ヲシテ辨論ノ最終ニ發言セシメサル等違法ノ處置アルコトナシ以上ノ理由ナルニ依リ原裁判ハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ總テ相立タル者ト判定シ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却スル者也

第千九百六十五號

○判文(家屋毀壞)明治十六年一月廿三日上告
年十二月十四日發付

熊本縣肥後國飽田郡池田村平民

德 永平九郎

明治十五年十一月
四十四年十一月

右平九郎カ被告事件ニ付明治十五年十一月一日熊本輕罪裁判所於テ被告平九郎カ隣家荒木喜登ノ破風ヨリ突出スル矢横竹ヲ切除シ且ツ家屋ノ葺草若干ヲ採取リタルハ新築障害ヲ除去スルカ爲メ爲シタルモノニテ家屋ヲ毀壞スルノ思意ニ出シモノニアラスト認定ス治罪法第三百五十八條第一項ニ從ヒ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補三浦隆臣ハ明治十五年十一月一日上告申立ヲ爲シ同月七日趣意書ヲ差出シタリ因テ大審院於テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト如シ

治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ同第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除ク外其權ヲ失フ可シトアリ然ルニ上告者カ差出シタル趣意書ハ其上告申立ヲ爲シタルヨリ起算スレハ右規定ノ期限ニ於テ既ニ一日ヲ經過シタル後ニ在リ且ツ特別ノ場合アルニモ非サレハ自ラ上告ヲ爲スノ權ヲ失フタルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

第一千九百六十六號

○判文(官林盜伐)明治十五年十二月廿八日上告
十六年十二月十五日發付

長野縣信濃國西筑摩郡王瀧村平

民

畑中 文右衛門

明治十五年十月
三十九年九月

明治十五年十月三十日福島治安裁判所ニ開ク松本輕罪裁判所ニ於テ右畑中文右衛門カ被告事件ヲ審理シ被告畑中文右衛門ハ官ノ山林ニ於テ竹木ヲ竊取シタルノ所爲アリトシ刑法第三百七十三條同第三百七十二條ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘキ所自首シテ贓物ノ全部ヲ還給スルヲ以テ同第八十五條同第八十六條ニ照シ通シ三等ヲ減シ七日以上三月以下ノ刑期內ニ於テ同第七十一條ニ照シ拘留七日ニ處シ同第三百七十六條ニ照シ六月ノ監視ヲ附加ストノ言渡ヲ爲シタリ

原裁判所檢察官警部補小澤和一郎ハ之ヲ不法ナリトシ上告シタルノ要点ハ本案ハ官山ノ竊木ヲ盜伐シ追テ自首シ全贓ヲ還給シタル者ナレハ之ニ擬スルニ刑法第三百七十三條第三百七十二條ヲ以テシ仍ホ第八十五條同第八十六條ニ照シ拘留ニ處斷シタルハ當然ナリト雖モ違警罪ノ刑ニ同第三百七十六條ニ照シ監視ヲ附加シタルハ擬律錯誤アル裁判ナレハ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ其刑法第三百七十三條同第三百七十二條同第八十五條同第八十六條ヲ適用シ拘留ニ處シタルハ敢テ不當ニ非ス然レトモ法律上違警罪ニ附加刑ヲ設ケス故ニ輕罪ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ノ範圍ニ入ル時ハ附加刑ハ之ヲ科スヘキモノニ非ス今本案禁錮ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ノ刑拘留七日ニ處

シ而テ刑法第三百七十一條ヲ適用シ監視ヲ附加シタルハ不當ノ裁判ナリト謂ハサルヘカラ
ス依テ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ大審院ニ於テ其監視ヲ附加シタル部分ヲ破毀シ之ヲ取
消スモノ也

第千九百六十七號

○判文(私爲醫業)明治十六年一月十一日上告
同 年十二月十五日發付

長崎縣肥前國長崎區本興善寺町
平民一養子

矢野兵吾

明治十五年十一月
二十九年十一月

同町平民醫業

矢野

明治十五年十一月
四十一歲三月

私ニ醫業ヲ爲シタル被告事件ニ付明治十五年十一月二十八日長崎輕罪裁判所ニ於テ兵吾ハ
刑法第二百五十六條ニ依リ二十圓ノ罰金ニ處シ一ハ刑法第九條第七十條ニ照シ兵吾ハ刑
ニ一等ヲ減シ十五圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス各上告セル要領ハ矢野一ハ開
業ノ醫師ニシテ矢野兵吾ハ其弟子ナレハ專ラ一ノ命ヲ受ケ重輕ノ別無ク患者ノ代診投藥ス
ヘテ一カ業ヲ補佐スルモノニシテ兵吾カ獨立ノ醫業ヲ爲シタルニ非サルニ法官其實事ヲ誤
認シ兵吾ハ私ニ醫業ヲ爲シ患者ニ對シ診斷投藥ヲ爲スニ方リ一ニ於テ其情ヲ知り藥品ヲ給

與シ兵吾カ犯罪ヲ幫助シタルモノト爲シタルハ必竟擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ

對手人檢事補上原寬滿ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ適當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣意ハ兵吾ハ一ノ弟子ニシテ兵吾ノ病患者ヲ診斷シ且投藥スルモノノ代診指圖等ニ
因ルモノニシテ兵吾ハ決テ私ニ醫業ヲ營マス一モ亦兵吾私營醫業ノ情ヲ知テ之カ幫助ヲ爲
セシニ非ス然ルニ判官カ事實ヲ誤認シ該裁判ヲ下シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云トイヘ凡承
審官カ各種ノ證據ニ據リ認定シタル事實ニ對シ漫リニ論難スルニ過キスシテ上告ノ原由ト
爲スヲ得サルモノトエ何トナレハ治罪法第四百六十六條第二項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調
書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依
テ上告ノ趣旨相立ストス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百六十八號

○判文(竊盜)明治十六年一月十八日上告
同 年十二月十五日發付

大坂府攝津國西成郡福本村平民
辻 武兵衛

明治十五年十月
六十八歲

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月三十日大坂輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第三百
七十六條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル

要領ハ漁業ノ器具ヲ持主ノ許諾ヲ得ス使用スルハ居村ノ習慣ニシテ被告カ所爲ハ惡意アリ
 テ爲セシニアラス仮令竊盜ノ所爲ナリトスルモ被告カ犯時ハ明治十四年十二月中ナルニ原
 裁判所ハ明治十五年一月ノ犯罪ト判定セラレタルハ不當ナリト云フニアリ
 對手人檢事補平野長憲ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ適當セリト答辨ス
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ要旨ハ持主ノ許諾ヲ得ス漁業ノ器具ヲ使用スルモ居村ノ習慣ニシテ被告カ他人ノ網
 ナ取出シ入質シタルモ惡意アリテ爲シタルモノニ無之又右所爲ヲシテ竊盜ナリト假定スル
 モ其犯時ハ明治十四年十二月二十日頃ナルニ原裁判所ハ明治十五年一月ト爲シタルハ不當
 ナリト云フニアリト雖モ該事件ハ被害者ノ告訴ニ係ルモノニシテ竊取ノ後既ニ入質ニ爲シ
 タル等其所爲之レヲ竊盜ト云ハサルヲ得ス又其犯時ハ明治十四年十二月中ナルニ明治十五
 年一月ノ犯罪ナリトシ處斷シタリ迎不服ヲ唱フルモ承審官カ各証憑ニ因リ判定セシ事實ニ
 對シテハ漫然適否ヲ論スルモ上告ノ原由ト爲スヲ得サルハ治罪法第四百四十六條ニ掲ケテ明
 確ナリ要スルニ上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條各項外ニ在ルヲ以テ相立タサルモノトス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也
 第一千九百六十九號

○判文(毆打創傷) 明治十六年十一月十九日上告
 年十二月十五日發付

山梨縣甲斐國東八代郡藤野村平
 民

成島 佐與次郎

明治十六年八月
 三十五歲生月不詳

毆打創傷被告事件ニ付明治十六年八月二十七日甲府輕罪裁判所豫審ニ於テ田草川要助成島
 佐與次郎ハ明治十六年七月二十五日東山梨郡南八代村ニ於テ口論ノ末互ニ毆傷シ爲メニ要
 助ハ二十日以上佐與次郎ハ三日間共ニ職業ヲ營ムニ能ハサルニ至ラシメタルモノナリ之レ
 ナ法律ニ照スニ要助ノ所爲ハ刑法第三百一條第二項ニ該リ佐與次郎ノ所爲ハ同條第一項ニ
 該ル輕罪ナリトス然ルニ要助ハ東京鎮臺兵役中ノ者ナルヲ以テ陸軍治罪法第二十條ニ依リ
 要助佐與次郎ハ共ニ東京軍法會議ニ於テ處斷スヘキモノトシ右兩人ハ管轄違ノ言渡シヲ爲
 シタリ原裁判所檢事補澁谷孝世ハ抑モ陸軍治罪法第二十條ハ共犯者ヲ處スルノ法律ニシテ
 其互ニ毆打創傷シ犯罪各別ナルモノ、如キハ該條ニ依ルヲ得ス夫レ如斯該終結言渡ハ不當
 ナルモ今ヤ故障ノ期ヲ失シ該裁判確定ニ屬シ軍法會議ノ受理スヘカラサル處ニ係ルヲ以テ
 成島佐與次郎犯罪事件裁判管轄ノ定示ヲ求ムト云フニアリ
 本院檢事長渡邊驥ノ意見書ニ於ル本訴ハ治罪法第四百四十八條及ヒ第四百四十九條ノ規定
 ニ從ヒ裁判管轄ノ定示ヲ求ムル者ニシテ其趣意相當適切ナリトス依テ本院ニ於テ當被告事
 件ヲ甲府輕罪裁判所ニテ管理スヘキ旨ノ言渡アラント求ムト云フニアリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百五十條ノ規則ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 陸軍治罪法第二十條ニ(軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ
 於テ之ヲ審判ス)トアルハ其共犯ヲ待テ法條ナリ本訴被告事件ノ如キ相互ニ罪ヲ犯シ又互

ニ被害者ニシテ共犯人ニアラサレハ其常人即チ成島佐與次郎ハ治罪法第三十八條ニ從ヒ相當ノ裁判所ニ移スヘキヲ原裁判ノ爰ニ出テスシテ軍法會議ニ付シタルハ不適法ノ裁判ナリトス依テ本訴ハ甲府輕罪裁判所ノ管轄ニ定ムル者也

第一千九百七十號

○判文(官吏侮辱) 明治十六年三月十三日上告
同 年十二月十五日發付

長野縣信濃國下高井郡三ツ和村
平民農

柳

澤 豐 作
明治十五年十一月
二十三年

右豊作カ官吏侮辱被告事件ニ付明治十五年十一月八日飯山治安裁判所ニ開キタル長野輕罪裁判所於テ刑法第二條ニ照シ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補加藤幸久カ上告セル要旨ハ刑法第四百一一條目前ノ意義ハ其隔絶ノ遠近ニ依リ尺度ヲ以テ罪ノ有無ヲ決スルカ如キモノニアラス即チ本案被害者之ヲ確聞シ被告カ侮辱セシヨ明瞭ナルニモ拘ハラズ大畧五間ノ距離ヲ隔テタルヲ以テ目前ニアラストセシハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告カ行爲ハ原判文ニ明示セル如ク巡查草野富衛ノ職務ニ對シ侮辱セシヨ明瞭ナレハ刑法第四百一一條ニ依リ處斷スヘキモノタルヤ論ヲ俟タス何トナレハ侮辱ヲ加フルノ意思行爲ニ對シ被害者之ヲ知り得タル場合ノ如キハ固ヨリ該條ノ問フ所ナルヲ以テナリ然ルニ原裁判所於テ侮辱セシ事實ヲ認メナ

カラ距離ノ間隔ヲ以テ目前ニアラストナシ無罪ト言渡シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ大審院於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

柳 澤 豐 作

右ノ理由ナルヲ以テ被告豊作ニ對シ刑法第四百一一條官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スル者也

第一千九百七十一號

○判文(官林盜伐) 明治十六年三月九日上告
同 年十二月十五日發付

熊本縣肥後國合志郡久保田村平
民農業

矢

野 熊 藏
明治十五年五月
二十四歲

明治十五年五月十八日熊本輕罪裁判所ニ於テ右矢野熊藏カ官林盜伐被告事件ヲ審判シ刑法第三百七十三條第三百七十二條ニ依リ仍ホ酌量シテ一等ヲ減シ重禁錮二十二日ニ處シ監視六月ヲ附加スト言渡シタル裁判確定ノ後ニ於テ大審院檢事長渡邊驥ハ司法卿ノ命ニ依リ非常上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人ハ數罪ヲ犯シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經タルヲ以テ本件犯罪ハ刑法數罪俱發ノ例ニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ原裁判所ニ於テ各別ニ刑ヲ言渡シタルハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事

ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
 本案訴訟書類ヲ審閱スルニ被告人ハ數次官林ヲ盜伐シタル者ニシテ一次ノ犯罪前ニ發シ重禁錮一月監視六月ノ刑ニ處セラレタリ而シテ本件ノ犯罪ハ其前罪判決ノ前ニ發覺シタルニ因リ數罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノナルニ當該官ノ別人ニ係ルヲ以テ前發ノ罪アリテ處斷シタルヲ覺知セスシテ別ニ重禁錮二十日監視六月ノ刑ヲ言渡シタルハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十五條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スモノ也

矢野熊藏

前ニ辨明スル如ナルニ因リ被告人ノ所爲ハ刑法第三百七十三條同第三百七十二條同第八十九條同第九十條ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ減シ二十二日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付ス可キ處一罪前ニ發シ已ニ重禁錮一月監視六月ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ刑法第二百二條ノ例ニ照シ後發ノ刑前發ノ刑ヨリ輕キニ因リ更ニ之ヲ論セス但現在ノ木材ヲ還給スルハ原裁判言渡ノ通りタル可シ
 第九百七十二號

○判文(竊盜未遂) 明治十六年二月十三日上告
 年十二月十五日發付

鳥取縣伯耆國會見郡福成村平民
 左官職

上田吉太郎

明治十五年十一月二十六歲

明治十五年十一月二十五日米子輕罪裁判所ニ於テ右田吉太郎カ竊盜被告事件ヲ審判シ數罪俱發ニ係ルヲ以テ一ノ重キ刑法第三百六十八條ニ依リ未遂犯ナルヲ以テ同第一百十二條ニ照シ二等ヲ減シ一年六月ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補脇谷一郎ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ原裁判所カ數罪俱發例ニ照シテ處斷シタルハ言渡書中ノ後段ニ該場ニ於テ巡查ニ捕繩ヲ施サレシ末看守ノ隙ヲ窺ヒ逃走シタル者ニシテ云々トアル所爲ヲ刑法第四百四十四條ニ擬シタルモノト謂ハサルヲ得然レモ同條ハ未決ノ囚徒入監中逃走云々トアリテ被告人カ逮捕ノ際逃走シタル如キハ之ニ問擬スヘキモノニ非ス果シテ然ラハ竊盜犯ノ外仍ホ刑法ニ觸ル、罪アリヤ其事實ヲ明示セサルヲ以テ刑名ノ如何ヲ知ルニ由ナシ加之監視ノ刑ヲ附加スルニ其適法ノ正條ヲ明示セサリシハ共ニ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ原裁判官ハ被告人カ逮捕ノ際逃走セシ事實チ一ノ犯罪ト認メ處斷セシモ其事實ニ據ルニ被告人逃走ノ當時未ダ入監ヲ以テ論スヘキ場合ニ非サルヲ明瞭ナレハ決シテ刑法上ノ罪ヲ組成スヘキモノニ非ス然ルニ之ヲ有罪ト爲シタルノミナラス竊盜罪ニ附加スル監視ノ正條ヲ明示セサリシハ不當ノ裁判ニシテ要スルニ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ原裁判ヲ破棄シ更ニ至當ノ判決アラントチ望ムトノ旨ヲ陳述セリ依テ之ヲ審按スルニ

刑法第四百四十四條ハ入監中逃走シタル者ヲ罰スルノ正條ニシテ其入監前逃走ノ所爲ニ及ホ

スヲ得本件被告人カ逮捕ノ際捕縄ヲ脱シテ逃走セシ所爲ノ如キハ固ヨリ入監中ヲ以テ論スヘキモノニ非サレハ法律上之ヲ罰スヘキ正條アルヲナシ然ルニ原裁判官カ其所爲ヲ一ノ犯罪ト認メ竊盜罪ト數罪俱發ニ係ルト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ト謂ハサルヲ得ス且監視ヲ附加スルニ刑法ノ正條ヲ明示セサリシハ共ニ不法ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣正當ナリト判定ス

上田吉太郎

原裁判言渡書ニ事實証憑ヲ明示シタルニ依リ牆壁ヲ損壞シ竊盜ヲ犯サントシテ未タ遂ケサルノ罪アリト確認ス其竊盜ノ所爲ハ刑法第三百六十八條ニ依リ同第三百六十七條ノ刑ヲ適用シ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノナルモ未タ遂ケサルヲ以テ同第三百七十五條ニ照シ同第三百十二條ノ例ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ三月以上二年六月以下ノ範圍内ニ於テ一年六月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同第三百七十六條ニ依リ一年ノ監視ニ付スルモノナリ

第九百七十三號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月十一日上告
同 十六年十二月十五日發付

愛知縣尾張國愛知郡新尾頭町二

十九番地屋敷平民

佐々竹次郎

明治十五年六月
二十年六月

同縣同國同郡同町三百三十四番
地屋敷平民

小川末吉

明治十五年六月
十九年六月

同縣同國同郡同町百四十三番地
屋敷平民

小島松次郎

明治十五年六月
十七年四月

同縣同國同郡同町五十番地屋敷
平民

橋本初次郎

明治十五年六月
十七年十一月

竊盜未遂犯罪被告事件ニ付明治十五年六月十六日名古屋輕罪裁判所ニ於テ被告等カ所爲ヲ刑法第七十二條ニ擬シ其各項ニ照シ一等ヲ加ヘ佐々竹次郎ハ重禁錮一月七日ニ處シ小川末吉ハ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十七日

二百三十三

ニ處シ小島松次郎橋本初次郎ノ兩名ハ刑法第百九條ニ依リ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ仍ホ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ各重禁錮二十日ニ處スト裁判言渡ヲ爲シタリ

原檢察官ハ右裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領タルヤ被告等ハ竊盜ヲ犯スノ目的ヲ以テ門戸ヲ踰越シ人ノ邸宅ニ忍入りタルモ意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂ケ得サリシモノナレハ竊盜未遂犯ヲ以テ論スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ人ノ住居ヲ侵ス罪ト爲シ刑法第百七十一條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

本院檢事池上三郎ハ原檢察官上告ノ趣旨頗ル其當ヲ得タルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ適法ノ言渡アラントナシ希望スト陳述セリ仍テ之ヲ審按スルニ

抑モ竊盜罪ノ未遂犯ヲ構造センハ三個ノ條件具備スルヲ要ス第一竊盜ヲ犯スノ決意第二其執行ニ着手シタルヲ第三意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂ケサルヲ是ナリ本案被告事件ニ付原裁判所カ認視シタル事實ニ就テ見ルニ被告竹次郎末吉ノ兩名ハ共謀シテ被害者宅ニ於テ竊盜ヲ犯サントシ其煙出窓ノ繩締ヲ切斷シ夫ヨリ忍入り財物ヲ得テ逃走スルノ便ニ先ツ表戸ヲ開キ置カント手配中表ノ方騒シキニ驚キ財物ヲ得スシテ逃走シタルモノニシテ其所爲ノ竊盜ヲ犯スノ念慮ニ出テタルヲ明確ナル而已ナラス其執行ノ方法ハ竊盜ヲ犯スニ頗適切ニシテ意外ノ障礙ニ因ルニ非サレハ犯罪ノ目的即チ物品ノ竊取ヲ遂ケ得ヘキヤ必然タリ果シテ然ハ被告等カ所爲ハ竊盜罪ノ未遂犯ニシテ其罪質構成ノ諸原素具備セシヨ多辨ヲ要セスシテ明ナリ故ニ原裁判所カ右ノ事實ヲ認視シナカラ之ヲ人ノ住居ヲ侵ス罪ト爲シ刑法第百

七十二條ニ問擬シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリトス又被告松次郎初次郎ノ所爲ハ竹次郎等カ竊盜ヲ犯スノ情ヲ知テ戶外ニ瞭望シ其執行ヲ容易ナラシメタルモノナレハ正犯ト爲シ竊盜未遂犯ヲ以テ論セサル可カラス凡ソ從犯トハ犯罪ノ着手以前豫備ノ所爲ヲ以テ其成就ヲ容易ナラシムルモノヲ謂フ其執行中幫助ヲ爲スモノ、如キハ則チ正犯ニシテ從犯ト謂フヲ得サルナリ松次郎等カ犯罪ヲ幫助シタル所爲ハ其執行中ニ係ルヲ以テ正犯ト爲シ竹次郎等ト共ニ其責メニ任スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ從犯ヲ以テ論シ刑法第百七十二條及第百九條ニ照シ處斷シタルハ是亦擬律ノ錯誤ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

佐々竹次郎
小川末吉
小島松次郎
橋本初次郎

被告等カ犯罪ノ事實ハ原裁判所ノ認定ト各証憑トニ據リ明確ナリトス因テ刑法第三百六十八條第三百六十七條ヲ適用シ二人以上共ニ犯シタルヲ以テ刑法第三百六十九條ニ依リ一等ヲ加ヘ未遂犯ナルヲ以テ同法第三百七十五條第百十二條ニ照シ一等ヲ減シ重禁錮五月十八日以上四年八月七日以下ヲ以テ本刑ト爲シ竹次郎ハ其範圍内ニ於テ重禁錮一年ニ處シ末吉松次郎初次郎ノ三名ハ犯時十六歳以上二十歳未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ

依り本刑ニ一等ヲ減シ四月七日以上三年六月五日以下ノ範圍内ニ於テ末吉ハ重禁錮十月ニ處シ松次郎初次郎ハ各重禁錮六月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ照シ竹次郎ハ十月末吉ハ八月松次郎初次郎ノ兩名ハ各六月ノ監視ニ付スルモノ也

但シ犯罪ノ用ニ供シタル小刀壹箇并ニ筏繩ハ刑法第四十三條ニ依リ官ニ沒収ス
第九百七十四號

○判文(樹木盜伐)明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十二月十五日發付

石川縣能登國羽咋郡柳田村ヒ五

番地居住平民農業兼瓦竈元

橋場六郎兵衛

明治十五年十月

四十六歲十一月

樹木盜伐事件ニ付明治十五年十月三十一日七尾輕罪裁判所ニ於テ右被告人ハ明治十五年二月中居村ニ於テ人ノ所有山地ニ係ル十四字ナ六十番六十一番ニ在ル松木十六本ヲ毀伐セシモ盜情アルニアラサルヲ以テ人ノ樹木ヲ毀伐シタル者ト認定シ刑法第四百十九條ニ依リ拾五圓ノ罰金ニ處シタル被告人ハ之レニ服セス上告セリ其要旨ハ自己ノ所有地カ他ノ地券名受ケニテ他人ニ下付アルモ其實彼我協議ノ上地券書換ノ約定アリ故ニ既ニ調へ中ニ係ル地券引直ノ勸解願モ亦横山安朝ト連印ノ上濟口ヲ爲シタル証左アルニ之ヲ採用セス豫審終結ノミヲ偏信シ有罪トナシタル又金塚市助横山安朝ニ於テ地所割當ニ相違ノ廉判然セシニ付告訴願下ケヲ爲シ之レヲ受理セラレタル以上ハ其冤罪タルヤ明瞭ナルニ付治罪法第三百五

十八條ニ依リ無罪ナリ設ヒ被告カ提出セシ証ハ豫審終結ヲ破ルノ力ナキ者トスルモ充分酌量スルノ資トスヘキハ當然ナリ又假リニ人ノ樹木ヲ毀伐セシ犯罪者ナリトスルモ其伐木タル僅々十數本ノ小木ニシテ品位卑ク價又廉ナリ然ルニ判官ハ之レカ評價ヲモ要セス其刑期ヲ濫用シ罰金十五圓ニ處シタルハ過當ニシテ頗ル不法ノ裁判ナリト云フニアリ原裁判所檢察官枸杞狀太郎ハ原裁判相當ニシテ毫モ不法ニアラサル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スルコト左ノ如シ
上告者ハ無罪ニシテ殊ニ地券書換ノ約定セシ証左アルヲ採用セテ豫審終結ノミヲ偏信シテ有罪トナシタルト云フト雖モ其証據ノ採否ハ治罪法第四百十六條ノ二項ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ承審官ノ職權ニアリ又告訴者ニ於テ既ニ其告訴下ケ戻テ願ヒタルヲ受理セラレタル以上ハ無罪ナリト云フモ治罪法第三條ニ公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ル者ニ非ス又告訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニアラストアリテ其特別ノ場合ニ係ル事件ニアラサルニ依リ告訴願下ケヲ爲シタルモ依然トシテ公訴ハ消滅シタル者ニアラス然ラハ檢察官ニ於テ之レヲ行フハ當然ナリ又酌量減輕ハ刑法第八十九條ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得トアリテ之レヲ承審官ニ放任シアル者ナレハ其輕減ヲ爲スト否トハ承審官ノ職權ニアリ又罰金十五圓ニ處シタルハ過當ナリト云フト雖モ犯罪ノ情狀ニ從ヒ刑期ノ長短罰金ノ多寡ヲ量定スルハ固ヨリ承審官ノ職權ニアリ然ラハ則本案上告ノ論旨ハ總テ承審官ノ權内ニ侵入シ之ヲ批

難スルニ過キサルモノニシテ一モ治罪法第四百十條各項ニ適當スル上告ノ原由ナキモノト

前條ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第九百七十五號

○判文(誹毀)明治十六年二月十七日上告
明治十六年十二月十五日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡湊町士族海
南新聞假編輯長

外 池 一 軌

明治十五年十一月
三十一歲

明治十五年十一月十五日松山輕罪裁判所ニ於テ右外池一軌カ小川直薰ヲ誹毀シタル被告事
件ヲ審判シ新聞紙上ニ直薰カ妻小川幾代ノ行事ヲ登記セシモ直チニ直薰ヲ誹毀シタリト認
ムルコトヲ得サルヲ以テ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタリ原裁判所檢事補藤本
重威ハ其裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタルノ旨趣ハ被告人カ新聞紙上ニ掲載セシ所ハ小
川幾代ノ行事ニ止リ敢テ其夫直薰ヲ直指セシニハ非サルモ夫妻ハ人生ノ一體ニシテ其妻ノ
惡事醜行ヲ擧ケ之ヲ誹毀スル時ハ其夫ニ於テ教訓ノ至ラサル家政ノ嚴ナラサル等平素夫タ
ルノ道ヲ失ヘルノ耻辱ヲ蒙リ榮譽ヲ害スル固ヨリ大ナリ本件ノ如キハ小川直薰ノ告訴ニ依
リ被告人カ誹毀ノ罪ヲ治シ刑法第二百五十八條第二ニ適用スヘキニ原裁判ノ玆ニ出テサリ
シハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ本件新聞紙上鬼

女ノ續報ト題スル一行ノ文詞ハ小川直薰ヲ侮辱シ其名譽ヲ汚損シタルモノニシテ單ニ小川
幾代ヲ誹毀セシニ止マラス併セテ直薰ヲ誹毀シタルモノト謂ハサルヲ得ス本院ニ於テハ上
告ノ旨趣ヲ採用シ原裁判更正アラント望ムト陳述シタリ依テ之ヲ審按スルニ
原裁判言渡書中ニ(南海新聞雜報欄内ニ鬼女ノ現出又ハ鬼女ノ續報ト題シ民事原告人小川
直薰妻幾代カ繼子ヲ殺シタル云々ノ文中ニ忝ナシモ本縣ノ八等屬ヲ務メテ二十圓ノ月俸ヲ
頂戴ナシ給フ小川直薰云々ト掲載シ)トアル事實ニ據レハ被告人ハ小川幾代カ惡事醜行ヲ
摘發公布シ併セテ小川直薰ヲ侮辱シ之ヲ誹毀シタルモノト認メサルヲ得ス又假令其文詞ハ
幾代ノ行事ヲ掲載スルニ止マリ直薰ヲ直指セシニ非ストスルモ上告旨趣ノ如ク其妻ノ惡事
醜行ヲ摘發スルハ即チ其夫ノ名譽ヲ害スルノ大ナルモノニシテ誹毀ノ罪ナシト謂フコトヲ得
サルナリ然ルニ原裁判官ニ於テ前段ノ事實ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律ノ錯誤ニ係
ル不法ノ裁判ナリト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直
チニ裁判言渡ヲ爲スコト左ノ如シ

外 池 一 軌

前ニ辨明スル如クナルニ因リ惡事醜行ヲ新聞紙上ニ掲載シテ人ヲ誹毀シタル罪アリト確
認ス其所爲ハ刑法第三百五十八條第二項ニ依リ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓
以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十
條ニ照シ酌量シテ本刑ニ二等ヲ減シ八日ノ拘留ニ處スルモノナリ

第千九百七十六號

○判文(抗拒)明治十五年十二月廿七日上告
明治十六年十二月十五日發付

鹿兒島縣日向國臼杵郡細島町二
百八番地平民旅籠渡世

兒

玉禮三

明治十五年十月
四十一年三月

明治十五年十月十八日延岡治安裁判所ニ開キタル宮崎輕罪裁判所ニ於テ右被告人兒玉禮三
カ所爲ヲ審理シ被告ハ八坂神社祭典ノ際取締ノ爲メ出張シタル巡查種鷹時次郎ニ對シ暴行
ヲ以テ其携帶シ居ル官棒ヲ奪ヒ取リタルモノト判定シ刑法第百三十九條ニ照シ重禁錮五月
ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡セリ

被告禮三ハ右ノ言渡ヲ不服ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ二点ニアリテ其第一ハ被告ハ
公廷ニ於テ辨論セントスルモ原裁判官ハ之ヲ聽カス直チニ裁判言渡ヲ爲シタルハ治罪法第
四百十條第一第八兩項ニ相當スル不法ノ裁判ナリ其第二ハ巡查古川政次田口直信等ハ種鷹
時次郎カ同僚ニシテ親戚同様ナル者ニ依リ証人ト言ヒ難ク又戸高長三郎カ証言並ニ日高猪
兵衛カ延岡警察署長ニ差出シタル書面ハ猪兵衛カ獨斷ヲ以テ認メタル者ナルニ依リ被告カ
犯罪ノ証據ト爲スニ足ラサルニ原裁判官カ之ヲ採用シタルハ不當ナリト云フニ在リ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事林三介ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告第一ノ旨趣即チ原裁判官ハ被告カ辨論ヲ聽カスト云フモ徒ラニ口頭ノ陳述ニ過キサル

ノミナラス却テ原公判始末書ヲ觀ルモ充分ニ辨論ヲ爲シタル後刑ヲ言渡シタルト明確ナリ
且ツ治罪法第四百十條第一項第八項ニ當ルト云フモ被告ニ於テ忌避ノ申立ヲ爲シタルトナ
ク又原裁判官カ論辨ヲ公行セザリシ跡モナク到底被告カ論辨ヲ聽カスト云フハ虛構ノ陳辨
タルニ過キヌ又其第二ニ所謂巡查并ニ戸高長三郎ノ証言日高猪兵衛カ書面等ハ証據ト爲ス
ニ足スト論告スト雖モ衆証ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シ
タル者ナレハ之ニ對シテ不服ヲ訴ルト雖モ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス
仍テ上告ノ旨趣ハ總テ相立タサル者トシ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
ル者也

第千九百七十七號

○判文(酒造犯則)明治十六年二月二日上告
全 年十二月十七日發付

京都府下京區第十五組林下町住
平民酒造商當今上京區第三十三
組新車屋町寄留

西

岡太助

明治十五年十一月
三十七年

明治十五年十一月三十日京都輕罪裁判所ニ於テ右西岡太助カ被告事件ヲ審判シ酒類隱蔽ノ
所爲アリトシ刑法第五條明治十三年第四十号布告第三十二條明治十四年第七十二号布告第
三條ニ依リ隱蔽ノ醪酒清酒ヲ沒収シ造石稅三倍ノ金額即チ百五十圓五十七錢ノ罰金ニ處シ

二百四十一

仍ホ刑法第四十三條ニ依リ犯罪ノ用ニ供シタル桶二本ヲ官ニ沒収ストノ闕席裁判言渡ヲ爲シタリ被告人ハ之ヲ不法トシ上告シタルノ要旨ハ檢査未濟ノ桶ニ醪ヲ入レタルハ其責ヲ不免ト雖モ素ヨリ屆濟ノ醪ナレハ隱蔽造釀ニ係ルモノニアラス被告人ノ所爲酒造稅則第三十四條ニ觸ル、廉ハ聊之アルヘキモ同則第三十二條ニ問ハルヘキモノニアラス桶ノ規則ニ觸ル、ヲ以テ醪及清酒ヲ沒収シ罰金ヲ科セラル、ノ理ナシ抑第一期造酒見込石數ハ清酒三百四十五石九斗五升ニシテ製造清酒ハ五十八石九斗七升六合ト外ニ隱蔽トセラル、清酒五石二斗五升併テ六十四石二斗二升六合又醪百十七石八斗八升六合ト隱蔽トセラル、醪十九石七斗九升五合併テ百三十七石六斗八升二合總計二百〇一石九斗〇八合ニシテ見込石ヨリ百四十四石〇四升二合不足セリ然ニ檢査官ノ之ヲ隱蔽造釀ト看做サレタルハ不當ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ本案ハ事實ノ當否ヲ論告スルニ止リ治罪法第四百十條ニ適合セサル旨ヲ辨明シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ酒造稅則第四章第三十二條ハ酒類隱蔽ノ罪ニ止マリ其諸器械ハ之ヲ沒収スルノ限ニ在ラス然ニ原裁判ノ爰ニ出テス桶二本ヲ沒収シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ此一部ヲ取消ノ言渡アラソト望ムト謂フニ在リ爰ニ原言渡書ヲ檢シ尙ホ訴訟書類ヲ閱スルニ其隱蔽ノ所爲ハ檢査員ノ告發書及ヒ被告人カ始末書ニ依リ証憑明確ナルヲ以テ原裁判所カ規則ニ照シ罰金ヲ言渡シタルハ相當ニシテ被告人カ論告スル所ハ徒ニ事實ノ當否ヲ非難シ以テ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ其上告ノ点ニ付テハ破毀ノ原由ナキモノトス又本院檢事附帶上

告ノ趣旨ヲ審按スルニ酒造稅則中其酒類諸器械ノ沒収スヘキモノハ各本條ニ之ヲ明示セリ而テ其第三十二條ニ於テハ唯其酒類ヲ沒収ストノニ記シテ桶瓶其他器械ヲ沒収スルノ明文ヲ掲載セス蓋シ右稅則中沒収追徵ノ規則ハ特別ニ之ヲ定メタルモノナレハ刑法ノ總則ヲ適用スヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所カ刑法第四十三條ニ依リ桶ヲ沒収シタルハ即チ擬律ノ錯誤ナリト謂ハサルヘカラス

右ノ理由ナルヲ以テ被告人ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ檢事ノ附帶上告ニ原キ同第四百三十一條ニ從ヒ原裁判ノ刑法第四十三條ニ依リ犯罪ノ用ニ供シタル桶二本ヲ官ニ沒入スト言渡シタル一部ヲ破毀シ之ヲ取消スモノナリ

第千九百七十八號

○判文(酒造稅則違犯) 明治十五年十二月廿六日上告
明治十六年十二月十七日發付

山形縣羽後國北村山郡東根村平
民酒造營業

小池 郁太郎

明治十五年九月

明治十五年九月十九日福島輕罪裁判所ニ於テ右小池郁太郎カ酒造稅則違犯ノ被告事件ヲ審判シ被告人ハ清酒拾六石六斗七升ヲ釀造シ檢査ノ際隱蔽シタルモノト認定シ酒造稅則第三十二條ニ照シ其隱蔽シタル清酒ヲ取揚ケ明治十四年第七十二號布告ニ照シ罰金六拾四圓貳錢ニ處ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告人小池郁太郎ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ拾六石六斗七升ノ清酒ハ檢査濟ノ古酒ト檢査濟ノ新酒トヲ混和シタル迄ノモノニシテ決シテ隱造シタモルノニ非ス其證據ハ清酒檢査帳及倉出帳等ニ於テ明瞭ナルニ原裁判所カ是等ノ證據ヲ抹殺シ清酒ヲ隱造シタルモノト認定シタルハ不當ナリト云フニ在リ對手人檢事補松田矩準ハ原裁判所カ清酒ヲ隱造シタリト認定シタルハ至當ナリト答辨シ而シテ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人等ヨリ差出シタル手續書等ニ據レハ醜モ亦清酒ト俱ニ隱造シタリト認メサルヲ得サルモノナルニ原裁判ノ玆ニ出テサルハ不服ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告及ヒ附帶上告ノ旨趣ハ原裁判所カ判定シタル事實ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ上告ヲ爲スノ理由トナルヘキモノニ非スト陳述セリ
茲ニ之ヲ審按スルニ本案二個ノ上告ハ事實證據ノ有無ヲ陳辨シ裁判官ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ外ナラス抑モ證據ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サル者トス依テ本案二個ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第千九百七十九號

○判文(印紙再貼用) 明治十六年一月廿六日上告
同 年十二月十七日發付

大阪府東區備後町一丁目平民丹
製造業

杉山吉左衛門

明治十五年十一月

二十五歲

證券印紙再貼用被告事件ニ付明治十五年十一月十七日大阪輕罪裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ヲ審判シ刑法第九十九條ニ依リ罰金二圓ニ處斷セリ

原裁判所檢事補秋田政徳ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ刑法第二百一條ニ依リ監視ヲ附加セサルハ擬律ノ錯誤ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ

監視ノ刑ハ施體ノ主刑ニ附加ス可キ法意ニシテ罰金ノ刑ニ止ル者ニ附加ス可キ者ニアラス
刑法第四十條ニ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ストアルニ因テ之ヲ觀ルモ其一斑ヲ知ルニ足ル可シ故ニ原裁判所カ被告人ニ監視ヲ附加セサルハ相當ニシテ上告ノ理由不相立者トス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第千九百八十號

○判文(偽造証書) 明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十二月十七日發付

熊本縣肥後國上益城郡鶴ヶ田村
平民

福田武平次

明治十五年八月

二十七年十一月

明治十五年八月二十八日熊本輕罪裁判所ニ於テ被告福田武平次ハ證書偽造并ニ證書騙取ノ

二百四十五

罪アリトシ刑法第二百十條同第三百九十條同第百條ニ照シ一ノ重キ刑法第二百十條ニ依リ重禁錮十月罰金十圓ニ處シ監視一年ヲ附加スル旨宣告セリ

福田武平次於テ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ曾テ負債主坂本巳之十ノ要メニ因リ兼テ巳之十ヨリ受取置證書ノ寫ヲ渡シタル者ニシテ惡意ヲ以テ證書ヲ偽造シ利ヲ圖リタルニ非ス然ルチ馬見原警察分署ニ於テ喚問ノ節ハ飲酒ノ末出頭シタルチ以テ酒氣ノ爲メ精神茫然タル際訊問ヲ受ケ口供ニ摺印ヲ爲シタル者ニシテ眞實ノ陳述ニ非ス故ニ原裁判所檢事ノ面前及ヒ公判ノ節眞實ノ供述ニ更改シタリ然ルチ原裁判所ハ前供ヲ以テ眞實ノ白狀ト認定セラレタルハ不服ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聞キ判決スルコト左ノ如シ本案上告ノ主点ハ原裁判所承審官ノ事實認定上ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フル者ナレハ素ヨリ上告ノ原由ト爲スニ足ラスト雖モ今原裁判言渡書ヲ閱スルニ本案被告事件ノ事實ヲ認定シタルハ被告カ馬見原分署ノ白狀ヲ以テ根據ト爲シタル者ナリ因テ其白狀ノ調書ヲ閱スルニ「一時惡心ヲ生シ證書寫取リ置キ候ニ戸長役場ノ印且ツ坂本巳之十ノ印ヲ杉ノ木ニテ偽造シ右寫シ取リタル證書ノ印形致シ坂本巳之十ヨリ自分ニ差入タル證書ト欺キ」云々トアリ是ニ因テ之ヲ觀レハ被告カ馬見原分署ニ於テノ白狀ハ戸長役場ノ印并巳之十ノ印ヲ偽造シ偽證書ヲ作爲シタリト云フニ在リ故ニ其詐爲シタリト云フ證書ヲ檢スルニ戸長役場ノ印ヲ押捺シアルチ見スシテ只其偽證書ト稱スル紙端ニハ割印ノ形チニ一片ノ木切レヲ押用シタル者ニ止リ毫モ印版ノ形チヲ具有シタル者アルニ非ス又金額ヲ記載シタル傍ラニ貼用シタルハ形紙様ノ者ニシテ固ヨリ證券印紙ト見誤ル可キ者ニ非ス如此ノ所爲ヲ以テ人ヲ欺罔セント欲スルモ苟モ知覺精神ヲ有スル者ニシテ其詐術ニ陷ルヘキノ理ナク假令惡意ヲ以テ此所爲アリト爲ルモ到底其目的ヲ達スル能ハサルハ理ノ尤觀易キ所ニシテ所謂無効犯罪ト爲ス可キ者ノ如シ然レハ本案犯罪ノ有効無効ヲ審理判明スルハ則チ事實ノ判斷ニ歸スヘキ者ナリ然ラハ則チ原裁判所承審官於テ被告人カ馬見原分署ノ白狀ヲ眞實ト認定スルニ於テハ被告人ハ戸長役場ノ印ヲ偽造シタル者ニシテ其所爲ハ刑法第百九十五條同第二百四條ニ該ルヘキ重罪ヲ犯シタル者トシ重罪裁判所ノ管轄ニ屬セシメサル可ラス然ルチ原裁判所ハ被告カ馬見原分署ノ口供ヲ眞實ト認定シナカラ輒ク之カ判決ヲ下シタルハ越權ノ處分ニシテ治罪法第四百十條第十一項ニ定メタル場合ニ相當スル不法ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ熊本輕罪裁判所ニ於テ福田武平次ニ言渡シタル裁判ノ全部ヲ破毀シ宮崎重罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第千九百八十壹號

○判文(賭博) 明治十六年二月廿八日上告 年十二月十七日發付

德島縣阿波國麻植郡喜來村平民 乘 島 武 平

明治十五年十一月 五十八年三月

賭博被告事件ニ付明治十五年十一月二十四日脇町治安裁判所ニ開キタル德島輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮一月罰金七圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告人乘 二百四十七

島武平ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ハ藤井與市等カ博奕ヲ爲スチ傍觀シナカラ其場ニ
 睡眠シタル者ニシテ自ラ博奕ヲ爲シタルニ非ス而シテ與市カ被告人ト共ニ賭博シタリトノ
 申立ハ詐偽ノ陳述ニシテ証言ト爲スニ足ラス又現場ニ在リタル博具ハ與市等ノ使用セシモ
 ノニシテ被告人カ犯罪ノ証ト爲スコトヲ得サルナリ然ルニ裁判官ハ無罪ノ被告人ヲ以テ有罪
 ナリト判定セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ因リ服從スルコト能ハスト云フニ在リ大審院
 ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
 被告人カ藤井與市等ト共ニ賭博シタル所爲ハ巡查ノ逮捕告發調書及ヒ証人ノ調書共犯人ノ
 陳述其他證據物件等ニ依リ犯狀明白ナルヲ以テ原裁判言渡書ニ其實實証憑ヲ明示シ之ヲ刑
 法ノ正條ニ照シ相當ノ刑ヲ言渡シタルモノナレハ裁判上毫モ法律ニ違背スルノ廉アルニ非
 ス而シテ上告ノ趣意ハ徒ニ事實ノ有無採証ノ當否ヲ陳辨シテ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ノ
 旨ヲ訴フルニ過キス之ヲ要スルニ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ於テ一モ適當
 スルモノナキヲ以テ上告ノ理由ナシト判定ス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件
 上告ヲ棄却スルモノナリ

第千九百八十二號

○判文(謀殺未遂)明治十五年十二月十八日上告
 同 十六年十二月十七日發付

茨城縣常陸國行方郡富田村平民

孝助弟無籍人力車挽

濱田寅吉

明治十五年九月
 三十一年生月不詳

宮城縣陸前國宮城郡仙臺米ヶ袋

士族成富長男人力車挽

落成直

明治十五年九月
 二十年八月

茨城縣常陸國那珂郡戸村平民清

七甥人力車挽

初田五百藏

明治十五年九月
 二十四年十月

謀殺未遂犯被告事件ニ付明治十五年九月二十九日平輕罪裁判所豫審終結ニ對シ檢事補宮地
 直親故障ヲ爲シタル處同會議局亦該言渡シヲ認可スト判決セシチ不法ナリトシ檢事井手亨
 上告ノ要領ハ會議局判決書第一項ニ被告寅吉カ所爲ハ初田五百藏落合成直ノ陳述ニ由テ觀
 ルニ殺意已ニ決シ兇器ヲ携帶シタルコト明ナリトシ被告カ不利益ナル事實ト言語ノ粗暴ナ
 ル一兩点ヲ摘出シ遽カニ殺意アルモノト推測シ謀殺未遂犯ナリト判定セシハ不法ト云ハサ
 ルチ得ス況ンヤ寅吉カ成直ニ對シ今夜摸樣ニ依リテハ手込メニスル云々五百藏ニ對シテハ
 喧嘩スル云々トノ陳述ハ是乃チ殺意ノ決セサル証憑トスヘキ申供アルニ於テチヤ其他寅吉
 カ所爲ト五百藏成直ノ申供トチ審究スルニ不穩當ナル一二ノ所爲ト語氣ノ強暴ナルノミ
 止マリ敢テ殺意アルモノト察知スヘキ徵憑ナキニヨリ本案ノ如キハ豫謀毆傷犯ト爲シ刑法

第二百二條ニ照シ斷定スヘキ犯罪ナルニ會議局ハ事實ヲ審明セズ不十分ナル徵憑ヲ確信シ不當ノ豫審終結言渡ヲ認可シタルハ事實ニ照應セサル不法ノ判決ニシテ加之本官カ陳述セシ事實其他証人被害者等カ申供スル事實ノ理由ヲ明示セサルハ乃チ事實ノ理由不備且齟齬アルモノニシテ治罪法第四百十條第三項第十項及第九項ノ原因アル不法ノ判決ニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人濱田寅吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十六條被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリ本案上告ノ論旨ヲ按スルニ被告寅吉カ所爲ハ一二ノ粗暴ニ涉ルモノアリト雖モ斯ノ如キ不十分ノ徵憑ヲ以テ殺意アルモノト推測シ謀殺未遂犯ト認定セシ豫審終結言渡ヲ認可シタル會議局ノ判決ハ事實ノ理由不備ノミナラス且齟齬アル不法ノ判定ニシテ治罪法第四百十條第三第十及第九ノ原因アル者ナリト云フニ在テ要スルニ承審官カ正當ノ法規ヲ踐ミ認定セシ事實ノ當否如何ヲ論告スルモノニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス況ンヤ今該判文ヲ查スルニ毫モ右等ノ瑕瑾アルヲ見サレハ旁以テ本按上告ノ趣旨ハ總テ相立サルモノトス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百八十三號

○判文〔盜贓故買〕明治十六年一月廿九日上告
全 年十二月十七日發付

東京府下谷區仲徒士町二丁目三

十番地平民金物商

小 瀧 幸 吉

明治十五年十一月
三十三歲一月

明治十五年十一月二十五日東京輕罪裁判所ニ於テ右幸吉カ被告事件ヲ審判シ被告幸吉ハ盜贓タルノ情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ牙保ヲ爲シタルノ所爲ハ果テ該品ノ盜贓タルヲ證明スヘキ確証ノ見ルヘキナク即チ本訴被告事件犯罪ノ証憑充分ナラサルモノトシ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタリ原裁判所檢事松本素彦ハ之ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告人カ贓物ヲ貰受ケ又ハ其牙保ヲ爲シタルノ事實ハ警視廳及ヒ當公判廷ニ於テ爲シタル自白巡查ノ告發及ヒ該物品ノ現在スル等ニ因テ証憑判然タルニ其盜犯ハ病歿シタリトノ幸吉カ一言ヲ信認シ盜贓タルノ証憑充分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ法律ノ錯用ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ事實ノ判定ハ漫ニ啄チ容ル可カラスト雖モ原裁判所カ盜犯高田瀧次郎ハ既ニ死シタリトノ被告人カ片言ヲ採用シ他ニ確的ノ証據アルニモ拘ハラス確証ノ見ル可キ者ナシトシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト謂フニ在リ仍テ審理判決スルヲ左ノ如シ

盜犯高田瀧次郎死失ノコトハ被告人ノ片言ニシテ確認ス可カラサルノミナラス被告人ノ盜贓タルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ其牙保ヲ爲シタルハ相當官吏ノ調書被告人カ公判定ノ白狀ニ

據テ明瞭ナリトス然ルハ裁判官ハ斯ノ如ク証憑アルヲ顧ミス漫然被告人ノ片言ヲ採用シ輒
シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ越權ノ處分ナリト謂ハサルヘカラス依テ治罪法第四百二十
八條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ滯和輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
第一千九百八十四號

○判文(騙取証書)明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月十八日發付

富山縣越中國新川郡富山山王町
二十五番地平民

田知本 調三郎

年齡不詳

証書騙取被告事件ニ付明治十五年九月二日八戸治安裁判所ニ開キタル弘前輕罪裁判所會議
局ニ於テ犯罪ノ証憑不充分ナリトシ被告事件ヲ免訴シタル豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ヲ
棄却スト判決ヲ爲シタリ民事原告人小林利七郎ハ其判決ニ對シ上告セリ其要領ハ豫審判官
ニ於テ民事原告人カ指名シタル証人ヲ喚問セス自己ノ專斷ヲ以テ犯罪ノ証憑ナキモノト判
定セラレタルハ越權ノ處分ナリトス抑モ民事原告人ハ私訴ニ付越權ノ處分アル時豫審終結
ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲シ得ヘキモノナレハ本件ノ如キ豫審判官ノ處分越權ニ係ル場合ニ於
テハ故障ヲ爲スノ原由アルヲ論テ俟タス然ルニ原裁判所會議局カ豫審終結ノ言渡ニ對スル
故障ヲ棄却シ其言渡ヲ認可シタルハ不當ノ判決ナルニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ因テ本院
檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ趣旨ハ原裁判所會議局カ越權ノ處分ニ係ル豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ不當
ナリト云フニ在レヒ其會議局ニ於テ民事原告人カ爲シタル故障ノ趣旨ハ豫審上訴ノ原由外
ニ涉ルモノト判定シタル以上ハ豫審終結ヲ審査シ私訴ニ付越權ノ處分ナキモノト認メ其故
障ヲ棄却シタルヲ著明ナリ果シテ然ラハ會議局ノ判決ハ至當ニシテ毫モ不法ノ点アルコト
シ因テ上告趣旨ハ相立サルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第一千九百八十五號

○判文(竊盜)明治十五年十二月十八日上告
同 十六年十二月十八日發付

京都府下京區第十六組藪之内町
平民青物商

政

田 虎 吉
明治十五年九月

三十九年

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月十五日大坂輕罪裁判所ニ於テ被告ハ鹿島「コト」ヲ教唆シ
其本夫勇助ノ所有物ヲ竊取セシメタル者ト判定シ而シテ鹿島「コト」ノ所爲ハ刑法第三百七
十七條ニ基キ竊盜ヲ以テ論スルノ限リニ在ラサルニ依リ被告モ亦竊盜ノ罪ナキ者トシ無罪
ノ言渡ヲ爲シタリ

原檢察官ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ抑モ法律上親屬間ニ係ル盜罪ヲ問ハス
シテ若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル時其罪ヲ論スルハ其正犯從犯ノ故ニ非スシテ他人

自カテ別ニ一個ノ竊盜罪ヲ犯シタル者トスレハナリ故ニ本件ノ如キモ縱令鹿島「コト」カ所
爲ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限リニアラサルモ被告鹿島「コト」ヲ教唆シ竊盜罪ヲ犯サシメ財
物ヲ分チタルハ即チ被告自カラ別ニ一個ノ竊盜罪ヲ犯シタル者ナリ然ハ則チ刑法第三百七
十七條第二項ニ照シ竊盜ヲ以テ論シ同法第三百六十六條及第三百七十六條ニ依リ處斷スレ
キモノトス且夫レ教唆者ナルモノハ自カラ現ニ罪ヲ犯サスト雖所犯情狀最モ惡ム可クシテ
現ニ罪ヲ犯シタルモノト輕重アルコトナシ故ニ之ヲ正犯ト爲スナリ既ニ之ヲ正犯ト爲ス以上
ハ現ニ罪ヲ犯シタルト否トニ依リ其罪ノ有無ヲ定ムルノ理由ナキハ勿論刑法第三百七十七
條ノ場合ニ於テハ教唆者ヲ取除クノ特例アルコトナシ故ニ原裁判所カ被告ノ罪ヲ不問ニ措キ
タルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

本院檢事加納久宜ハ原檢察官上告ノ論旨頗ル其當ヲ得タルヲ以テ原裁判ヲ破毀シ相當ノ裁
判言渡アランコトヲ希望スト陳述セリ仍テ之ヲ審案スルニ刑法第四百條ニ二人以上現ニ罪ヲ
犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科スト在リ又同第三百五條ニ人ヲ教唆シテ重罪輕罪
ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲スト在ルニ因リ犯罪ヲ教唆シタル者ト其教唆ニヨリ罪ヲ犯
シタル者トハ共犯ヲ以テ論シ同一ノ刑ヲ科スヘキモノトス而シテ其共犯者ノ一人身分ノ故
ヲ以テ其罪ヲ免カルノ時ト雖モ他ノ共犯者ハ其責ニ任セサル可カラズ抑モ被告カ所爲ハ鹿
島「コト」ヲ教唆シ其本夫勇助ノ所有ニ係ル地券狀其他ノ物品ヲ竊取セシメ其贓物ヲ分チタ
ルモノナリ然ハ則チ鹿島「コト」カ所爲ハ親屬間ノ竊取ニ係ルヲ以テ法律其罪ヲ問ハスト雖
被告ハ共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ナレハ刑法第三百七十七條第二項ニ照シ竊盜ノ罪ヲ以

テ論シ同法第三百六十六條及第三百七十六條ニ依リ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ
右ノ事實ヲ認視シ且贓物ヲ分チタルノ證據明確ナルニモ拘ハラズ其罪ヲ不問ニ措キタルハ
上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ニシテ則チ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ
適合スル上告ノ原由有ルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判言渡中其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ
本院ニ於テ被告事件ニ付更ニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

政 田 虎 吉

被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判所ノ認定ト各証憑トニ因リ明確ナリ其所爲ハ刑法第四百條第
百五條ニ照シ親屬ト共ニ犯シ財ヲ分チタルヲ以テ刑法第三百七十七條第二項ニ若シ他人
共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論スト在リ又同法第三百六十六條ニ人ノ所有
物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處スト在ルニ依リ竊盜
ヲ以テ論シ二月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二月ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條
ニ照シ監視六月ニ付スル者也
第千九百八十六號

○判文(詐欺取財及ヒ費消受寄財物)明治十六年三月六日上告
年十二月十八日發付

兵庫縣攝津國川邊郡昆陽村平氏
農業

松 本 安 次 郎

二百五十六
明治十五年十一月
六十年

詐欺取財及ヒ受寄財物費消被告事件ニ付明治十五年十一月二十日神戸輕罪裁判所カ二罪ノ
内一ツノ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加
シ八月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セシニ因リ大審院ニ於テハ專任判事ノ報
告立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書
記局ヘ差出ス可シトアリ本案上告申立ハ十五年十一月二十一日ニテ其翌日ヨリ五日内同二
十六日迄ニ趣意書ヲ差出ス可キモノナルニ之カ期限ヲ過キ同二十九日ニ差出シタルモ治罪
法第二十條ニ依リ上告ヲ爲スノ權ヲ失シタルモノトス因テ上告ヲ棄却スル者也
第千九百八十七號

○判文(偽造証書)明治十六年一月廿五日上告
同 年十二月十八日發付

秋田縣羽後國南秋田郡牛島橋通
町士族戶長

川尻良太

明治十五年十一月

三十九年

同縣同國川邊郡牛島村平民醫師

渡邊敬順

明治十五年十一月

四十三年

右兩名カ被告事件ニ付明治十五年十一月十一日秋田輕罪裁判所於テ被告人川尻良太渡邊敬
順ハ共ニ疾病証書ヲ偽造シタルモノニアラスト判定シ無罪然レモ川尻良太ハ當日右診斷書
ヲ以テ秋田治安裁判所ヘ出廷シカタク旨申告シ置キナカラ八里外ヘ趣キタルハ無屈不參ト
セサルヲ得ス依テ明治十年第五号布告ニ照シ罰金十圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリ
トシ同裁判所檢事補小澤宗央カ上告ナシタル要領ハ被告人川尻良太ハ秋田治安裁判所ノ呼
出ヲ受ケ感冒症ニ罹リ被告醫師敬順ノ診斷書ヲ添ヘ自ラ出廷スル能ハスト偽リ代人ヲ差出
シ該日八里外ノ行路ニ出タルト明カナリ果シテ然ラハ公務ヲ免カルヘキ爲醫師敬順ヲシテ
詐欺ノ証書ヲ作ラシメ行使シタルモノト言ハサルヲ得ス殊ニ診斷書ノ成立ハ良太カ手翰ニ
出テタルモノニシテ當時實際ヲ診シタルモノニアラサルハ被告共ノ自供スル所ニ依テ明瞭
ナレハ刑法第二百十五條ニ適當スルモノナリ然ルニ裁判茲ニ出テス反テ不參シタルモノト
ナシ罰金ヲ科シタルハ不當ナルノミナラス此ノ事實又ハ其証憑ヲ指テ如何ナル理由アリト
認メタルカ唯タ感冒証ニアラスト認ムヘキ証憑ナシト云フニ止リ其理由ヲ明示セサルハ治
罪法第二百五條ニ違背シ共ニ失當ノ裁判ト認メ上告スト云フニアリ
茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルノ如シ
本案上告ノ要旨ハ被告人等相馴レテ詐欺ノ診斷書ヲ造リタル事實明晰ナルニ原裁判此ニ出
テス將タ其事實又ノ理由ヲ明示セサリシハ不當ナリト云フニ在レモ諸般ノ徵憑ニ依リ犯罪
ノ事實ヲ判定スルハ專ラ承審官ノ職權ニシテ其判定ノ當否ヲ論難スルモ到底治罪法第四百
十條ノ各項外ニ涉リ之レヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス又原判文ヲ閱スルニ「云々其診斷

書タル感冒症トアリ抑モ川尻良太ハ當日即チ明治十五年十月十四日感冒症ニ罹リタルモノニアラスト認ムヘキ証憑ナキヲ以テ被告八川尻良太渡邊敬順ハ共ニ疾病証書ヲ偽造シタルニアラスト判定ストアル以上ハ其事實又ハ理由ヲ明示セスト謂フヘカラサルコト明瞭ナレハ該論旨モ相立タサルモノトス因テ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之レヲ棄却スルモノ也

第千九百八十八號

○判文(集會條例犯)明治十五年十二月十二日上告
同十六年十二月十八日發付

岡山縣備前國岡山區東中島町寄
留本籍高知縣土佐國高岡郡佐川
村士族

山 本 憲

明治十五年七月

三十年二月

同縣同區東中山下寄留本籍同縣

備前國磐梨郡佐古村平民農

安 達 憲 忠

明治十五年七月

二十四年四月

同縣同區下田町袋町寄留同美作

國久米南條大戸村平民農

直 原 守 次

明治十五年七月

十八年十月

同縣備中國小田郡東大戸村平民

農

木 村 啓 太 郎

明治十五年七月

二十五年

右被告四名カ集會條例違犯事件ニ付明治十五年七月五日玉島治安裁判所ニ開キタル岡山輕罪裁判所於テ被告ノ内山本憲ハ明治十五年六月四日備中國小田郡笠岡村芝居小屋ニ於テ名ヲ懇親會ニ假リ政談演說會ヲ催シ公衆ヲ集メタル者安達憲忠直原守次ハ該場ニ於テ公衆ニ對シ政談演說ヲナシタル者ト斷定シ集會條例第十條及ヒ明治十四年第七十二號布告ニ照シ憲ハ罰金十二圓憲忠ハ同十圓守次ハ二十年未滿ナルヲ以テ仍ホ刑法第八十一條第七十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ罰金八圓ニ處ス木村啓太郎ハ巡查淺井清三郎聞取書ニ依ルモ畢竟政理ヲ説キタルモノニシテ犯罪ノ証憑充分ナラスト判定シ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ被告憲憲忠守次ノ三名各自ニ上告ヲ爲シタリ其論告ハ大同小異ニシテ到底歸スル所ノ旨趣ハ懇親會ヲ開キ互ニ談話ヲ爲シタルコトアルモ政談演說會ヲ催シ政談演說等爲シタルコトナキ無罪純白ノ被告共ナルニ原裁判官ハ臨檢巡查ノ聞取書等ノ如キ取ルニ足ラサル証據ヲ以テ集會條例違犯者ナリト斷定セラレタルハ不服ナリト云フニ過キス又同裁判所檢事代理警部補松本照太郎ハ木村啓太郎ヘ言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ

テ上告ヲ爲シタル要旨ハ啓太郎カ羅馬帝專制云々ト論シ後段ニ至リ吾々ハ後來ヲ恐ルヘシト演説シタルハ即チ我國政法ヲ隱ニ公衆ニ感覺ヲ與ヘタルモノニシテ政談演説ニ涉リタルハ臨檢巡查ノ聞取書ニ依リ明カナリ然ルニ之ヲ証憑不十分ナリトシ無罪ノ言渡ヲナセシハ卑官ノ意見ニ相反スルト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡上告ヲ爲スノ場合ハ治罪法第四百十條ニ規定シアリテ該條各項以外ニ涉ル事柄ハ上告ヲ爲シ得サルハ勿論証憑ノ採擇事實ノ判定ハ承審官ニ任從スル處ノ職權ニシテ其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定及証據ノ取捨ニ對シテハ他ヨリ之ヲ非難シ得ヘカラサルモノナリ本案上告ノ旨趣ハ惣テ探証及ヒ事實ノ論告ニ止ルヲ以テ上告ノ原由ト爲スニ足ラサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ意外二名及ヒ檢察官ノ上告共ニ之ヲ棄却スルモノ也
第九百八十九號

○判文(証券印稅犯)明治十六年一月廿四日上告
同 年十二月十八日發付

岩手縣陸中國東磐井郡小梨村平
民

那

波 春 林
明治十五年七月

三十四年九月

右春林カ被告事件ニ付明治十五年七月二十五日磐井輕罪裁判所於テ被告人ハ明治十五年二月十日小梨村菅原久之助カ摺津村菊池佐源次へ金高拾圓ノ約定證書ヲ差入ル、際久之助ヨ

リ頼ヲ受ケ証券印稅規則第二則第二類ニ違犯シタル白紙ノ證書ニ代印ヲナシタリト雖モ其正條ナキヲ以テ刑法第五條第二項同法第二條ニ照シ無罪ヲ言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢事補福島小太郎カ上告爲シタル要領ハ其代印ヲ爲スハ唯タ本人ノ承諾シタルヲ保證スルニ止リ他ニ必要ノ關係ナキニ付証券印稅ノ事ハ一切其責ニ任セサル可キノ疑ヒナキニ非スト雖モ同規則第三條ニ據レハ証券印紙ヲ貼用スルノ責ハ特リ證書渡主ニミアリテ其受取人証人等ハ其責アルヲナシ而シテ第四則ニ至テハ其罰ヲ受クルハ特リ渡主ノミナラス之カ與書ヲナシタル者亦之ヲ免レス由是觀之ハ該規則ノ精神タル脫稅等ノ證書タルヲ知リテ之ニ關係シ署名捺印シタル者ヲ罰スルモノニシテ唯タ其關係ノ大小ニ從ヒ之ヲ罰スルニ輕重アルノミ然リ而シテ被告ハ證書渡主タル菅原久之助ノ頼ヲ受ケ該規則第二則第二類ニ違反シタル證書ニ代印シタルヲ明晰ナレハ同規則第四則第九條ニ該ルヘキモノナルニ之ヲ無罪ト爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

本按上告ノ要旨タル被告人カ證書ニ代印爲シタルハ其與書ヲ爲シタルモノト同視シ証券印稅規則第四則第九條ニ該ルヘキモノナリト云フニアリ因テ今仮リニ之カ代印者ヲ罰スルモノトセハ其本人タル菅原久之助ハ已ニ違犯ノ處罰ヲ受ケタルニアレハ一事ニ就キ再應ノ處斷ニ涉リ治罪法ノ原則ニ背戾セリ況ンヤ同規則第四則第九條ニ代印者ヲ罰スヘキノ明文ナキニ於テオヤ右ノ理由ナルニ依リ原裁判所カ之ヲ正條ナシトシ無罪ノ言渡爲シタルハ不當ニアラサルヲ以テ治罪法第四百廿七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第九百九十號

○判文(賭博)明治十六年一月廿六日上告
年十二月十八日發付

茨城縣常陸國那珂郡上國井村平
民農業

蘭部 治三郎

明治十五年十月
四十歲

右治三郎カ賭博被告事件ニ付明治十五年十月五日水戸輕罪裁判所於テ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ棄却セシハ不法ナリトシ上告セル要領ハ先キニ原裁判所カ被告ヲ徵喚シ事實審問ノ上全ク人違ヒナル旨ヲ以テ該件ヲ棄却セラレシニ豈圖ラン檢察官カ其場ニ於テ再ヒ被告ニ對シ同一ノ事件ヲ起訴セラレシハ抑一事再理セストノ原則ニ悖戾スルモノナリト云フニアリ

對手人檢事補立花敏ハ原裁判所カ其申立ヲ棄却シタルハ畢竟公訴ノ受理不受理ニ關セスシテ他ノ理由ニ因ルモノナレハ該上告ノ無原因ニシテ破毀ヲ求ムル謂レナキ旨答辨セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スルコト左ノ如シ夫レ一事再理セストノ原則ヲ以テ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ爲サンニハ必スヤ其既ニ受タル先キノ裁判ハ現訴ト同一ノ事件ニシテ且同一ノ被告人ヲラサルヘカラサルナリ而ルニ本案ノ如キハ未ダ之ニ適合スヘキ要件ノ具備セシモノト云フヲ得ス何トナレハ原裁判所カ曩キニ被告ニ對シ爲シタル言渡ハ蘭部市三郎ニ係ル公訴アリタル際法官於テ尙シヤ其市

三郎トハ被告ノコトニハアラサルカトノ憶測ヨリ參考ノ爲メ一應之レヲ喚問セシモ全其市三郎ニアラサルコトニ認知セシ故人違ナリト告知セシニ過キサルモノニテ未ダ曾テ被告ニ對スル公訴アリタル場合ニアラサル耳ナラス又其裁判セシコトナキハ公判始末書ニ徴シテ灼然タレハナリ然レハ則チ治罪法第九條三項ノ確定裁判經タルモノト云チ得ヘキモノニアラサルカ故ニ原裁判所カ現訴ニ就テ被告カ爲シタル公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ採用セサリシハ適法ノ處分ナリトス因テ上告ノ趣旨相立タス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案被告蘭部治三郎上告ハ棄却スルモノ也

第九百九十號

○判文(銃砲犯則)明治十五年十二月廿五日上告
十六年十二月十八日發付

千葉縣下總國印旛郡長熊村平民
甚右衛門長男

高石 松之助

明治十五年八月
二十七歲

右松之助カ豫審終結ノ故障一件ニ付明治十五年八月二十四日千葉輕罪裁判所會議局ニ於テ被告カ申立ハ唯事實上ノ故障ニ止ルヲ以テ豫審判事ニ於テ被告カ其宅地内ニ於テ發砲セシ所爲ハ千葉縣明治九年丙第四百号野犬彈殺銃砲免許假規則第七條ニ背戾セルヲ以テ同縣違警罪目第二條第二十項ニ該ルモノトシ佐倉警察署ニ移スノ終結言渡シニ對シテハ之レカ故

障申立ヲ爲スヲ得ヘカラサルモノトス而テ又豫審判事カ爲シタル言渡ヲ見ルニ管轄違又ハ越權ノコアル無レハ其故障申立ヲ棄却シ豫審終結ノ言渡ヲ認可スル旨言渡タル判決ニ對シ被告松之助カ上告ヲ爲スノ要旨ハ被告ハ豫審廷ニ在テ宅地外ノ裏山ニテ發砲セシ旨陳述セシモ會テ宅地内ニテ發砲セシ旨陳述シタルコト之ナシ然ルチ豫審判事カ事實齟齬ノ調書ニ憑リ該終結言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナルニ會議局カ之ヲ認可シタルハ不當ナリト云フニ在リ同裁判所檢察官ニ於テハ原判決相當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案ハ原言渡ニ據ルニ違警罪ニ係ルモノトス果シテ然レハ明治十四年第四十四號公布ノ在ルアツテ違警罪ニ管シテハ總テ上訴ヲ許サレサルニ付本案上告ハ成立タサルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者也

第千九百九十二號

○判文(集會條例犯則)明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月十八日發付

岡山縣備前國岡山區瓦町寄留同
國警梨郡佐古村平民農

安

達 憲 忠
明治十五年八月
二十四年六月

右憲忠カ被告事件ニ付明治十五年八月一日岡山輕罪裁判所ニ於テ被告カ集會條例違犯事件ヲ訊問ニ及ヒ其陳述ヲ聽キ被告人ノ演說手續書ト臨檢官吏即チ巡查坪田鬼門木下千之亟ノ

聞取書トニ憑レハ被告二名ハ明治十五年五月三十日夜岡山區濱田町太田虎五郎方ニ於テ名ヲ學術演說ニ假リ政談ニ關スル事項ヲ演說シタルモノト信認スルニ足レリ右所爲ハ明治十三年第十二号公布集會條例第十條ニ依リ而シテ明治十四年第七十二號公布ニ照シ三圖ノ罰金ニ處スルモノナリト言渡シタル裁判ニ對シ被告上告ノ要領ハ被告カ因果ノ理ヲ講シ魯國虛無黨ノ事ニ論及シタル者ニテ政談ヲ爲シタル者ニアラス假令政談ニ涉ル者トスルモ集會條例第六條ニ依リ解散スルニ止ル者ナリ然ルニ演說手續書巡查ノ聞取書ヲ證據ト爲シ同條例第一條及第十條ニ依リ罰セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ被告カ犯罪ノ事實ハ名ヲ學術演說會ニ假リ政談ニ關スル事項ヲ演說シタル者ト原裁判官ニ於テ判定シアレハ其職權ヲ以テ認定シタル事實ニ對シ之ヲ非難スル上告ハ素ヨリ成立サル者ニシテ其確認スル所ノ事實ニ依レハ被告ハ學術演說ヲ爲スノ届出ハ之ヲ爲スモ政談演說ヲ爲スノ許可ヲ受ケサルコト明瞭ナレハ集會條例第一條ノ違犯者タルハ明確ナリ果シテ然ラハ同條例第十條ニ因テ所罰シタルハ適當ニシテ同條例第六條ハ政談演說會ノ許可ヲ得テ而シテ其許可外ノ事項ヲ論談演說シタルト如キヲ指示スル者ナレハ本案被告カ所爲ノ如キ者ニ適用スヘキノ條ニアラサルナリ故ニ上告ノ趣意總テ不立者ナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第千九百九十三號

○判文(強盜)同 明治十六年三月十三日上告
同 年十二月十八日發付

群馬縣上野國碓氷郡川浦村平民

又平長男

塚

越 茂 十 郎

明治十五年十二月

二十一年四月

右茂十郎カ持兇器強盜被告事件ノ豫審終結言渡ノ故障ニ付明治十五年十二月九日前橋輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審掛カ茂十郎外二名ヘ對シ塚越仙太郎ハ茂十郎丈次郎ノ兩名ヲ申勸メ小川貞次郎方ヘ押入兇器ヲ持テ申威シ金品強奪シタルハ明カナリ又茂十郎丈次郎兩人ハ仙太郎ノ申勸メニ同意シ前同斷小川貞次郎方ヘ丈次郎ハ徒手ニテ押入り貞次郎ヲ縛シ茂十郎ハ戸口ニ瞭望ナシ金品強奪シタル者トシ右所爲ハ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ニ該當ス可キ者ナルヲ以テ群馬重罪裁判所ヘ移スト言渡シタルハ適當ナル理由ヲ付シ豫審終結言渡ヲ認可スト判決ヲ爲シタリ同裁判所檢事補五十嵐匡里ハ該判決ニ對シ上告ヲ爲シタル其要旨ハ被告茂十郎ハ戸外ニ瞭望シタル迄ニシテ自ラ暴行脅迫ヲ加ヘ室内ヘ入り財物ヲ掠奪シタルニアラス只主謀者仙太郎カ所爲ヲ幫助シタル者ナレハ強盜從犯ナルヲ以テ刑法第九條ヲ適用スヘキ者ナルニ該條ヲ舉示セス仙太郎等ト同一視シテ強盜正犯ナリト爲シタル豫審終結申渡ヲ認可セシハ不法ナリト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

刑法第九條重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアル其從犯

者トハ正犯者ノ目的トスル意思ニ同意スルニアラス又其所爲ヲ共謀スルニアラス雷其犯スノ情ヲ知テ之ニ器具ヲ給與シ誘導指示スル等ノ如キ間接ニ其事ヲ幫助スルノ所爲アル者ヲ指稱スルモノナリ本案被告茂十郎カ如ク仙太郎カ勸誘ニ同意シ其犯所ニ同行シ之カ目的ヲ遂ゴテ謀リ一人ハ人ヲ脅迫シ一人ハ財物ヲ掠奪シ又一人ハ見張ヲ爲ス等ノ行爲ハ三名一休相須テ強盜ノ所爲ヲ完成シタルモノナレハ即テ共ニ正犯タルハ勿論ニシテ此所爲ヲ分別シテ正從犯ト爲スヘキモノニアラス故ニ茂十郎カ所爲ニ該當スヘキ正條即チ刑法第三百七十八條同第三百七十九條ヲ舉示シタル豫審終結言渡ハ至當ナルヲ以テ原會議局カ之ヲ認可シタル判定ハ當然ナリトス因テ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第一千九百九十四號

○判文(郵便物竊取) 明治十六年一月十二日上告 年十二月十八日發付

京都府上京區第二十五組久遠院

前町阪田半兵衛附藉平民雜業元

郵便局雇出仕

富

田 松 之 助

明治十五年十一月

十九年一ヶ月

竊盜被告事件ニ付明治十五年十一月九日京都輕罪裁判所カ刑法第三條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ其輕キ刑法第三百六十六條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ

其要領ハ被告松之助ニ於テハ郵便信書ヲ開緘シ在中ノ物件ヲ竊取シタルヲアルニテ其
竊取シタリトハ證據モ亦アルニテ原裁判所ハ輒ク有罪ナリト認定シ刑ヲ言渡サレ
タルハ不法ナリト云ヒ又上告追伸書ヲ以テ前意ヲ擴充セリ

對手人檢事補川畑克ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處郵便遞送物ヲ竊取シタルニテ又其證據モナキニ有罪ナリト刑ヲ
言渡サレタルハ不當ナリト云ニアリト雖モ事實裁判所カ各種ノ證據ニ據リ認メタル事實ニ
侵入シ探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ
治罪法第百四十六條ニ被告ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他
諸般ノ證據ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千九百九十五號

○判文(烟草稅則違犯)明治十六年十一月六日上告
年十二月十八日發付

和歌山縣和歌山區新町北組北ノ
新地平民煙草小賣營業人

山本常太郎

明治十六年八月

五十四歲

煙草稅則ニ違犯シタル被告事件ニ付明治十六年八月廿四日和歌山縣罪裁判所ニ於テ右常太

郎ニ對シ明治十五年第六十三號煙草稅則第十四條第三十八條ニ照シ罰金五圓ニ處シ煙草五
十六玉ハ沒収スル旨言渡シタル裁判確定後大審院檢事長渡邊驥ハ治罪法第四百三十五條ニ
基キ非常上告ヲ爲シタル要旨ハ御煙草稅則第十四條ハ封緘ノ箇所ヨリ印紙ノ彩紋ニカケ消
印セシムルノ精神ニシテ別ニ彩紋ニ消印ヲ要スルノ律意ニアラサルコトハ該條ノ明文及明治
十六年第二十号布告中消印離形等ニ於テ明瞭タリ然ルヲ別ニ彩紋ニ消印セサルヲ以テ犯則
者トシ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

煙草稅則第十四條ニ云々封緘ノ箇所及ヒ印紙ノ彩紋ニカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シトア
ル法意ハ必シモ其封緘ト彩紋トノ二箇所へ各別ニ消印ヲ要ス可シト云ヒニアシスシテ其
印影ノ封緘ト彩紋トニ連亘スル歟若シハ其一箇所ト雖モ再貼用ノ憂ヲ防クニ足ル時ハ亦
消印ノ効アル者トス今原裁判言渡書及ヒ訴訟書類ヲ徵スルニ被告人カ所爲ハ刻煙草ヲ玉造
トシ之ニ帶印紙ヲ以テ結束シ而シテ其封緘ト彩紋ノ箇所ニカケ消却ヲ爲シタルモノナレハ
該條規ニ違背セシモノニ非ス依テ原裁判官カ煙草稅則第十四條第三十八條ニ照シ處斷シタ
ルハ即チ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判トス
右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百三十五條第二項ノ成規ニ則リ原裁判所カ山本常太郎ニ言
渡タル裁判ヲ破毀シ之ヲ取消ス者也

但シ沒収シタル煙草五十六玉ハ被告人へ還付ス

第千九百九十六號

○判文(竊盜) 明治十六年十二月三日上告
年十二月十八日發付

二百七十

東京府日本橋區松島町十七番地
平民

青木萬吉

年齡不詳

本件管轄定ノ訴旨タル栃木輕罪裁判所豫審判官ニ於テ被告萬吉ノ竊取ニ係ル贓物ニ武州鷲宮紺清及武州北埼玉郡南桑村紺屋戸枝與八名前ノ附箋等アルヲ以テ其犯罪事件ハ熊谷輕罪裁判所ノ管轄ナリト認メタリ然レモ訴訟書類ニ據レハ被告人ノ調書ニ栃木ヨリ盜ミ來レリト在リ逮捕ノ地モ亦栃木輕罪裁判所ノ管轄内ナレハ同裁判所豫審判官カ管轄違ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナレモ既ニ其言渡確定セシヲ以テ治罪法第四百四十八條ニ從ヒ管轄定メノ訴ヲ爲スト云フニ在リ仍テ本院ニ於テ專任判事ノ報告書ト檢事長渡邊驥ノ意見書トニ因リ判決スル左ノ如シ

本案訴訟書類ヲ閱スルニ被告カ犯所ハ果シテ栃木町ナルヤ否ヤハ其証跡明確ナラサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ其逮捕ノ地ハ栃木縣下都賀郡小金井村ニシテ即チ栃木輕罪裁判所ノ管轄内ナレハ治罪法第四十條第二項ニ犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトスト在ルニ依リ被告事件ハ本訴論旨ノ如ク栃木輕罪裁判所ノ管轄ニ歸スヘキモノトス
右ノ理由ナルニ因リ本案被告事件ハ栃木輕罪裁判所ヲシテ管理セシムルモノ也

第千九百九十七號

○判文(誹毀) 明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十二月十八日發付

東京府日本橋區通三丁目五番地
平民京橋區竹川町十四番地京文
社いろは新聞假編輯長

中島市平

明治十五年七月

人ヲ誹毀シタル被告事件ニ付明治十五年七月七日東京輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百五十八條第二項ニ依リ四月ノ重禁錮ニ處シ三十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告ノ要領ハ原裁判判決狀ヲ通讀スルニ筒井義信ヲ誹毀シタリトアリ然レトモ該新聞ニ記セシハ單ニ彼カ妻妾ノ間ニ起リタル風波ヲ記シタルモノニテ毫モ義信ノ惡事洩行ヲ摘發シタルノ徵憑ナケレハ義信ノ爲ニ罰セラレタルハ不服ナリ又假令義信ノ行爲ニ關スル處アリトスルモ檢察官ノ述ヘラレタル刑ノ適用ヲ聞クニ刑法第三百五十八條ニ依リ重禁錮十五日罰金五圓ヲ請求セラレタリ然ルニ判官ハ斯ノ如キ長期ノ刑ヲ科シタルハ社會ノ安寧ヲ維持スヘキ原理ニ戻リタルモノト云ハサルヲ得ス依テ原裁判ヲ破毀セラレントシ懇願スト云フニアリ
對手人檢事補金田清二郎ハ上告趣意ニ對シ一々之ヲ辨駁シ原裁判ハ其當ヲ得タルモノナレハ本案上告ハ棄却アランコトヲ求ムト答辨セリ

二百七十一

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ理由トスル所ハ被告カ所爲ハ義信ノ妻妾ノ間ニ起リタル事件ヲ記シタルモノナ
ルニ義信ノ爲ニ罰セラレタルハ不服ナリト云フト雖モ要スルニ承審官カ正當ノ法規ヲ踐行
シ判定セシ事實ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ理由ト爲スニ足ラス又檢察官
ノ請求ニ反シ長期ノ刑ヲ科シタルハ公平ヲ失スルモノナリト云フモ今本案ノ刑期ヲ查スル
ニ本條範圍内ニ於テ應當處斷セシモノナレハ之ニ對シテ不服ヲ訴フルヲ得サルモノナルヲ
以テ是亦上告ノ原由ナキモノナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第千九百九十八號

○判文(失火) 明治十六年三月十七日上告
同 年十二月十八日發付

福井縣越前國阪井郡岸水村二十
三番地平民木戸傳右衛門妻

木

明治十五年十一月
四十歲九ヶ月

失火事件ニ付明治十五年十一月二十二日福井輕罪裁判所ニ於テ被告木戸「イカ」ニ對シ失火
ト認ムヘキ原因証憑充分ナラサルニ付治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ
檢事補菊地順承ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲セリ其要旨ハ抑モ被告人ハ朝飯ヲ焚キ其灰ヲ爐ヨ
リ取出シ薪入部屋内ノ薪木粉殼等ノ積アル傍ヲニ置キ農業ニ従事シ其疲勞ノ爲メ平常ノ如

ク手數ヲ爲サス其儘寢靜マリタル後爆發ノ音ニ目ヲ覺シタルニ其灰ノ取片付置タル方ヨリ
燃出シ居タリ故ニ彼ノ灰中ニ含ミタル火氣ノ自然ト薪木等ニ燃移リタルモノナラントノ白
狀アリ殊ニ該薪木ハ粉殼ニ接シテ燃移ルニ足ル可キヨハ警部補柴崎政三郎ノ証告書ニ因リ
明白ナリ然ルヲ裁判官ハ灰中ニ含有スル火氣ノ多寡又其火氣ノ保續スヘキ量數及ヒ灰ト燃
質物トノ乾濕距離等ニ就キ毫モ審明セズ且事實ノ理由ヲ付セサル裁判ニ付破毀ヲ求ムト云
フニアリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ本案ハ裁
判官カ証明シタル事實ニ依リ無罪タルノ理由自カラ具備シタルモノナレハ上告ノ趣旨相立
スト陳辨ゼリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

本案ハ承審官ニ於テ灰中ニ含有スル火氣ノ多寡其保續スヘキ量若クハ灰ト燃質物ノ距離及
ヒ乾濕等ニ對シ一々辨明ヲ與ヘサルモ被告カ朝取片付置タル灰ヨリ發火シタルモノナリト
認ム可キ証憑充分ナラスト理由ヲ付シ心証判斷ヲ下シタル者ナレハ敢テ不法ノ裁判ト言フ
可ラス之レヲ要スルニ上告ノ趣旨ハ承審官ノ探証及ヒ事實ノ認定ニ對シ非難スルモノニシ
テ治罪法第四百十條ノ規則ニ適スル原由ナキモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第千九百九十九號

○判文(竊盜) 明治十六年二月二日上告
同 年十二月十八日發付

山梨縣甲斐國北都留郡廣里村平

民

高野善平

明治十五年十一月

二十六年六月

右善平カ被告事件ニ付明治十五年十一月十三日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告カ明治十五年五月中同村字六本木ニ之アル鈴木要七所有ノ桑木ヲ切取リタル事實ハ被害者及ヒ証人井上佐源次鈴木七兵衛等ノ申供ニヨリ明確ナリトス因テ刑法第三百七十二條及ヒ同第三百七十六條ニ照シ一月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ヲ附加スルモノ也ト言渡シタル裁判ニ對シ被告上告ノ要旨ハ告訴人等カ盜伐セラレタリト云フ地ハ不毛ノ山畑ニシテ需用ニ供スル桑葉ノ生スル場所ニ非ス且本年^{明治十五年}ノ如キ桑葉充分ナル時ニ當テ何リ此ノ如キ不毛ノ地ニアル不充分ノ桑葉ヲ盜ムノ理アラシヤ此實況ニ就テ見ルモ告訴ノ不實ナルヲ知ルヘシ然ルニ被害者ノ申立テ證據トシ又被告ヲ誣ル証人ノ陳述ヲ證據トシ被告ヲ以テ桑葉ヲ切り取リタル者ト判定セラレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判次スル左ノ如シ

被告カ上告旨趣ノ歸着スル所ハ原裁判官カ探證ノ方法犯罪ノ事實判定上ニ不服ヲ鳴スニ過キス然ルニ諸般ノ証憑ヲ取捨鑑別シ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ專ラ原裁判官ニ任スル所ノ職權ニシテ他ヨリ輒スル其當否ヲ論難スヘカラサルノミナラス到底治罪法第四百十條ノ各項外ニ涉レハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス因テ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第二千號

○判文(煙草印紙再貼用) 明治十五年十二月廿七日上告
 十六年十二月十八日發付

福島縣岩代國大沼郡高田村平民

煙草小賣營業

三

輪勇八

明治十五年九月

二十七年七月

明治十五年九月十八日若松輕罪裁判所ニ於テ右被告人三輪勇八ハ煙草一厘印紙一枚ヲ再ヒ貼用シタル所爲アリトシ刑法第九十九條ニ依リ貳圓ノ罰金ニ處シ尙ホ刑法第二百一條ニ照シ六月ノ監視ニ付ストノ裁判言渡ヲ爲シタリ同裁判所檢事補伊藤助太郎ハ其裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ハ煙草印紙ヲ再ヒ貼用シタリト雖モ未タ之ヲ販賣セサル前ニ於テ檢査委員ニ發見セラレタルモノナレハ未遂犯罪ヲ以テ論セラルヘキニ原裁判所カ已遂犯ヲ以テ論セラレタルハ不法ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽シニ被告人カ所爲ハ已遂犯ヲ以テ論スヘキモノニシテ未遂犯ヲ以テ論スヘキモノニアラサル旨ヲ辨明シ且附帶上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ監視ノ刑ハ體刑ニ該ル者ニ附加スヘキモノニシテ罰金ノ刑ニ附加スヘキモノニアラス然ルニ原裁判ノ爰ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナリト謂フニアリ

依テ之ヲ審按スルニ被告人カ所爲タル已ニ印紙ヲ再貼シタルモノナレハ即チ已遂犯罪ニシテ未タ之ヲ販賣セサルト云フヲ以テ未遂犯ト爲スヘキ者ニアラス故ニ原裁判所カ已遂犯ヲ

以テ論シタルハ至當ニシテ上告ノ趣旨ハ相立タサル者トス而シテ刑法ニ定メタル監視ノ刑
ヲ附加スヘキ者ハ體刑ニ該ル者ニ限り適施スヘキ律意ニシテ罰金ノ刑ニ附加スヘキ者ニ非
サルコトハ刑法第四十條ニ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ストアルニ因テ之ヲ觀ル
モ明瞭ナルニ原裁判所カ之ヲ附加シタルハ即チ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ附帶上告
ノ旨趣允當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ原檢察官ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ本院檢察官
ノ附帶上告ニ原キ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判言渡中監視ヲ附加シタル部分ヲ破毀
シ之ヲ取消ス者ナリ

第二千一號

○判文(過失殺) 明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十二月十八日發付

東京府下谷區坂本町四丁目三十
番地平民信澤鐵四郎方寄留愛媛
縣土族東京鐵道馬車會社雇人

信

澤 春 明

明治十五年九月

明治十五年九月二十一日東京輕罪裁判所ニ於テ右信澤春明カ被告事件ヲ審判シ被告人カ鐵
道馬車會社二十三號車ノ馬ヲ馭シ上野山下ヲ發シ萬世橋ニ向テ馳驅シ上野廣小路ヨリ西黒
門町ニ通スル街角ニ於テ齋藤幸知長男幸次郎ヲ鐵道線路ニ敷キ死ニ致シタルハ被告人ノ不

注意ニ因リタル者ト認定シ刑法第三百十七條ニ照シ罰金二十圓ニ處ストノ言渡シヲ爲シタ
リ被告人信澤春明ハ該裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ齋藤幸次郎ヲ死ニ致シ
タルハ被告人カ不注意ニ由ルニアラス被告人ハ規則ヲ遵守シ聲ヲ懸ケ喇叭ヲ吹キ速ニ車ヲ
駐メ危險ヲ避ケシムルコトニ盡力シタルモ其効ヲ見サリシハ是速力ノ殘ルアツテ人力ノ抗拒
シ能ハサルト被害者カ幼者ナルヨリ危險ヲ避ルノ感動ナキヲ以テノ故ナレハ刑法第七十五
條ニ依ルヘキ者ニシテ刑法第三百十七條ニ依リ處斷セラルヘキ者ニアラス又原判文ニ不注
意ナリト認メタル理由ハ最大ノ注意ヲ以テ危險ヲ告クルノ手段ヲ爲サ、リシ云々ト言フマ
テニテ被告カ罪トナルヘキ事實ノ理由ヲ明示セス且幸次郎カ死亡ノ情況死亡ノ原因ハ証人
小川喜兵衛ノ証言警察使ノ檢証云々トアルノミニテ其原因ハ如何ナル理由カ明示セサルハ
治罪法第三百四條ノ法文ニ抵觸シタル者ナリト謂フニ在リ

對手人檢事補鶴牧分藏カ答辨ノ要旨ハ被告人カ陳辨スル所ハ事實ノ点ニ係リ法律上固ヨリ
上告ノ原由ト爲スヲ得ス又被告人ハ本案ノ判文ニ於テ事實ノ理由ヲ附セサル旨申立ト雖モ
該判文ニハ犯罪ノ日時場所摸樣其他當時ノ狀況及ヒ証憑ト爲ルヘキ事項ヲ歷舉シアリテ事
實ノ理由毫モ缺クル處ナシト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ代言人林和一ノ論辨ヲ聽クニ被告人ニ於
テハ前ニ論告スル如ク喇叭ヲ吹キ聲ヲ懸ケ車ヲ駐ムル等實ニ注意至ラサルナキモ速力ノ抗
拒シ能ハサルト小兒ノ感覺ナキトニ因リ事茲ニ至リタル者ニシテ毫モ不注意ト見ルヘキ者
ナケレハ固ヨリ罪トナルヘキ事實ニアラサルニ原裁判官カ刑法第三百十七條ニ依リ處斷セ

ラレ且被告ニシテ注意ヲ要スルノ心アラハ最大ノ注意ヲ要シ危険ヲ告ルノ手段ナキニ非ラ
スト言渡サレタレハ實際此上ニ盡ス可キ手段アルカ如ク掲ケタルハ俱ニ越權ノ處分ナリト
ノ旨ヲ陳ヘ檢事加納久宜ハ對手人カ答辨スル旨趣ト同一ノ意見ヲ述ヘ上告ノ理由ナキヲ
反覆論辨セリ依テ之ヲ判決スルコト如シ

上告ノ論旨ハ事實ノ有無ヲ陳辨シ裁判官ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス抑モ事實ノ判
定ハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハ其判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原
由ト爲スコト得ス而シテ原言渡書ニ最大ノ注意ヲ以テ危険ヲ告グルノ手段ヲ爲サ、リシト
アルハ該地ノ如キ街角ニシテ且衆人群集スルノ場所ニ在テハ斯ル小兒ノ線内ニ入ルコトハ豫
テ其覺悟ナカル可ラス然ハ則手綱ヲ扣ヘ馬蹄ヲ緩メ徐々車ヲ行リ而シテ喇叭ヲ鳴シ掛聲ヲ
爲シ危険ヲ告ル等ノ手段ヲ以テ最大ノ注意ヲ爲サハ容易ニ車ヲ駐ムルコトヲ得ヘクシテ速力
ノ殘ル等ノコトモ亦アラサルヘシ豈單ニ喇叭ヲ鳴シ大聲ヲ發シタル等ノミヲ以テ最大ノ注意
ヲ爲シタリトスルヲ得ンヤト云フノ意ニ外ナラスシテ要スルニ幸次郎カ死ハ被告人ノ不注
意即チ疎虞懈怠ノ過失タル理由ヲ舉示シタルコト明確ナリトス故ニ治罪法第三百四條ニ抵觸
シタル廉アルコトナク又代言人カ越權ノ處分ナリト言フノ論旨モ不相立者トス
右ノ理由ナルテ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

第二千二號

○判文(竊盜)明治十六年一月三十一日上告
同 年十二月十八日發付

大分縣豐後國大野郡高原村平民

農業

合澤今朝太郎

明治十五年十一月
三十五年十二月生

同縣同國同郡同村平民農業

笠野末吉

明治十五年十一月
三十五年生月不詳

右今朝太郎外一名カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十二日竹田治安裁判所ニ開キタル大
分縣罪裁判所ニ於テ被告共ハ明治十五年十月十四日夜同村字枯木ケ迫ニ於テ南海部郡二葉
江村平民黒佐廣助ノ仕立タル推茸一斗三升ヲ竊取シ而シテ未發前被害者ニ首服シタル者ト判
定シ刑法第三百七十三條及ヒ同法第八十七條第八十五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月二十
日ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スル旨言渡シタル裁判ニ
對シ原裁判所檢察官警部補手島政則カ上告爲シタル主要ハ被告カ被害者ニ首服スル前被害
者ニ於テ已ニ本件ノ所爲ハ被告兩名ニ相違ナシト確認セシ事實ハ原訴訟書類ニ徴シテ明白
ナルニ原裁判官ハ未發前ノ自首ナリト爲シ刑法第三百七十三條ノ外ニ同法第八十五條ヲ適
用セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之
ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ主点ハ被告共ノ自首タル被害者ニ於テ犯人ノ誰タルヲ確認セシ後ニ係レハ其効ナシ
ト云フニアリ因テ原裁判所ノ一件書類ヲ調査スルニ被害者ノ手續書等ニ依レハ被告共カ被

害者ニ首服スル前ヨリ被害者ニ於テ其舉動ヲ疑ヒシ顛末ハ之レ有リト雖モ被害者ハ已ニ此時ニ於テ犯人ノ被告兩名タルヲ確知セリトノ事蹟ハ一モ觀ルヘキモノナシ況ンヤ原裁判官ニ於テ既ニ被告カ首服シタルハ事ノ未發前ニ係ルト認定セシニ於テオヤ則チ之ニ刑法第十七條及ヒ第八十五條ヲ適施セシハ至當ニシテ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也

第二千三號

○判文(量計犯則)明治十六年三月十三日上告
同 年十二月十八日發付

石川縣下新川郡魚津眞成寺町平
民石油小賣商

澤

井 文 三 郎

明治十六年二月

三十七年四月

右文三郎カ定規増減アル枴ヲ所有シタル被告事件ニ付明治十六年二月六日魚津治安裁判所ニ開キタル金澤輕罪裁判所於テ刑法第二百二十九條ニ依リ仍ホ同第八十九條第九十條ニ照シ重禁錮十五日科料金壹圓ト言渡シタル裁判ニ對シ被告文三郎カ上告セル要旨ハ原言渡中定規ノ二合半壹合及ヒ五勺ニ相當スル云々トアルハ量目ニ増減ナキモ無檢印ノ枴ナリト云フ用語ナルヘシ然ルニ定規増減ノ枴ヲ所有セシ同一ノモノト判定ストセラレタルハ前後錯雜シタルノミナラス比附モ亦太シキ不法ノ裁判ナリト云ヒ又原檢察官カ附帶上告ノ旨趣ハ原裁判所カ刑法第四十三條ニ背キ不正ノ枴ヲ沒収セサリシハ不法ナリト云フニアリ爰ニ大

審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ニ據リ之ヲ審按スルニ原判文前段然ルニ該枴ヲ檢査スルニ不定規ノ貳合半壹合及五勺ニ相當スル云々ト掲載シテ而メ後段右ハ定規増減ノ枴ヲ所有セシ同一ノモノ云々トセシハ事實ノ理由前後相齟齬セシナ以テ果シテ無檢印ノ枴ヲ所有セシニ過キサルカ將タ定規ニ増減アルカ否ノ事實ヲ審明セサレハ擬律當否ノ如何ヲ監査スルニ由シナキ不法ノ裁判ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ニ則リ富山輕罪裁判所ニ移シ審判セシムル者也

第二千四號

○判文(謀殺未遂)明治十六年十一月十五日上告
同 十六年十二月十九日發付

福島縣磐城國石川郡上蓬田村十
八番地居住平民酒造場雇人

秋

田 淺 次 郎

明治十五年六月

二十九歲四月

明治十五年六月八日宇津宮輕罪裁判所會議局ニ於テ右秋田淺次郎カ謀殺未遂犯ナリトノ豫審終結言渡ニ對シ爲シタル故障ノ申立ヲ審理シ被告人ノ所爲ハ明治十五年二月八日下野國芳賀郡祖母ケ井村ニ於テ爭論ノ後他ニ所用ナキ小刀ヲ以テ宮澤榮吉ヲ毆打シ創傷ヲ成シタル証憑充分ナリトシ豫審判事カ謀殺未遂犯ト認定シタル言渡ヲ取消シ刑法第三百二條ニ定メタル犯罪ニシテ刑法第三百一條ニ照シ罰ス可キ輕罪ナルニ因リ宇都宮輕罪裁判所ニ移ス

トノ判決ヲ爲シタリ

原裁判所檢事補須古織之助ハ該判決ニ對シ上告ヲ爲シタルノ趣意ハ第一會議局ノ判決ハ治罪法第二百二十八條同第三百四條ニ背キ其謀殺未遂犯ニアラスシテ毆打創傷タルノ理由ヲ明示セサル者ナリ第二被告人ハ入用ナキ小刀ヲ携帯シ宮澤榮吉カ働キ居ル場所ニ至リ事ニ託シ小幡七藏ヲ遠ク而シテ前ノ事覺ヘ居ルカト聲掛ケ小刀ヲ以テ榮吉カ脇腹ニ突キ立五ケ所ニ傷ケ且其傷ハ突キ疵ニシテ残酷ナルヲ見レハ止タ創傷セントノミノ意志ニシテ爲シ得可キ所ニアラサルコトハ衆証明白ナリトス第三假ニ一步ヲ讓リ其事實ハ會議局判決ノ如ク毆打創傷ナリトスルモ其示シタル法律ノ正條ハ該被告事件ニ適用ス可キ者ニアラス何トナレハ宮澤榮吉ハ左肩膊上膊關節ニ残酷ナル傷ヲ負セラレタルカ爲メ左手ハ廻轉及ヒ上舉スルコト能ハサルニ至リ即チ癱瘓ト爲シタル者ナレハ刑法第三百一條第一項ヲ以テ罰スヘキ者トノ判決モ亦擬律錯誤ナリト言ハサルヲ得ス以上ノ理由ニ原キ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ

對手人秋田淺次郎ハ答辨書ヲ差出サスシテ期限經過ノ後附帶上告ト題シ其趣意書ヲ差出シタレモ檢察官カ爲シタル上告ノ各項ニ對シ事實ヲ辨解シ結末ニ至リ迅速相當ノ判決ヲ請フト謂フニ過キス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ原會議局ノ判文ヲ檢スルニ其文ニ曰ハ秋田淺次郎ハ明治十五年二月八日下野國芳賀郡祖母ケ井村ニ於テ爭論ノ後他ニ所用ナキ小刀ヲ以テ宮澤榮吉ヲ毆打シ創傷ヲ成ス其白狀並ニ被害人ノ告訴及ヒ証人ノ陳述其他ノ文書ニ據リ証憑充分ナレハ其所爲ハ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病休業ニ至ラシムルノ犯罪ノ質ヲ完成ス云々トノミニテ其判決上最必要ナル致傷ノ深淺形狀ヲモ明示セス又何等ニ依リ二十日以上ノ時間疾病休業ニ至ラシメタル者ト認メタルヤ之ヲ要スルニ治罪法第二百二十八條ニ悖リ事實ノ理由ニ不備アル者ト謂ハサルヲ得ス依テ該判決ヲ破毀シ更ニ同等ノ裁判所ニ移サレシテ望ムト陳辨セリ茲ニ審理判決スルコト左ノ如シ

本案原會議局ノ判決ハ被告人ノ所爲ハ豫メ謀テ毆打創傷シタル者ト認定シタルカ如シト雖モ其判決ハ祖母ケ井村ニ於テ爭論ノ後他ニ所用ナキ小刀ヲ以テ宮澤榮吉ヲ毆打シ創傷ヲ成スコト云々トノミアリテ其意思方法ノ如何又被害者ノ傷ハ其身體ヲ殘廢シタルニアラサル乎否ヤニ付其事實ヲ付セスシテ漫然刑法第二百二條ニ當ル犯罪ナリト爲シタルハ治罪法第二百二十八條ニ背反シタル不法ノ判決ニシテ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル上告ノ理由アル者トス而シテ秋田淺次郎カ附帶上告ト題スル趣意書ハ單ニ檢察官ノ上告ニ對スル答辨ヲ期限經過後ニ差出シタルニ過キサレハ無効ノ者ニ付之カ辨明ヲ與ヘス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ福島輕罪裁判所白河支廳ニ移シ更ニ適法ノ判決ヲ爲サシムル者也

第二千五號

○判文(偽造私印)明治十六年十一月廿八日上告
 年十二月十九日發付

福島縣岩代國信夫郡福島町南裏
 五丁目齋藤濱吉方寄留平民未決

囚人

野崎 仁 平 治

年齡不詳

嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移サレシトテ訴フル要領ハ福島輕罪裁判所豫審判官ハ渡邊又兵衛ノ
惡意ヲ以テ爲シタル告訴ヲ偏信シ被告人ノ利益トナルヘキ證據ハ更ニ採用セラレス又兵衛
ハ該裁判所爲換金ヲ取扱フ第七國立銀行ノ支配人ニテ月給渡シ等ノ關係アリシヨリ自然
同人ヲ曲庇シ到底公平ナル裁判ヲ受ル能ハサルニ因リ他ノ裁判管轄ニ移サレシトテ願フト
云フニアリ

對手人檢事補松田矩準ハ告訴人渡邊又兵衛カ福島始審裁判所爲換金取扱第七國立銀行支
配人ノ位置ニ在ルヲ奇貨トシ無根ノ言ヲ構ヘ廳員ヲ忌避シ他廳ノ審理ヲ受ケントスルモ謂
レナキ申分ニ過キサレハ不當ノ訴ナリト考量スト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告檢事長渡邊驥カ意見書ニ因リ判決スル左ノ如シ
被告仁平治カ訴訟ノ理由トスル處告訴人又兵衛ハ該裁判所爲換金取扱フ銀行ノ支配人ナレ
ハ自然之ヲ曲庇スルノ嫌疑アリト云フニアリト雖モ果シテ其曲庇セントスルノ嫌疑アルヘ
キモノナリト見ルヘキ廉アルニアラス列舉論難スル處總テ過察猜忌ニ出テタルモノナレハ
裁判管轄ヲ移スノ原由ト爲スニ足ラス因テ本案訴訟ヲ棄却スル者也

第二千六號

○判文(不覺囚徒逃走)明治十五年十二月廿一日上告
同 十六年十二月十九日發付

福岡縣豊前國企救郡恒見村士族

福岡縣四等看守

川崎 滿 五 郎

明治十五年十一月
三十九年十一月

右滿五郎カ被告事件ニ付明治十五年十一月二日福岡輕罪裁判所於テ被告ハ明治十四年十月
十一日ヲ以テ懲役七年ニ處セラレタル囚徒吉田藤太郎カ外役先ヨリ逃走シタルヲ覺ラサル
モノトシ刑法第百五十條第一項ヲ適用シ罰金四圓ニ處シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所
檢事補井上計之助カ上告ノ要旨ハ該囚ハ曩キニ懲役七年ニ處セラレタルモノナルニ因リ現
今ニ在テモ明治十四年第八十一号布告第一條第七項ニ照セハ重罪ノ囚徒ナルヲ明白ナリ因
テ被告ニ對シテハ刑法第百五十條第二項ヲ適用スヘキニ同條第一項ヲ以テ處罰シタルハ擬
律ノ錯誤ナル不當ノ裁判ニ付キ破毀ヲ求ムト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢
事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第百五十條ニ「看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二拾
圓以下ノ罰金ニ處ス」其第二項「若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ參圓以上參拾
圓以下ノ罰金ニ處ス」トアリ然ルニ本件逃走ノ囚人ハ新法實施以前ニ在テ舊法ニ依リ懲役
七年ニ處斷セラレタル者ニシテ當時舊法ニ於テハ重輕罪ノ區別アルニ非サルヲ以テ該囚人
ヲ稱シテ本條第二項ニ所謂重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ト云フヲ得サルナリ故ニ本案被告
カ所爲ニ對シ右第百五十條第一項ニ依リ處斷セシハ相當ノ裁判ニシテ破毀スヘキ理由ナキ

モノトス因テ該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ
第二千七號

○判文(贓物寄藏) 明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十二月十九日發付

大阪府南區日本橋通五丁目十四
番地平民

村上淺次郎

明治十五年十月
二十一年三月生

贓物寄藏被告事件ニ付明治十五年十月二十一日堺輕罪裁判所カ治罪法第二百六十二條ニ依
リ棄却ノ言渡ヲ爲シタルヲ不當トシ原檢察官ハ上告セリ其要領ハ被告カ所爲タル車熊吉ヲ
教唆シテ竊盜ヲ犯サシメタルト大石「キク」ノ贓品ヲ寄藏シタルトノ二罪ナルヲ以テ縱令教
唆事件ハ其証憑ナキニ因リ免訴トナルモ寄藏事件ノ消滅スヘキ理由ナシ然ルニ原裁判所ハ
其免訴トナリタル教唆事件ト本案被告事件トヲ混同シ同一ノ事件ニ付罪名ヲ變更シテ再ヒ
起訴シタルモノト爲シ治罪法第二百六十二條ニ依リ棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ノ裁判ナ
ルニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
原檢察官上告ノ理由ニ付訴訟書類ヲ閱スルニ被告カ犯罪ヲ教唆シタルト贓物ヲ寄藏シタル
トハ全ク別個ノ事件ニシテ同一ノ所爲ニ係ルモノニ非サルナリ而シテ原檢察官ニ於テハ教
唆事件ニ付テハ豫審ヲ求メ寄藏事件ハ豫審ヲ要セサルモノト見込ミ直チニ公判ニ付シタル
モノナレハ縱令豫審ニ於テ免訴ノ言渡アリタルモ其豫審ニ關係ナキ寄藏事件ハ之ヲ受理審

判セサル可カラス然ルニ原裁判玆ニ出テスシテ本訴ヲ棄却シタルハ即チ法律ニ背キ公訴ヲ
受理セサルモノトス因テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ被告事件ハ神戸輕罪
裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也
第二千八號

○判文(工業妨害) 明治十六年二月一日上告
同 年十二月十九日發付

兵庫縣攝津國神戸區多聞通一丁
目平民

荒水茂助

明治十五年十一月
四十六年

右茂助カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十一日神戸輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年
九月二十八日神戸區多聞通二丁目坂田與吉方於テ矢吹常吉カ屋根繕ヒヲナス節己レノ得意
先ヲ奪ヒシトテ其繕ヒヲ爲スニ用フル鋸及熊手手斧等ヲ持テ去リ之ヲ妨害セシモノト判定
シ刑法第二百六十九條第二百六十八條ニ照シ一月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シタル
裁判ニ對シ被告上告ノ要旨ハ矢吹常吉カ鋸及熊手手斧等ノ職具ヲ持去リシハ同人ノ工業ヲ
妨害シタル者ト判定セラレタレ其ノ職具ヲ持歸リシハ工業妨害ト云フモノニ非ラス何ト
ナラハ被告ニ於テ受負ヲ爲シ取扱中工事ノ弟子トシテ告訴人矢吹常吉カ鑑札ヲ有セズ傍ヨ
リ之ヲ爲シタルニ付當時師弟ノ間ニ行ハレシ習慣ノ懲戒法ヲ用ヒタルヲ以テナリ且告訴人
ハ未ダ無鑑札ノ者ナルニ因リ工業者ト云フ可ラス因テ被告カ行爲ハ法律上罰スヘキ正條ナ

二百八十七

シ又職具ヲ持歸リシハ懲戒ノ爲メナレハ罪ヲ犯スノ意ナシ若シ罪ヲ犯シタル所爲トスルモ罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタルモノナレハ不論罪トナルヘキ筈ナルニ刑法第二百六十九條同法第二百六十八條ヲ適用シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告カ上告旨趣ノ歸着スル所ハ被告ニ於テ矢吹常吉カ工業ヲ妨害シタリト認定セラレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ過キスシテ事實判定上ニ不服ヲ鳴ラスニ過キス然ル諸般ノ証憑ニ依リ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ專ラ原裁判官ニ任スル所ノ職權ニシテ其職權ニ立入り不當ヲ論難スルモ治罪法第四百十條ノ各項外ニ涉リ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス因テ該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千九號

○判文(紙幣拐帶)明治十六年二月廿二日上告
年十二月十九日發付

東京府下谷稻荷町士族

池田 鈿五郎

明治十五年十二月十八年一月

金圓拐帶被告事件ニ付明治十五年十二月四日土浦輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十五條第三百九十九條第三百九十四條第九十二條第八十條第七十條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補山口重理ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ原裁判所ハ被告ノ處爲チ金圓拐帶セシ者ト認定シテ刑法第三百九十五條第三百九十九條ヲ適用シタ

ルハ當チ得タルモ附加ノ罰金ヲ科セサルハ不當ノ裁判ニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人池田鈿五郎ハ答辨セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

刑法第三百九十九條ニ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス又同法第三百九十五條ニ受寄ノ財物借用物云々若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ストアリ而原裁判所ハ既ニ被告ノ所爲ヲ認メテ金圓ヲ拐帶セシモノトシ刑法第三百九十五條第三百九十九條第三百九十四條ヲ適用シナカラ其罰金ヲ附加セサリシハ全ク擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百卅一條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

池田 鈿五郎

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第三百九十九條ニ掲クル罰金ノ範圍内ニ於テ四圓ノ罰金ヲ附加スルモノ也

第二千十號

○判文(竊盜)明治十六年一月廿五日上告
年十二月十九日發付

秋田縣羽後國由利郡元町村三十
四番地平民醫業

東海 林隆岱

二百八十九

明治十五年八月

四十八年六月

秋田輕罪裁判

右隆岱カ被告事件ニ對シ明治十五年八月二十四日本庄治安裁判所ニ開キタル秋田輕罪裁判所ニ於テ被告ハ人ノ桑葉ヲ竊取シタルノ所爲アリトシ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ仍ホ同法第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ一月ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付スル旨言渡タル處被告隆岱ハ之ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲セル要領ハ被告カ曩キニ其宅地ヲ黒木久七ヘ賣渡シタルモ該地ニ生植セル桑樹ハ之ヲ賣渡タルニ非サルヲ以テ今回之レヲ摘取ラセタル次第ナレハ更ニ刑法上ノ制裁ヲ受ク可キ理由ナキニ原裁判官ニ於テ右久七ノ誣告ヲ信シ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ原裁判所檢察官ハ原裁判相當ナリト旨趣ヲ答辨セリ

爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢察官ノ陳述ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告旨趣ノ歸スル處ハ只偏ヘニ原裁判官カ爲シタル事實判定上ニ對シ不服ヲ鳴スニ過キストス然ルニ諸般ノ證據ヲ鑑別シ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ治罪法第四百六十六條ノ法章ヲ以テ專ラ原裁判官ノ權域ニ任放スルモノナレハ他ヨリ敢テ其當否ヲ論難スルヲ得ヘカラサルノミナラス到底本案ハ治罪法第四百十條各項ノ規定外ニ涉リ上告ヲ爲スヲ得ルノ原由ナキヲ以テ同法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スル者也

第二千一號

○判文(放火)同 明治十六年十一月十日 上告 年十二月十九日發付

熊本縣肥後國山鹿郡石淵村百五

十番地平民

上

野長平

明治十六年十月二十四日

放火被告事件ニ付明治十六年十月十九日熊本重罪裁判所カ刑法第四百二條ニ依リ死刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告上野長平ハ上告セリ其要領タルヤ被告ハ方保田村神社祭禮ノ當日飲酒酩酊ノ爲メ前後忘却シ會テ藤原内作所有ノ空屋ニ繫キ置キタル馬ノ安否ヲ窺フ際誤テ火ヲ失シタルモノニシテ故意ヲ以テ放火シタルニ非ス假リニ放火ノ罪アリトスルモ空屋ニ火ヲ放チタルモノナレハ刑法第四百三條以下ニ該ルヘキ罪ナルニ原裁判所カ刑法第四百二條ニ依リ死刑ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在リ
原裁判所檢察官三宅榮寬ハ上告ノ旨趣タル原裁判官ノ特有スル權内ニ侵入シ事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ其効ナキモノト思量スル旨答辨セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ被告代理人角田眞平ノ陳述ヲ聽ニ上告ノ趣意ヲ擴張シテ曰抑モ事實ノ判定ハ裁判官ノ權内ニ在リト雖モ其証憑ノ明示ナキニ於テ固ヨリ法律ノ許サ、ル所ナリ原裁判官言渡ヲ閱スルニ司法警察官檢察官豫定判事ノ調書証人ノ陳述トノミ在リテ如何ナル証人ノ如何ナル陳述ニ據テ被告事件ノ事實ヲ認定セラレタルモノナル哉其明示ナキヲ以テ之ヲ知ルニ由ナキ而已ナラス果シテ横手金四郎居住ノ家屋ヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ放火シタルモノナルヤ否ノ点ニ就テハ毫モ其証據ノ見ルヘキモノナシ要スルニ原裁判官ハ証憑ヲ明示セサルト事實ノ理由不備ニ係ルトノ二點ニ付破毀ノ原由有ル

モノナリト立會檢事池上三郎ハ之ヲ辨駁シ到底上告ノ原由ノナキモノナリト開陳セリ依テ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡ヲ閱スルニ金四郎ノ住居スル家屋ヲ燒拂ハント決意シ長太郎所持ノ摺付木ヲ竊カニ取出シ之ヲ以テ金四郎住宅ノ合壁ナル藤原門作所有ノ空屋ニ放火シ該空屋始メ横手金四郎天野直次郎水町德藏月足亭喜ノ居宅ヲ燒燬シタルヲ明確ナリ云々トアリテ其所爲ノ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬スルノ念慮ニ出タルヲ明確ナレハ刑法第四百二條ニ擬スヘキ犯罪タルヤ論ヲ俟タス又訴訟書類ニ徵スルニ被告カ山鹿警察署ニ對シ爲シタル任意ノ白狀及各証人ノ陳述等ニ據レハ被告カ犯罪ノ証跡顯然タル而已ナラス原裁判所カ是等ノ証憑ヲ明示シ以テ右ノ如ク被告事件ノ事實ヲ認定セシモノナレハ事實ノ理由ニ瑕瑾アルコトナシ其他上告ノ理由トスル所ハ放火ニ非ス失火ナリト云ヒ知覺精神ヲ喪失シタルモノト云フニ在リト雖原裁判所カ正當ノ証憑ト特權トヲ以テ認定シタル事實ヲ批難スルニ過キサレハ採用スルニ由ナキモノトス因テ上告趣旨ハ總テ相立タス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也
第二千十二號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月廿日發付

三重縣志摩國答志郡鳥羽大里町
士族政知次男

坂 本 森 彌

明治十五年十一月十八年八月

明治十五年十月三十一日山田輕罪裁判所ニ於テ右被告人坂本森彌ハ竊盜ノ科ニ因リ重禁錮一月十五日監視六月ノ處刑ヲ受ケ附加刑執行中兼テ寄宿セル坂本貞樹方ヲ逃走シ刑法附則第二十七條第一ニ背犯シタル者ト爲シ刑法第五百五十五條刑法第八十一條ニ依リ重禁錮十一日ニ處スト言渡ヲ爲シタリ

原裁判所檢事補結城顯彦ハ該裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人ニ於テハ附加刑執行中明治十五年九月三日度會郡山田新町ニ於テ烟花興行ノ際此ニ參會シタル所爲ヲ以テ刑法附則第二十七條第二項ヲ犯シタルモノトシ明治十五年九月十二日原裁判所ニ於テ刑法第五百五十五條刑法第八十一條ニ依リ重禁錮二十日ニ處セラレタリ而シテ其群集ノ場所ニ參會シタルハ明治十五年九月三日ニシテ受監ノ場所ヲ逃走シタルハ明治十五年八月二十九日以後ニ在リ群集ノ場所ニ參會シタルハ即チ其逃走中ノ所爲ニ屬スルヲ以テ二罪ヲ構造スヘキ者ニ非ス故ニ逃走ノ所爲ヲ問ヒ群集參會ノ所爲ハ不問ニ置クヘキ者トス然ルニ本件ハ欠席裁判ナルヲ以テ審問固ヨリ不盡途ニ斯ノ如キ誤斷ヲ來セリ事ノ順序ニ就テ觀レハ群集參會ノ所爲ニ對スル裁判ヲ破毀シ受監場逃走ノ項ニ付刑責ノ言渡アラノコトヲ望請スル當然ナリト雖モ奈何セン群集參會ノ項ハ既ニ裁判確定シタリ故ニ順序ヲ以テ論シ難キニ依リ向者ノ群集參會ノ處斷ヲ以テ逃走ノ所爲ニ對シタル裁判ト看做シ今般逃走ノ所爲ニ付言渡シタル裁判ヲ破毀アラノコトヲ請求スト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ被告人カ

第二ノ所爲即チ群集參會ノ所爲ハ第一ノ所爲即チ受監場逃走ノ所爲中ヨリ生シタルモノナ
レハ先ツ第一ノ所爲ヨリ問フヘキヲ至當トス然レモ被告人ハ既ニ第二ノ所爲ヲ以テ處刑ヲ
受ケタルニヨリ今復第一ノ所爲ヲ罰スヘキニ非ス然ルニ原裁判茲ニ出テサリシハ擬律錯誤
ノ裁判ナルヲ以テ該言渡ヲ取消サレノヲ希望スト陳述セリ
茲ニ之ヲ審案スルニ被告人ハ二次ニ刑法第五百五十五條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ其第二次ノ
犯罪ハ前ニ發シ已ニ判決ヲ經タル者ナレハ其第一次即チ本件ノ犯罪ハ刑法第五百二條ノ例ニ
照シ別ニ之ヲ論スヘキ者ニ非サルニ原裁判所カ前發ノ罪アリテ已ニ判決ヲ經タルヲ知ラ
スシテ別ニ之ヲ論シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス依テ
治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スヲ左
如シ

坂本 森 彌

前ニ辨明スル如クナルニ因リ被告人ノ所爲ハ刑法第五百五十五條ニ依リ處斷ス可キ處一罪
前ニ發シ已ニ判決ヲ經タルヲ以テ刑法第五百二條ノ例ニ照シ前發ノ刑ト等シキニ因リ更ニ
之ヲ論セス

第二十三號

○判文(貨幣偽造) 明治十六年三月七日上告
年十二月廿日發付

石川縣加賀國江沼郡大聖寺耳聞
山士族與三吉父無職業

土川 文三

明治十五年十一月
五十二年

同縣同國同郡同所三ツ屋町平民

大工職

藤生 卯三郎

明治十五年十一月
三十三年二月

同縣同國同郡同所今出町平民桶

職

吉野 平作

明治十五年十一月
四十二年九月

同縣同國同郡同所相生町平民洗

張職

並河 仙三郎

明治十五年十一月
五十三年

同縣同國同郡同所中道桶職

萩森 喜三平

明治十五年十一月
四十五年九月

右文三外四名カ偽造古金銀賣買被告事件ニ付明治十五年十一月廿四日金澤輕罪裁判所於テ

二百九十五

被告萩森喜三平壹名ハ詐欺取財ノ罪アリトシ所犯刑法第三百九十條第三百九十四條ニ依リ重禁錮二月十日ニ處シ罰金四圓及監視六月ヲ附加ス土川文三藤生卯三郎吉野平作並河仙三郎ハ治罪法第二百五十八條ニ從ヒ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ檢事補森繁彦カ上告セル要領ハ被告人等カ大聖寺警察署ニテ陳述セシ調書ヲ檢スレハ人ヲ欺罔シ金圓ヲ驅取シ若クハ古金銀貨幣偽造タルヲ知テ販賣シタルモノナルヤ明カニシテ刑法第三百九十二條第三百九十條等ヲ適用スヘキ犯罪者ナルニ特リ喜三平ニ對シ單ニ同第三百九十條ヲ適用シ文三外三名ヲ無罪ト言渡シタルハ擬律ニ錯誤アリト云フニアリ爰ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ハ原檢察官ノ上告趣意ハ事實判定ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ到底相立サル旨ノ意見ヲ陳述シ且附帶上告ヲ爲シタリ其主旨ハ原判文ヲ檢スルニ被告人中文三卯三郎平作仙三郎ハ偽造ノ右金銀ヲ賣買抵償等爲セシ事實アルモ罪証充分ナラス喜三平ハ平作ヨリ偽造ノ一朱銀ヲ賣捌キ方委託セラレ中村嘉吉ヘ賣渡セシ云々トアリテ各被告人カ偽造ノ貨幣ヲ典賣ナセシ事實アルヲ明瞭タレハ其情ヲ知リタルヤ否ヲ審明シ以テ其理由ヲ明示シ而テ刑法第九十條若クハ同第七十七條二項ニ依リ其一ニ處ス可キモノナリ然ルニ文三外三名ニ對シ證據充分ナラストシ喜三平ニ對シテハ偽造貨幣ノ點ニ付何等ノ判決ヲ爲サ、リシハ不法ナリト云フニ在リ因テ判決スルヲ左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ原檢察官上告趣旨ハ承審官ノ認定シタル事實及ヒ探證ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ訴フルニ過キサレハ是ヲ以テ上告ヲ爲シ得ルノ原由ナキモノトス然レモ原判文ヲ閱スルニ土川文三外三名ハ偽造ノ古金銀ヲ賣買抵償等セシ事實アルモノト認メナカラ其末項

ニ犯罪ノ證據充分ナラストセシハ事實ノ理由前後相齟齬シ擬律ノ當否ヲ鑑査スルニ由シナキノミナラス附帶上告論旨ノ如ク萩森喜三平カ偽造古金銀賣買ノ點ニ付テハ明治十四年十月云々其他ノ事實ハ犯罪ノ性質ヲ具備セストナシ其情ヲ知リタルヤ否及ヒ法律ノ理由ヲ明示セサルハ共ニ不法ノ裁判ナリトス由テ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ治罪法第四百二十八條ニ則リ富山輕罪裁判所ニ移シ之ヲ審判セシムルモノ也

第二千十四號

○判文(竊盜)同 明治十六年三月六日上告 年十二月廿日發付

秋田縣羽後國南秋田郡馬喰町平民

小 笹 德 藏

明治十五年十二月二十五歲

竊盜被告事件ニ付明治十五年十二月十九日秋田輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮十月監視一年ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告人小笹德藏ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人カ一時不良心ヲ生シ竊盜ノ罪ヲ犯シタルハ相違ナキモ其後真心悔悟シ警察署ニ首出セシモノナレハ刑法第八十五條ニ照シ本刑ヲ減輕セラル可キニ原裁判自首減輕ノ言渡ナキハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スヲ左ノ如シ

本案一件書類ヲ審閱スルニ被告人カ犯罪ヲ自首シタリト認ムヘキ証憑アルヲナキモ原檢察

官ノ答辨書ニ被告人ノ所在不分明ナルヲ以テ明治十五年十二月十二日拘引狀ヲ發シ捜査中其翌十三日秋田縣警察本署へ首出シタル者ニ付法律上減等ヲ與フヘキ限ニ非ラストアルニ依レハ其自首ハ已ニ拘引狀ヲ發シタル後ニ係ルヲ以テ固ヨリ事未タ發覺セサル前官ニ自首シタリト爲スヲ得サルナリ故ニ原裁判所カ刑法第八十五條ノ例ヲ適用セザリシハ相當ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣相立タサルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第二千十五號

○判文(烟草稅犯則)明治十六年三月一日上告
同 年十二月廿日發付

山形縣羽前國南村山郡山形七日

市村平民煙草小賣渡世

深 瀬 倉 治

明治十五年十二月
六十二歲

明治十五年十二月二十三日山形輕罪裁判所ニ於テ右被告深瀬倉治カ所爲ハ明治十五年十二月十三日明治十年第十四號公布ニ違反シ自用ノ購求ニ充ツ可キ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セズ店頭ニ展示シタルモ右第十四號公布ハ止テ自用ノ購求ニ充ツ可キ製造煙草ハ前以テ印紙ヲ貼用ス可シト達シタルノミ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナシトシ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ

原裁判所檢事補大内幹ハ右ノ裁判ニ對シ上告ヲ爲シタル要旨ハ明治十年第十四號公布ニ云

々トアルハ其賣渡ス節貼用スルノ成規ヲ前以テ貼用ス可シト成定シタルモノニシテ則被告カ所爲ハ煙草稅則第三則第七條ニ依リ罰スヘキ犯罪ナリ然ルヲ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

明治十年第十四号布告第一項ニ製造煙草ノ儀ハ自用ノ人へ賣渡ス節印紙貼用可致成規ニ有之候處爾來自用人ノ購求ニ宛テ候製造煙草ハ前以テ印紙貼用致シ可置云々トアルハ即チ明治八年第五百十号布告煙草稅則第三則第七條ヲ追補シタルモノナレハ被告人カ明治十五年十二月十三日ニ於テ自用ノ購求ニ充ツ可キ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セズ店頭ニ展示シタル所爲ハ其犯時ニ在ツテハ檢察官カ上告趣旨ノ如ク該煙草稅則第三則第七條ニ煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼用セズ自用ノ人へ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍科料可申付事トアルニ依リ處斷スヘキモノトス然ルヲ原裁判所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ即チ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルヲ左ノ如シ

深 瀬 倉 治

前ニ辨明スル如クナルニ依リ被告カ所爲ハ其犯時即チ明治十五年十二月二十三日ニ在ツテハ明治十年第十四號布告第一項同八年第五百十號布告煙草稅則第三則第七條同第二則第三條ニ依リ脫稅高金六十五錢ノ二十倍金十三圓ノ罰金ニ處ス可キ處刑法第三條末項ニ依リ明

治十五年第六十三號布告改定煙草稅則第三十五條ニ煙草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ比照スルニ舊法ノ刑新法ノ範圍内ニ在ルヲ以テ新法ニ從ヒ罰金十圓ニ處スル者也

第二千十六號

○判文(毆打創傷)明治十六年二月二日上告
同 年十二月廿日發付

山梨縣東八代郡一櫻村二百五十
五番地平民農業

井

上

瀧藏

明治十五年十一月
二十三年七月

右瀧藏カ毆打創傷被告事件ニ付キ明治十五年十一月十七日甲府輕罪裁判所於テ刑法第三百一條ニ依リ重禁錮一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人井上瀧藏カ上告セル要旨ハ實父兵左衛門カ井上國太郎ト爭論セルヲ偵知シ該場ニ至リタルキ岩田五作ニ制セラレ毫モ國太郎ニ接近セサレハ同人ニ負傷セシメ之レナキナリ然レモ假リニ原判文ニ示セルカ如ク國太郎チ毆傷セシモノトスルモ子タル本分ニ於テ爲サ、ルヲ得サルノ所爲ニ過キサレハ無罪タルヤ論ヲ俟タサルニ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フニアリ依テ專任判事ノ報告及立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

本案上告ノ趣旨ハ被告於テ井上國太郎チ毆打創傷セシメ之ナシ假リニ此事實アリトスルモ正當防衛ニ出タル所爲ナルニ事實ヲ審究セスノ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フト雖原判

官カ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ニ從ヒ諸般ノ証憑ニ心証ヲ資リ以テ事實ヲ判定セシモノナルハ之ヲ訴訟書類ニ照合スルニ明確ニシテ毫モ違法ノ虞アルコトナシ故ニ本件上告ハ到底相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ヲ棄却スルモノ也
第二千十七號

○判文(毆打創傷)明治十六年三月十三日上告
同 年十二月廿日發付

高知縣土佐國長岡郡大堀村平民
農業

蒲

原

繁

吉

明治十五年十一月
四十年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十一月十日高知輕罪裁判所カ刑法第三百一條第三項ニ依リ一月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告人カ實弟馬次郎ニ於テ被告人カ妻「千代」チ毆打スルニ付之ヲ防止セシノミニシテ馬次郎チ毆打セシコトナシ然ルニ原裁判所ハ蒲原周輔外一人ノ證言醫師ノ診斷書等其證ト爲スヘキモノニアラサルニ之ヲ犯罪ノ證憑トシ刑ヲ言渡サレタルハ不法ナリト云フニアリ
對手人檢事補村田穗ハ原裁判允當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處弟馬次郎チ毆打セシニアラサルニ原裁判所ハ依ルヘカラサル證憑ニ依リ刑ヲ言渡サレタルハ不法ナリト云フト雖モ要スルニ事實裁判所カ認定セシ事實ニ對シ採

證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告ノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス

右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第二千十八號

○判文(侮辱) 明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十二月二十日發付

静岡縣遠江國敷知郡濱松宿表早
馬町二十五番地士族同縣駿東郡
沼津宿本町内下小路町四十三番
地寄留沼津新聞編輯長

山 本 達 也

明治十五年九月

三十八年七月

明治十五年九月六日沼津治安裁判所ニ開キタル静岡輕罪裁判所ニ於テ右山本達也カ被告事件ヲ審判シ被告人カ沼津新聞第七十七號雜報欄内ニ當驛カラ十五六町隔リシ某村ニテハ云々掲載シタルハ我入道村戸長石井長三郎ノ職務ヲ侮辱シタルモノナリトシ刑法第四百一一條ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ストノ言渡シヲ爲シタリ被告人山本達也ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ沼津新聞第七十七號雜報欄内ニ掲載シタル文中ニ○長ト記シタルハ丸山講ノ講長ヲ指シタルモノニシテ決シテ戸長ヲ指シタルモノニアラサルニ原

裁判所ニ於テ戸長ヲ指シタルモノナリトシ刑法第四百一一條ニ依リ處斷セラレタルハ不法ナリト謂フニ在リ對手人警部川上親賢ハ原裁判ハ相當ニシテ上告ノ旨趣ハ採用セラレヘキモノニアラサル旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ被告人カ差出シタル代言人角田眞平ノ論辨ヲ聽クニ沼津新聞ニ掲載シタル文中ニ○長トアルハ戸長ヲ指シタルモノト假定シテ論センニ該文中ニ掲載シタル所ハ只戸長タル某一個人カ丸山講ニ熱心シ虎列刺病豫防ニ意ナキコト記載シタルマテニシテ毫モ戸長ノ職務上ニ關係ナキモノナリ然ルチ刑法第四百一一條ニ依リ處斷セラレタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト辨明シ檢事林三介ハ原裁判言渡書ニ於テ被告人ハ新聞紙上ニ石井長三郎カ衛生上ノ事務ニ不注意ナルコト侮辱シタルモノト事實ヲ舉示シ相當ノ裁判ヲ與ヘタルコト判然タレハ上告ノ旨趣相立タストノ意見ヲ陳述セリ茲ニ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

凡裁判言渡ヲ爲スニハ治罪法第三百四條ニ從ヒ必ス判定シタル事實ノ理由ヲ明示セサルヘカラス然ルニ本案ハ沼津新聞第七十七號雜報欄内ニ掲載シタル某村ノ○長トハ我入道村戸長石井長三郎ヲ指シタル者ナリ依テ戸長ノ職務ヲ侮辱シタルモノト確認スル旨ヲ舉示シタルノミニシテ其戸長ノ職務ヲ侮辱シタル事實ハ毫モ之ヲ明示セス是レ治罪法第三百四條ニ違背シタル言渡ニシテ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル上告ノ原由アル不法ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判言渡ヲ破毀シ横濱輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月廿六日上告
明治十六年十二月二十日發付

京都府上京區第一組社突拔町平
民寒暖計職

山口友五郎

明治十五年十月

三十八年五月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十月三日京都輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十條同第二
百十條同第二百十二條同第百條同第八十五條ニ依リ重禁錮五月罰金十圓監視七月ニ付スト
處斷セシ裁判ニ對シ上告セシ要領ハ被告カ所爲ハ債主岡安「ヒサ」承諾ノ上無根名義ノ証書
ヲ差入タルモノニシテ偽造証ヲ以テ人ヲ欺キ金ヲ得タルニ非サルニ詐欺取財ヲ以テ處斷セ
ラレタルハ事實ニ適當セサルモノト思料ス又裁判言渡書ニ一ノ重キ証書偽造ノ罪ニ從フト
アレモ前述ノ如ク無根ノ名義ヲ明言シ債主モ承知ノコトナレハ偽造ト云フヘカテサルニ偽
造者ト同一ノ處分ハ服シ難シト云フニ在リ對手人檢事補谷口重輝ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁
シ原裁判ハ至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ論旨タル被告カ所爲ハ債主ノ承諾ヲ得テ無根名義ノ証書ヲ差入タルモノナレハ
証書ヲ偽造セシモノト云フヲ得ス然ルニ原裁判官カ之ヲ偽造者ト同一ノ處分ヲ爲シタルハ
不服ナリト云フニ在テ要スルニ承審官カ正當ノ法規ヲ踐ミ判定セシ事實ニ對シ其當否ヲ非

難シテ之カ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ趣旨
相立タストス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第一千廿號

○判文(詐欺未遂)明治十五年十二月十八日上告
明治十六年十二月二十日發付

愛知縣尾張國名古屋區東洲崎町
四十六番地士族充一郎長男無職
業

戸田邦彦

明治十五年六月

二十九年八月

愛知縣尾張國名古屋區松重町四
十番地平民雜品仲買商

山田恆五郎

明治十五年六月

二十五年七月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年六月十四日岡崎輕罪裁判所ニ於テ刑法第四百條同第三百
九十條ニ依リ同第三百九十四條ニ照シ各重禁錮一年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視六月ヲ附
スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ其要領ハ上告人等ハ物品ヲ買受テ其代金ハ賣主買主
雙方承諾ノ上期日ヲ定メ借用証書ヲ差入タルハ尋常ノ賣買ニシテ決シテ詐欺ノ手段ニ非ス

從テ罪アルモノニ非サレハ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人檢事大井治義ハ上告趣旨ノ不當ヲ駁論シ原裁判ハ毫モ法律ニ牴觸セスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所ハ其所爲タルヤ尋常ノ賣買ニシテ詐欺ノ手段ニ非サレハ從テ罪アルモノニ非スト云フト雖モ要スルニ承審官カ各種ノ証憑ニ據リ判定セシ事實ニ對シ其當否ヲ批難シ之カ覆審ヲ求ムルニ外ナラスシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ナキノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第二千廿壹號

○判文(証書變造) 明治十六年三月九日上告
年十二月二十日發付

岡山縣備前國和氣郡和氣村平民

藤原松太郎

明治十六年一月四十一日九月生

右松太郎カ被告事件ニ付明治十六年一月十二日岡山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ證書ヲ變換シテ行使シタル者トシ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ニ依リ仍ホ原諱スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ三月ノ重禁錮ニ處シ三圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告松太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ犯罪ノ事實探證ノ如何ヲ論難シ無

罪ノ被告ヲシテ有罪ト判定セラレシハ不服ナリト云フニ在リ對手人檢事補樺島鎮八ハ原裁判至當ナリトノ旨趣ヲ答辨セリ玆ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡上告ヲ爲シ得ヘキモノハ治罪法第四百十條各項ノ制裁アルアリテ之ニ則テサルヲ得ス本案ハ事實裁判官ノ判定上ニ對シ徒ラニ事實探證ノ如何ヲ論告スルニ過キスシテ該條項目外ニ涉リ上告ノ理由ナキモノトス由テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スル者也
第二千廿二號

○判文(山林盜伐) 明治十六年三月七日上告
同 年十二月廿日發付

高知縣土佐國香美郡山北村平民

安岡儀太郎

明治十五年十二月三十八年

右儀太郎カ山林盜伐被告事件ニ對シ明治十五年十二月五日高知輕罪裁判所於テ刑法第百五條同第三百七十三條同第三百七十六條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告八カ上告爲シタル要領ハ被告カ長男兼吾等ヲシテ樹木ヲ伐採セシメタルハ山北村々民入會ノ習慣ニ依ルモノタリ若シ夫レ三年以上ノ樹木ハ伐採スルヲ得サル條理アリトスルモ被告ハ別ニ其制限アルヲ認知シテ伐採セシメタルニアラサレハ毫モ罪ヲ犯スノ意ナキモノニシテ罪トナルヘキ所爲ニアラス然ルヲ判文ニハ既ニ入會ノ習慣アルヲ認メナカラ其慣習ハ淺水二三年ヲ出テサルモノナリト爲スノ理由ヲ付セス又被告所爲ノ惡

意ニ出テシトノ理由ヲモ付セスシテ處斷爲セシハ不法ニシテ尙且ツ擬律ニ錯誤アリト云フニアリ同裁判所檢事補村田穂ハ本件公訴ニ及ヒ置ク處到底罪トナルヘキモノニ非ラス民事上損害要償ニ止ルモノト思料シ公訴權ヲ拋棄セシモ該裁判所ハ刑法ニ問ヒ被告カ之ヲ不當トシ上告ナシタル趣意ハ本職ニ於テモ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ適シ至理ノ上告ト認ムル旨ノ答辨ヲ爲シタリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本按ノ論告ハ歸スル所被告カ所爲ハ惡意ニ出テタルニ非サレハ破毀ノ原由アリト云フニ過キス然ルニ本案ノ事實タル原判文中首メニ伐採スヘカラサル樹木タル所以ノ明証ヲ提舉シ嗣テ「被害者ノ差止メヲモ肯セス又戸長協議ニモ關セス之ヲ伐採セシメタルハ云々」トアルニ據レハ其之ヲ盜伐ナリト認定シタルノ事實即チ惡意ニ出テタル所爲ナルコト明瞭ナリトス然ラハ則チ單ニ民事ノ賠償ニ止マラサルハ勿論承審官カ諸般ノ徵憑ニ據リ認定シタル事實ナレハ他ヨリ輒スシ其當否ヲ論難スル能ハサルノミナラス到底治罪法第四百十條ニ規定セル各項外ニ涉リ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千廿二號

○判文(遺失物隱匿) 明治十六年十一月廿一日上告
 年十二月二十日申渡

埼玉縣武藏國兒玉郡本庄驛六十
 一番地平民

藤 綱 筆 五 郎

明治十六年十一月
 三十七年

遺失物隱匿被告事件ニ付明治十六年十一月十六日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ刑法第三百八十五條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタル裁判確定ノ後大審院檢事長渡邊驥ハ之ヲ不當ナリトシ非常上告ヲ爲セリ其要領ハ筆五郎ハ他人ノ遺失物ヲ拾得テ隱匿シタル罪アリトシ刑法第三百八十五條ニ依リ重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加ストノ裁判ヲ受ケタリ然ルニ本條ノ明文十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアレハ則チ其重禁錮及ヒ罰金俱ニ主刑タルヲ以テ該犯ノ情狀ヲ量リ禁錮罰金ノ中一ニ從ヒ相當ノ刑法ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判前顯ノ如ク罰金五圓ヲ附加刑ト爲シ重禁錮二月ト併科シタルハ治罪法第四百卅五條ニ所謂相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡セシ不法ノ處斷ナルニ付原裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ判決アリ度ト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以之ヲ審案スルニ刑法第三百八十五條ニ遺失物及ヒ漂流ノ物品ヲ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上廿圓以下ノ罰金ニ處ストアリテ禁錮罰金各主刑タレハ其孰レカ犯罪ノ情狀ニヨリ一ニ從テ處斷スヘキヲ原裁判ノ爰ニ出スシテ之ヲ併科シタルハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百卅一條ニ照シ之カ一部ヲ破毀シ併科シタル罰金ヲ取消スモノ也

第二千廿四號

○判文(誹毀) 明治十六年三月廿日上告
 年十二月廿日發付

右育太郎カ被告事件ニ付明治十五年十二月十九日德島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ普通新聞紙ニ洲博通ノ榮譽ヲ害スヘキ事項ヲ掲ケ以テ同人ヲ誹毀シタルモノトシ刑法第三百五十八條ニ依リ被告ハ二十歳未滿ノ者ニ付仍ホ同法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ十一日ノ重禁錮ニ處シ三圓七十五錢ノ罰金ヲ附加シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告上告爲シタル要旨ハ洲博通ヲ誹毀シタル覺ナキニ其所爲アリト判定セラレ又假リニ普通新聞紙ニ同人ヲ誹毀シタル事ヲ掲ケタルニモセヨ同新聞ニ之ヲ掲ケタル當時ハ投書ノ儘ヲ記載シタルモノニテ博通ヲ誹毀スル意ナキヲ以テ不論罪ニ係ルモノト云フニ在リ原裁判所檢事補川久保亮太答辨ノ主要ハ原判決適當ナリト云フニ外ナラス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ會立檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡ソ上告ヲ爲シ得ヘキノ場合ハ治罪法第四百十條各項ニ依ラサルヘカラサルハ勿論ナリ今被告上告ノ要旨ハ人ヲ誹毀シタル所爲ナク又不論罪ニ係ルモノヲ以テ有罪ナリト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在テ原裁判官カ被告事件ノ事實認定上ニ不服ヲ鳴スニ過キスシテ到底該條各項以外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス因テ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ棄却スルモノ也

第二千廿五號

○判文(騙取) 明治十六年二月五日上告
全 年十二月廿日發付

兵庫縣播磨國揖西郡龍野村平民
民事原告人 矢野平兵衛

右矢野平兵衛於テハ明治十五年十一月九日姫路輕罪裁判所カ本窪田勇ニ係ル證書ヲ騙取シタル被告事件ヲ審判シ被告事實ハ犯罪ノ證據ナキニ因リ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣意ハ本窪田勇ニ對シ公訴ニ附帶シ損害賠償ノ請求ヲ目的ト爲シ私訴セシ處犯罪ノ證據ナシトノ言渡アレハ是レ畢竟盡ニ可キ審理辨論ヲ遂ケスシテ秘密ノ間ニ處分ヲ結了シ終ニ闕席ノ儘判決ヲ下付セラレタルハ越權ノ處分ナリ故ニ治罪法第三百六十五條第四項及ヒ第三百七十一條ノ規則ニ從ヒ控訴セント欲スルモ既ニ明治十四年第七十四號ヲ以テ治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セスト布告アルニ因リ治罪法第四百十二條ニ原キ上告ヲ爲スト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ノ規則ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ本案ノ如キ被告事件ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル時ハ私訴ハ自カラ消滅ス可キ者ナル乎治罪法第二條第八條第二百二十四條第二項第三百六條及ヒ其第二項等ニ依ルニ私訴ニ對シテモ亦特ニ言渡ヲ爲サ、ル可ラス蓋公訴私訴牽連密着シテ起廢相伴フモノ或ハ之レアラシクハ毆打創傷事充分ナリト言渡サレタル民事原告人ハ是唯公訴ノ一斑ニ由テ私訴ノ全豹ヲ推知スルニ過キサ人カ被告ニ對スル藥餌料要求ノ如キニ免訴ノ爲メニ被害者カ訴權ノ消滅ス可カラサルヤ其レ明カナレハ私訴ノ裁判言渡ヲ

爲ス可キヲ亦無論ナリトス故ニ本案民事原告人ハ宜ク治罪法第三百六條第二項ニ掲クル裁判言渡ヲ受ケタル後該裁判ニ不服アラハ治罪法第三百六十五條第三項ニ定メタル規則ニ基キ之カ控訴ヲ提起シ要償ノ金額始審裁判所ノ終審權内ナル時ハ上告ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ上告人ハ是等ノ道アルニモ拘ハラズ原裁判官カ公訴裁判ニ對スル探證ノ當否ヲ論難シ民事原告人ノ啄ヲ容ルヘキ事項ニアラサルヲ喋々スルニ過キサレハ棄却ノ言渡アルヘキ者ト開陳セリ仍テ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ論旨ハ原裁判所カ被告人本窪田勇ニ言渡タル裁判ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十二條ニ定メタル民事原告人カ上告ヲ爲スヲ得ルノ場合ニ適當セサルモノナリ而シテ上告人ハ明治十四年第七十四號布告ヲ以テ定メタル治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セストアルヲ刑事ニ附帶スル民事ノ控訴ヲモ實施セサル者ノ如ク誤解シ直ニ上告ヲ爲シタルモ本院檢事意見ノ如ク相當ノ手續ヲ經タル上ニアラサレハ固ヨリ上告ヲ爲スヲ得サル者トス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第二千廿六號

○判文(竊盜未遂)明治十六年三月十五日上告
同 年十二月廿一日發付

神奈川縣武藏國南多摩郡鶴間村
平民當時同縣同國橘樹郡程ヶ谷
驛帷子町七十五番地吉野幾八方

雇人

押

田 紋 吉

明治十五年十二月十八年十一月生

竊盜未遂被告事件ニ付明治十五年十二月十三日橫濱輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第三百七十五條第百十二條第八十一條第八十九條第九十條第三百七十六條ニ照シ十五日ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ被告ハ帷子川ニ於テ三浦伊之助ノ垂シ置シ釣具ヲ竊取セント爲シタル覺ヘ無キニ原裁判所カ其罪アリト斷定セシハ不服ナリト云フニ在リ
對手人檢事補清水純孝ハ原裁判ノ適當ニシテ上告ハ理由ナキ旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ要旨ハ帷子川ニ於テ三浦伊之助カ垂シ置シ釣具ヲ竊取セント爲シタル覺ヘハ非サルニ原裁判所ハ其犯罪アルモノト爲シ處斷セラレタルハ不服ナリ抑其事實ニ入り判定ノ適否ヲ論難スルトイヘ抑承審官カ各証憑ニ據リ判定シタル事實ニ對シ漫リニ其可否ヲ非難スルヲ得サルハ治罪法第四百十六條ニ掲ケテ明確ナリ要スルニ上告ノ点ハ治罪法第四百十條ノ各項ニ適當セサルヲ以テ其趣旨相立サルモノトス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第二千廿七號

○判文(詐斯取財)明治十六年一月廿五日上告
全 年十二月廿一日發付

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十一月三十日高田輕罪裁判所カ之ヲ二罪ナリトシ一ツノ重キ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ三年ノ重禁錮ニ處シ二十圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被告作次郎ニ於テ瑣國讓ノ依頼ヲ受ケ其代人トナリ勸解廷へ出願セシヨアルニアラス果シテ其代人トシテ出頭セシモノナレハ其代人タルノ委任狀寫シ代人願一件限リナル受書此三通ヲ差出シアルヘキ筈ナルニ是カ取調ヲモ爲サス代人トシテ出頭シタルモノトセラレタルハ審理不盡ナリト云ヒ而シテ上告追伸書ヲ以テ申立ル其第一ハ平野鉄十郎ノ申供ハ正實ニアラストノ第二證人下鳥喜七ノ陳述ハ被告人ノ罪ヲ斷スル證トスヘキ効力ナシトノ第三丹羽氏繁ノ陳述ハ被告人反對ノ證ヲ擧ケタルハ消滅スヘキ筈ナリトノ第四國讓ハ普通證人トナスニ足ラス而シテ反對ノ證ヲ擧ケタルニ消滅セシメサリシトノ第五竹俣得乘ノ陳述ハ如何ナル理由ニヨリ被告人ノ罪ヲ斷スル効力アルヤ否ヤノ第六證據書類トハ貸金證書ノ三通ヲ指シタルヤ然ラハ則事實ニ齟齬アリトノ如ク不法ノ裁判ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人檢事補堀小太郎ハ原裁判允當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ因リ上告代言人池田有恒ハ上告及ヒ追伸書ノ趣旨

ヲ擴張辨明シ立會檢事加納久宜ニ於テハ上告趣旨ノ理ナキヲ述ヘ續テ附帶上告セシ其要點ハ被告作次郎カ國讓ヨリ日當料トシテ金一圓五十錢ノ證書ヲ受取リタルモノナリト認メナカラ刑法第四十三條ニ依リ三通ノ證書ヲ沒收スト言渡タルハ擬律錯誤ナリト考量セリ加ルニ被告人カ得乘ヨリ受取リタル金二十圓八十錢ノ證書國讓ヨリ受取リタル金六圓五十錢ノ證書ハ共ニ欺罔ノ手段ヨリ得タルモノニテ刑法第三百九十條ノ罪ヲ成立セシモノナルニ原裁判所ハ却テ其末ニ就キ財物騙取ノ未遂犯ニマテ論究セシハ是亦擬律錯誤ナリト云フニアリ因テ之ヲ審按スルニ

上告ノ理由トスル處國讓カ代人トシテ勸解廷へ出頭シタルコアルニアラサルニ原裁判所ハ其緊要トスル取調ヲ爲サス且追伸書第一ヨリ第六ニ至ル不服ヲ唱フルニアリト雖モ原裁判所ノ特任スル事實認定ニ侵入シ探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ

附帶上告ノ理由ニ付訴訟書類ヲ見ルニ被告作次郎カ得乘ヨリ受取タル金二十圓八十錢ノ證書及ヒ國讓ヨリ受取タル金六圓五十錢ノ證書ハ欺罔ノ手段ニ因リ得タルモノナリト見ルニ足ルモ前ニ國讓ヨリ日當料トシテ受取リタル證書ハ欺罔ノ手段ヲ以テ得タルモノナリトモ見ルニシ由ナク裁判言渡ヲ見ルモ其不正ヨリ得タルモノナリト認メタルニアラス突然外ニ通不正ニ得タル證書ト共ニ沒收シタルハ擬律錯誤ナリトス又被告作次郎カ得乘及ヒ國讓ヨリ受取タル三通ノ證書ハ欺罔ノ手段ニ出テタリト認メ刑法第三百九十條ヲ適施シタルハ允

當ナリト云フモ其得タル證書ヲ以テ金圓ヲ詐取セントセシ行爲ニ對シ財物騙取ノ未遂犯ナ
リト論及ヒシハ一罪中ノ行爲ヲシテ二罪ナリト誤認シタルモノニテ則チ證書騙取又ハ財物
ヲ騙取セントセシモ共ニ刑法第三百九十條ノ支配スヘキ事實タル法文上明晰タレハ是亦擬
律錯誤ニ係ル治罪法第四百十條第十項ニ該ル上告ノ原由アル裁判ナリト判定ス
右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却シ附帶上告ニ付治罪法第四百二
十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

鹽井作次郎

原裁判言渡ニ認メタル事實ノ理由及ヒ証憑ニ依リ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルコト明白ナリ即
チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ

刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪
ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百九
十四條ニ前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタルモノハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアル
ニ該ル

因テ被告鹽井作次郎ヲ重禁錮二年六月ニ處シ罰金二十圓監視八月ヲ附加シ竹俣得乘ヨリ
受取タル金二十圓八十錢ノ證書及ヒ捐國讓ヨリ受取タリ金六圓五十錢ノ證書ハ之ヲ沒収
シ外一通ハ被告作次郎ニ還付スル者也

第二千廿八號

○判文(賣藥犯則) 明治十六年十一月廿八日上告
年十二月廿一日發付

長野縣信濃國上伊奈郡東伊奈村

第二百七番地平民

下平常次郎

明治十六年八月二十七日飯田治安裁判所ニ開キタル長野縣輕罪裁判所松本支廳ニ於テ右下平
常次郎カ賣藥規則違犯被告事件ヲ審理シ刑法第五條ニ依リ賣藥規則第三章第二十條第二十
三條ヲ適用シ仍ホ明治十四年第七十二号布告第五條ニ照シ無鑑札ニテ調製セシ藥劑及ヒ賣
得金十五圓三十二錢六厘ヲ沒収シ藥劑一方ニ付二十五圓ツ、即チ七方ノ罰金百七十五圓並
ニ無鑑札ニテ行商セシハ一方ニ付五圓ツ、即チ七方ノ罰金三十五圓ニ處スト言渡シタリ被
告人常次郎ハ右ノ裁判ニ對シ明治十六年九月二十四日ヲ以テ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要旨ハ
第一一角寶王丸ハ第一号証ノ如ク一角生精丸ト同一ノ藥ニシテ一角生精丸賣藥出願ノ際其
願書ニ一角生精丸一名ハ一角寶王丸ト記載シ官許ヲ得タルモノナルニモ拘ハラズ賣藥規則
ニ反キタルモノトシ第二寶母散及ヒ清氣散ハ第二号証ノ如ク免許期限中製藥セシ殘餘ナル
ヲ無鑑札ニテ調製セシモノトシ第三和中飲萬金丹天壽丸深香血噴散ノ四方ハ被告人ノ實父
茂八カ明治五六年頃ト覺ヘ製藥セシモノナルニ被告人カ無鑑札ニテ調製セシモノトシ裁判
セラレタルハ共ニ事實及ヒ証憑ニ錯誤アル言渡ナレハ治罪法第四百三十九條第五項ニ依リ
再審ヲ求ムト謂フニ在リ大審院檢事長渡邊驥ハ本訴ノ旨趣ハ相立タサルモノト思考スルニ
因リ速ニ棄却ノ言渡アラシムトノ意見書ヲ差出シタリ大審院ニ於テ治罪法第四百四
十四條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告人カ無免許ニテ賣藥七方ヲ調製シ且無鑑札ニテ行商販賣セシ所爲ハ相當官吏ノ作リタル調書被告人ノ白狀其他証據物件等ニ依リ犯狀明白ナルヲ以テ之ヲ法律ノ正條ニ照シ相當ノ處分ヲ爲シタルモノナレハ裁判上毫モ違法ノ點アルニ非ス而シテ被告人カ再審ヲ請求スル爲メ提供シタル第一號証ナル者ハ被告人カ賣藥營業願書ニ係リ其第二号証ハ被告人ノ亡兄下平彌七カ明治八年中清氣散賣母散ノ賣藥免許ヲ受ケタルヲ記載セシ帳簿ノ謄本ニシテ共ニ公正ノ証書ト爲スヲ得ルモノニ非ズ又假ニ公正ノ証書ト看做スモ一角賣王丸ト生精丸トハ包紙及ヒ效能書ヲ異ニシ其別製ニシテ同物ニ非サルハ被告人カ公判廷ニ於テ自白スル所ナリ其他賣母散清氣散ハ被告人ノ亡兄彌七カ曾テ賣藥免許ヲ受ケタルヲアリト謂フニ止マリテ本案事件ニ關係ナキモノナレハ之ヲ以テ証憑書類ト爲スヲ得ヌ要スルニ本訴ハ治罪法第四百三十九條ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ再審ノ原由ナキモノトス依テ本件再審ノ訴ヲ棄却スルモノナリ

第二千廿九號

○判文(竊盜) 明治十六年二月十三日上告
同 年十二月廿一日發付

岡山縣備前國赤坂郡太田村平民

宮 木 雅 三

明治十五年十一月

四十年四月生

明治十五年十一月十八日岡山輕罪裁判所ニ於テ右雅三八人ノ煙草入書筒ヲ竊取シタル者ト判定シ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ輕キ舊法ニ從ヒ賊盜律竊盜條ニ依

リ懲役五十日ニ處スル旨ヲ宣告セリ

宮木雅三カ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ第一原裁判所カ竊取シタリトナス煙草入ハ曾テ姓不詳留造ヨリ買取タル者ニシテ竊取シタル品ニ非サルヲ竊盜律ニ依リ處斷シタルハ不服ナリ第二煙草入ヲ買賣シタルハ明治十三年中ノ事ナルヲ原裁判所ハ明治十四年中ノ行爲ナリト判定シタルハ事實齟齬ノ判決ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ニ因リ原裁判所ノ簿加ヲ審閱スルニ被告カ自由任意ノ陳供田淵與三郎及ヒ被害者佐藤嘉久太カ陳述ニ依リ事實ヲ認定シ前記ノ如ク判定シタル者ニシテ毫モ不當トナス廉アルヲナシ而テ上告第一ノ要旨ハ徒ラニ事實ノ認定ニ對シ不服ヲ唱フル者ニシテ素ヨリ其原由トナラサル者トス又第二ノ要旨ハ事實ノ齟齬云々記述スト雖モ原裁判言渡書ヲ閱スルニ「被告人ハ明治十三年八月云中云々」トアリテ明治十四年ノ行爲ト判定シタルヲ視ス然ラハ則チ原裁判ハ事實ノ理由ニ於テ不當アルヲナキヲ以テ是又上告ノ理由トナスヲ得サル者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千三十號

○判文(竊盜及ヒ偽造私書) 明治十五年十二月廿一日上告
同 十六年十二月廿一日發付

山口縣周防國佐波郡米光村平民

農業

中 小 路 庄 吉

三百十九

三百二十
明治十五年十月
三十五年六月生

竊盜及ヒ私書偽造等ノ被告事件ニ付明治十五年十月二十九日山口輕罪裁判所カ刑法第三百六十六條同第三百七十六條同第九十二條同第百二條ニ依照シ一年ノ重禁錮ニ處シ一年ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事松長光吉ハ上告セリ其要領ハ庄吉カ被告事實ノ內金錢借用證書及ヒ地券預リ證書ヲ偽造シタルモ行使ノ目的ヲ遂ケサルモノコト未遂罪ナルニ原裁判所ハ竊盜ノ罪ノミヲ論シ證書偽造ノ罪ニ及ハサルハ請求ヲ受タル事件ニ付判決ヲ與ヘサル治罪法第四百十條第七項ニ適當スルモノナリトシ爰ニ破毀ヲ求ムト云フニアリ對手人中小路庄吉ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
公判始末書中檢察官陳述ニ(中 其證書ヲ偽造シ未ダ使用セサル所爲ハ刑法第二百八條第二項同第二百十條同第二百十二條同第二百十一條ニ依ルヘク云々)トアルヲ以テ見レハ果シテ其意見ノ如キ罪アルモノナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ審理上ニアルヘキモノナルモ求刑ヲ受ケタル一罪ニ對シ其罪ノ有無ヲ判斷宣告セサルハ上告趣旨ノ如ク所謂治罪法第四百十條第七項ニ該ル上告ノ原由アル裁判ナリトス因テ同第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメシメ爲メ廣島輕罪裁判所ヘ移ス者也

第二千卅壹號

○判文(田地重抵當)明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年十二月廿一日發付

新潟縣越後國三島郡明ヶ谷村平

民農業

小林庄一郎

明治十五年十月
三十三年三月

田地重抵當被告事件ニ付明治十五年十月十四日長岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ニ比照シ刑法第三百九十三條第二項同第三百九十條ニ依リ及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ二月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告ノ要領ハ裁判言渡書ニ犯罪ノ事實ト証憑ヲ明示セス是即テ治罪法第三百四條ニ違反シ且被告カ向キニ抵當ト爲シタル地所ヲ重テ抵當ニ貸渡シタルモ毫モ自己ノ利益ヲ要セス加フルニ其債主ヘ損害ヲ與ヘサレハ公益ト道德トヲ害シタルトナシ畢竟友人ヲ救助セント欲スルノ熱心ノ爲メ一時ノ過失ニ出テタル者ナレハ之ヲ罰スルノ法令アルヲ聞カス若シ重抵當ハ法意ノ禁スル所ニシテ法律ニ制裁アリトセハ明治十四年第七十二号布告第四條ニ依テ處斷アルヘキコソ相當ナルニ原裁判所カ已ニ改正セラレタル新律綱領雜犯律不應爲條不應爲重キニ問ヒ而シテ刑法第三百九十三條第二項及第三百九十條第三百九十四條等ニ比照シ處斷セラレタルハ擬律ノ錯誤ニシテ乃チ治罪法第四百十條第九項第十項ノ場合アルヲ以テ上告スト云フニ在リ
對手人檢事高野薫ハ上告ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判ハ其當ヲ得タルモノナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
按スルニ上告ノ理由トスル所其一ハ原裁判言渡書ニ犯罪ノ事實ト証憑ヲ明示セサルヲ以テ違法ナリト云フト雖モ原裁判言渡書ヲ查スルニ詳細其事實ヲ掲ケ並ニ証憑ヲ明示シアレハ

三百二十一

之ヲ指シテ違法ト云フヲ得ス其ニハ被告カ所爲ハ一時ノ過失ニ出タルモノナレハ罪トナル
ヘキモノニ非スト云フト雖也既ニ抵當ト爲シタル地所ヲ重テ抵當ニ貸渡シタルハ其所爲全
ク欺隱ニ屬スルモノニシテ固ヨリ情理ニ於テ爲スヲ得ヘカラサルモノナレハ之ヲ舊法不應
爲條ニ問ヒ新法第三百九十三條第二項及ヒ第三百九十條ニ比照シ仍ホ新舊比照例ニ依リ所
斷セシハ允當ノ裁判ニシテ毫モ擬律ノ錯誤ニ係ル点アルヲ見ス之ヲ要スルニ自家一己ノ見解
ヲ以テ承審官カ正當ノ法規ヲ踐ミ判定セシ事實ニ對シ其當否ヲ非難スルニ過キサレハ治罪
法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千卅二號

○判文(故殺) 明治十五年十二月十九日上告
同 十六年十二月廿一日發付

山梨縣甲斐國北巨摩郡圓野村平
民

矢 卷 順 作

明治十五年十月

三十五歲八月

同 人 妻 八 十 十

明治十五年十月

二十四歲

同縣同國同郡同村平民

伊 藤 尙 芳

明治十五年十月
二十九歲四月

右「ハナ」及ヒ尙芳カ姦通事件ハ順作カ故殺未遂事件ニ附帶スルモノトシ併セテ山梨重罪裁
判所ニ移ストノ豫審終結言渡ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補澁谷孝世ハ故障爲シタルニ付
明治十五年十二月十二日甲府輕罪裁判所會議局ニ於テ故障ノ理由ナシトシ豫審判官ノ言渡
ヲ相當ナリト認可セシ處同檢察官ニ於テハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告三名ノ所爲タル同
一ノ場所ニ於テ同時ニ犯シタルモノナレハ順作ト外二名トハ各其犯罪ノ目的ヲ異ニスルノ
ミナラス被告等互ニ原被ノ地位ニ立ツモノナレハ之カ被害者モ亦相異ナレリ左スレハ治罪
法第三十九條ニ示シタル附帶犯ノ例ヲ適用ス可キ場合ニ之レナク犯姦事件ノ分ハ輕罪裁判
所ニ移ス可キモノナレハ此旨趣ヲ以テ豫審ノ故障ニ及ヒシ處同裁判所會議局於テモ尙ホ本
件ヲ附帶犯ナリト爲シテ故障ヲ棄却シ豫審判官ノ言渡ヲ認可セラレシハ不當ナリト云フニ
アリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ原裁判所會議局ノ判決相
當ニシテ上告ノ理由アラサル旨ヲ陳述セリ茲ニ之ヲ判決スル左ノ如シ
原檢察官論告ノ主旨治罪法第三十九條第一項ニ記定セル附帶犯ノ例ヲ適施スヘキ場合ハ管
ニ犯罪ノ時ト場所ト同一ナルヲ要スルノミナラス犯罪ノ目的及ヒ其被害者ノ同一ナルヲ
要ストノ事ナレハ同項ニハ(同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタル時)
トノミアリテ犯罪ノ目的及ヒ被害者ノ同一ナルト否トヲ區別シアルコアラサレハ強チ一ニ
歸スルヲ要セス只管犯罪ノ時ト場所トニ於テ相牽連スルアルヲ要スルノミ今本件ヲ審案ス
ルニ被告等ハ各其犯罪ノ目的ヲ殊ニシ被害者モ亦異別ナルモ其時ト場所トニ至テハ固ヨリ

同一ナルノミナラス順作ノ所爲ハ則チ他兩名ノ犯姦ニ起因スル結果ナルニ付其事實情況互ニ牽連スル所アリテ審理上分轄シ得可カラサルモノナレハ豫審判官ニ於テ該犯姦罪ヲ故殺事件ニ附帶スルモノトシ併セテ山梨重罪裁判所ニ移スト言渡セシハ相當ニシテ其之ヲ認可セシ原裁判所會議局ノ判決モ亦隨テ至當ナリトス以上ノ理由ニシテ上告ノ論旨相立サルニ付治罪法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

第二千卅三號

○判文(酒造稅則違犯)明治十六年二月一日上告
同 年十二月廿一日發付

石川縣加賀國石川郡北安田村平
民農業

喜多與三郎

明治十五年十二月

七十七年五月

酒造稅則違犯被告事件ニ付明治十五年十二月一日金澤輕罪裁判所カ同稅則第三條同第二十九條ニ依リ清酒配ヲ沒收シ罰金六十圓ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ酒造並賣廻營業人心得書規則ニ依リ出願致シ稅金收領証受取り置キ乃チ酒配ニ着手シタルモノニテ酒造稅則ニ違犯セシニアラサルニ原裁判所ハ同則第二十九條ニ依リ罰セラレタルハ不法ナルニ因リ納稅証及ヒ酒造營業聞届寫相添へ破毀ヲ求ムト云フニアリ
對手人檢事補川北良哉ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處既ニ納稅後着手セシモノナレハ酒造稅則ニ違犯シタルニアラス云々ト納稅証及ヒ酒造營業聞届書寫ヲ添へ論訴スルニアリト雖モ公判始末書中其二個ノ証憑ヲ提出シタルヲ見ルヘキ跡ナク且其辯護ニ至テモ一言之ニ及ヒタリト見ルヘキアルニアラサレハ原裁判ヲ經サル証憑ニテ之ヲ反證ナリト爲スヲ得ス假リニ一步ヲ讓リ原公判廷ニ提出シタル証憑ナリトスルモ石川縣十等屬一丸方ニカ告發書中十月二十二日發見シ云々トアリテ其營業聞届ノ日附ハ十月二十七日トアルヲ以テ見レハ免許ヲ受ケサル以前ナルヲ明瞭ナレハ其納稅後タルヲ以テ犯則ニ非ストノ上告趣旨ハ相立タス
右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第二千卅四號

○判文(竊盜)明治十六年三月七日上告
同 年十二月廿一日發付

福島縣岩代國北會津郡若松大町
一ノ丁平民無職業

岡部算三郎

明治十五年十一月

十九年七月

右算三郎カ被告事件ニ對シ明治十五年十一月二十七日米澤輕罪裁判所ニ於テ所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ新舊法ヲ比照シ輕キ刑法第五百五條同第三百九十五條ニ依リ仍ホ同第三百九十條同第八十一條第八十九條第九十條第七十條ヲ適用シ一年六月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加ス但明治十四年第八十一号布告ニ照シ監視ヲ附加セスト言渡シタル裁判ヲ不法ト

シ檢事西村實カ上告セル要領ハ被告算三郎カ連續犯中或ハ首トナリ或ハ從タレハ名例律共
 犯罪分首從條ニ依リ即チ本律竊盜條及分首從條ヲ適用シ加減スヘキモノナルニ賊盜律雇人
 盜家長財物律ニ依リタルハ不法ナルノミナラス若狹屋ニ於テ郡役所預金ナルヲ知リ五圓余
 消費セシハ刑法第三百九十九條ト同第三百九十條トノ數罪併發ニ係レルモノナルニ右三百
 九十九條及ヒ數罪俱發例ヲ適用スルノ理由ヲ付セス而シテ明治十四年第八十一号布告第六
 條ノアルニ拘ハラシ罰金ヲ附加セシハ不法ナリト云フニアリ爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立
 會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告於テ共犯人千代吉カ第三十一國立銀行ノ預リ金ヲ
 以テ酒食ノ仕拂ヲ爲スヘキ旨ノ造意ニ同シ又ハ右千代吉ヲ勸メ同人預リ金ノ内三百圓内外
 ヲ取出シタル行爲ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法ニ於テハ名例律犯罪分首從條及ヒ賊盜律
 竊盜條ニ依リ主贓金三百圓以上懲役終身ニ處スヘキニ該リ新法ニテハ刑法第四百條第三百
 九十五條第三百九十條第三百九十四條及ヒ同第八十一條ヲ適用スヘキニ該當ス因テ刑法第
 三條及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ照シ輕キ刑法ニ從ヒ處斷スヘキモノトス故ニ刑法第
 三百九十九條及數罪俱發例ヲ適用スヘキ云々ノ上告旨趣相立タサルモ原裁判所於テ舊法雇
 人盜家長財物律ヲ適用セシノミナラス輕キ刑法ニ從ヒシニモ拘ラス罰金ヲ附加シタルハ擬
 律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ大審院於
 テ直チニ判決スル左ノ如シ

岡部算三郎

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ行爲ハ原裁判所於テ確認セシ事實ニ據リ舊法ハ名例律犯罪分首

從條及ヒ賊盜律竊盜條ニ依リ處分スヘキニ該リ刑法ニテハ第三百九十條第三百九十五條第
 三百九十四條仍ホ同第八十一條ニ依リ處斷スヘキニ該スルヲ以テ刑法第三條及ヒ明治十四
 年第八十一號布告ニ依照シ刑法第三百九十五條第三百九十條第八十一條及第七十條ヲ適用
 シ重禁錮一月十五日以上三年以下ノ範圍内ニ於テ單ニ重禁錮一年ニ處スルモノ也

福島縣岩代國北會津郡若松材木
 町平民第三十一國立銀行元雇人

星野千代吉

明治十五年十一月十七年三月

右千代吉被告カ事件ニ付明治十五年十一月廿七日米澤輕罪裁判所於テ所犯刑法實施前ニア
 ルヲ以テ舊法改正雇人盜家長財物律改正律例第七十二條ニ依リ懲役終身ニ處スヘキニ該リ
 而シ其自首セシハ刑法實施後ニアルニ依リ舊法自首條ヲ適用スヘカラストス刑法ニテハ第
 三百九十五條第三百九十條第三百九十四條ニ依リ仍第八十一條第八十九條第九十條ヲ適用
 シ自首セルモ犯人ノ誰タルヲ知り得タル後チナルヲ以テ刑法第八十五條ヲ適用スヘキモノ
 ニアテス因テ刑法第三條第二項ニ從ヒ輕キ新法第三百九十五條第三百九十條ニ依リ一年六
 月ノ重禁錮ニ處シ罰金十圓ヲ附加ス但シ明治十四年第八十一号布告ニ照シ監視ヲ附加セス
 ト言渡シタル裁判ニ對シ檢事西村實カ上告セル要旨ハ被告カ所爲ハ舊法賊盜律改正雇人盜
 家長財物律及ヒ名例律犯罪自首條ヲ適用スヘシ刑法ニテハ第三百九十五條第三百九十條第
 三百九十四條第八十一條及第七十條ニ依リ處斷スヘキモノナレハ即チ輕キ刑法第三百九十

條ニ一等ヲ減シ仍ホ明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ監視罰金ヲ附加セサルモノナルニ原
 裁判所於テ名例律犯罪自首條ヲ引用セサルノミナラス罰金ヲ附加セシハ擬律錯誤アル不法
 ノ裁判ナリト云フニアリ爰ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審接スルニ
 被告カ所爲ハ舊法賊盜律改正雇人盜家長財物律凡雇人家長ノ財物ヲ盜ム者ハ竊盜ヲ以テ論
 シ一等ヲ加ヘ管守者ハ又一等ヲ加ヘ并罪懲役終身ニ止ルトアルニ依リ贓金三百圓以上懲役
 終身人ノ官ニ陳告セント欲スルヲ知リ自首セシニ付改定律例第五十九條ヲ適用シ本罪ニ
 二等ヲ減シ懲役七年ニ處スヘキニ該レリ而シテ被告カ自首セシハ刑法實施後ニ係ルト雖モ其
 犯罪ハ即チ舊法中ニアルヲ以テ新舊法ヲ比照シ刑ヲ擬定スルニ舊法自首條ヲ適用スヘキハ
 法理當然ナリトス刑法ニテハ第四百四條第三百九十五條第三百九十四條ニ依リ
 仍ホ第八十一條第七十條ニ照シ重禁錮一月十五日以上三年以下罰金三圓以上三十圓以下ノ
 範圍内ニ於テ處斷スヘキニ該當ス而シテ自首セルモ刑法第八十六條ヲ適用スヘキモノニアラ
 ス因テ刑法第三條及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ輕キ刑法ニ依照シ處斷スヘキモノ
 ナルニ原裁判所於テ改定律例第五十九條ヲ適用セサルノミナラシ罰金ヲ附加シタルハ擬律
 ニ錯誤アル不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ大審院於テ
 直チニ判決スルヲ左ノ如シ

星野千代吉

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ行爲ハ原裁判所於テ確認セシ事實ニ據リ舊法改正雇人盜家長財
 物律改定律例第五十九條ニ依リ處斷スヘキニ該リ刑法ニテハ第四百四條第三百九十五條第三

百九十四條第八十一條ニ依リ處分スヘキニ該ルヲ以テ刑法第三條及明治十四年第八十一號
 布告ニ依照シ刑法第三百九十五條第三百九十四條第八十一條及同第七十條ヲ適用シ重禁錮一
 月十五日以上三年以下ノ範圍内ニ於テ單ニ重禁錮一年ニ處スルモノナリ

第二千卅五號

○判文(官吏抗拒)明治十六年一月廿五日上告
 年十二月廿一日發付

熊本縣肥後國八代郡八代出町居
 住平民當時球磨郡人吉新町九番
 地寄留

鍋島喜二郎
 明治十五年八月
 二十七歲一ヶ月
 廣島縣安藝國豊田郡瀬戸田町居
 住平民當時熊本縣肥後國球磨郡
 人吉町平山勘六雇人

村上米吉
 明治十五年八月
 二十八歲

明治十五年八月十六日人吉治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ右被告人等カ所爲
 ハ暴行且罵詈シテ職務ヲ行フ巡查松岡正義ニ向ヒ腕力ヲ以テ抗拒シ且喜三郎ハ其制服ヲ引
 切警察署ノ提灯ヲ破毀シタル所爲ナリト判定シ喜三郎ニ對シ刑法第百條ニ照シ一ノ重キニ

三百二十九

從七同第百三十九條ヲ適用シ再犯ニ付刑法第九十二條ニ照シ一等ヲ加ヘ重禁錮十月罰金十圓ニ處シ米吉ニ對シテハ喜三郎ノ從犯ト爲シ刑法第百卅九條同第百九條ニ照シ重禁錮六月罰金六圓ニ處スト言渡セリ

被告鍋島喜三郎村上米吉ハ該裁判ニ對シ各上告ヲ爲シタリ其趣意ハ自分共數名渡邊平次郎方ニ於テ會飲ノ末酩酊ニ乘シ平次郎米吉居角力ヲ取リ其勝負ヲ口論シ喜三郎ハ之カ和解ヲ爲シ居ル際突然無提灯ニテ洋服ヲ着タル者入來リ自分共ノ氏名ヲ尋問アルニ付自分共ニ於テモ其者ノ氏名ヲ問ヒタレハ警察署ヘ參ル可シトノ答ヘニ付同伴シ同署ニ至リ一應ノ問答ヲ爲シタルニ彼巡查松岡正義喜三郎ヲ畜生ト詈リ棍棒ヲ以テ毆傷シタリ其間米吉ハヒヤヒヤト呼ハリシコハ覺ヘ居レハ醉中前後ヲ辨セス之ヲ要スルニ自分共ニ於テ暴行其他罪ヲ犯シタルコト無之ト謂フニ在リ

對手人檢察官警部補小野清一ハ被告人等ノ所爲ハ原裁判言渡書ニ明示シタル如クニシテ不當ノ廉ナキ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ被告人等ハ徒ニ犯罪ノ所爲ナシト云フニ止リ治罪法ニ定メタル上告ノ理由無之者ト思量ス然レトモ村上米吉ノ所爲ハ鍋島喜三郎ノ共犯ナルコトハ原裁判官カ判定シタル事實ニ因リ明白ナレハ米吉ニ對シテモ正犯ノ刑ヲ科ス可キ者ナルニ從犯ト爲シ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀シテ直ニ相當ノ裁判アラントヲ望ムトノ附帶上告ヲ爲シタリ仍テ審理判決スルコト左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告人等カ所爲ニ對シ事實及ヒ証憑ヲ舉示シ有罪ナリト判定シタル者ナレハ其点ニ就テハ不法ノ廉アルコト無シ然ルニ被告人等ハ事實及ヒ採証ノ如何ニ付漫ニ不服ヲ訴ヘ到底罪ヲ犯シタルニ非スト辨解スルモ事實ノ判定ハ承審官ノ職權ニ任從シ他ヨリ之ヲ動カスコト得サル者トス依テ上告ノ趣旨ハ不相立ト雖モ原裁判官カ村上米吉ノ所爲ヲ審究シ職務ヲ行フ巡查ニ對シヒヤヒヤト嘲言シ加之暴行人鍋島喜三郎ヘ壓制セラル、マヤレトト喚ハリ喜三郎ト共ニ巡查松岡正義ニ組掛リ且巡查金谷重作ニ向テ齷齪打云々ト嘲言セシヤ明白ナリト認定シナカラ喜三郎ノ從犯ト爲シ刑法第百九條ヲ適用シ且數罪俱發例ヲ用井サルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス如何トナレハ刑法第百九條ノ罪ハ其明文ニアル如ク單ニ豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者ヲ指テ從犯ト爲スノ義ニシテ前顯ニ掲ケタル如ク被告米吉カ所爲ハ一人又ハ二人以上ニテ現ニ罪ヲ犯シ正犯ナルコト明著ナレハナリ以上辨明ノル如クナルヲ以テ被告鍋島喜三郎村上米吉カ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ本院檢事加納久宜カ村上米吉ノ處斷ニ對シ附帶ノ上告ハ其原由アルニ付治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判言渡ヲ爲ス者也

村 上 米 吉

右被告人ノ所爲ハ原裁判官カ認定シタル事實ニ因リ職務ヲ執行スル巡查ニ對シ暴行ヲ以テ抗拒シ且侮辱シタル者ト確認ス依テ刑法第百三十九條及ヒ第百四十一條ヲ適用ス可キニ罪俱發ナルヲ以テ刑法第百條末項ニ照シ一ノ重キ刑法第百三十九條ニ從ヒ四月以上四年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス可キ範圍内ニ於テ重禁錮六月ニ處シ

罰金六圓ヲ附加スル者也

但シ裁判費用ヲ負擔ス可シ

第二千卅六號

○判文(竊盜)明治十六年三月十二日上告
年十二月廿一日發付

新潟縣越後國三島郡小豆會根村
平民農

遠藤利三治

明治十六年一月
三十二年三月

右利三治カ竊盜事件ニ付明治十六年一月二十九日長岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第二百七十六條ニ照シ重禁錮二月監視六月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告利三治上告ヲ爲シタル要旨ハ渡邊重三郎カ被告宅ノ茶ノ間ニ風呂敷包ヲ取忘レ置タルコト付之ヲ開キ見ルニ偽造證書ノ有之ヲ發見シ該偽書ノ所爲ヲ告訴センカ爲メ風呂敷包ノ儘隱匿セシモノナレハ刑法第三百八十五條ニ依リ處斷セラレヘキニ之ヲ竊盜罪ナリトシ刑法第三百六十六條ニ問擬セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ原檢察官中原正夫ハ原裁判適當ニ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案ヲ檢審スルニ原判文ニ被告利三治ハ明治十五年十一月十六日渡邊重三郎カ被告宅ニ持參セシ風呂敷包ノ儘云々書類金錢十九点ヲ竊取シタルト判定シアリ原裁判官カ心證判斷ノ

資料ニ採リシ被害者渡邊重三郎カ盜難届書ヲ觀ルニ自分儀利三治方ヘ立越云々談判ノ末小用ニ參リ歸村可仕心得ニテ居合候處ヘ風呂敷包ニ手拭差置キ小用ニ參リ立戻リ候處風呂敷包無之手拭ノミ有之候ニ付其旨尋問ニ及候處不知旨ヲ以テ答ケリ云々トアリ是ニ因テ之ヲ觀レハ遺忘品ヲ隱匿セシ所爲ニアラサルハ明白ナリ假令上告者申立ノ如ク遺忘品ナリトスルモ現ニ所有主ノ判然トシテ其人ノ取殘シタル金品タルコト明知シナカラ之ヲ取隱シ其金員ノ内費消スル等ノ所爲アルアレハ即チ竊盜犯ニシテ刑法第三百八十五條ノ支配スルモノニアラス因テ原判官カ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用シタルハ相當ナルヲ以テ上告ノ旨趣ハ相立サルモノトス

第二千卅七號

○判文(竊盜)明治十六年十一月十三日上告
年十二月廿一日發付

東京府京橋區鎗屋町八番地平民
古着商

齋藤源次郎

明治十六年十月
三十八歲

竊盜及囚徒逃走被告事件ニ付明治十六年十月十五日靜岡輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百六十九條第四百四十四條ヲ適用シ數罪併發シタルヲ以テ刑法第三百六十六條ニ依リ一ノ重キ竊盜罪ヲ以テ論シ重禁錮五年ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ監視

二年ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告齋藤源次郎ハ上告セリ其趣意書及追伸書ノ要領タルヤ被告ニ於テ竊盜ニ係ル贓物タルノ情ヲ知テ販賣等ノ牙保ヲ爲シタルト留置場ヨリ逃走シタルトハ相違之レナキモ安藤安太郎等ト共謀シテ竊盜ヲ犯シタル覺ナシ然ルチ原裁判所カ被告ノ眞實ニアラサル口供及安太郎ノ誣言等ヲ採用シテ以テ被告ヲ竊盜犯ナリト認定セシハ不當ナリト云フニ在リ

原檢察官ハ上告ノ趣旨タル原裁判所カ特有スル權内ニ侵入シ事實認定ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ其効ナキモノト思量スル旨答辨セリ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

被告ハ原裁判所カ認定シタル事實ノ當否如何ヲ論難シテ以テ上告ノ原由ト爲スト雖モ凡ソ各種ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ判決スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニシテ越權等不法ノ廢アルニ非サレハ輒ク其當否如何ニ論及スルチ得サルハ勿論訴訟書類ニ徵スルモ原裁判所ノ認定ハ毫モ不法ノ點アルチ見ス因テ上告趣意ハ其効ナキモノトス

右ノ理由ナル以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千卅八號

○判文(烟草稅犯則)明治十六年三月廿四日上告
年十二月廿一日發付

岐阜縣美濃國厚見郡鏡島村平民

烟草小賣商

加藤恒次郎

明治十六年一月

二十七年

右恒次郎カ被告事件ニ付明治十六年一月三十一日岐阜縣輕罪裁判所ニ於テ被告ハ烟草稅則第二則第七條煙草印紙ヲ用ユヘキ製造煙草ニ印紙ヲ貼セス自用入ヘ賣出ス者ハ脫稅高ノ二十倍科料可申付事トアルニ依リ脫稅壹厘ノ二十倍即チ金二錢ヲ科シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢事補與野毅ニ於テ上告スルチ以テ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ハ違警罪ノ部分ニ係ル刑ナレハ明治十四年第四十四号布告ヲ以テ違警罪ノ上訴ハ總テ許サ、ルモノナレハ該上告ハ成立サルモノトス因テ之レヲ棄却スルモノ也

第二千卅九號

○判文(毆打創傷)明治十六年三月六日上告
年十二月廿一日發付

和歌山縣和歌山區廣瀨中ノ丁平

民酒仲次商

井

口安兵衛

明治十五年十一月

右安兵衛ニ對シ明治十五年十一月二十九日和歌山輕罪裁判所於テ毆打創傷ノ所爲アルモノトシ刑法第三百一條初項ニ依リ重禁錮一年六月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法トナシ被告入安兵衛カ上告シタルノ要領ハ原判文中金圓貸借ノ事ニ起因シ岡本楠松チ毆打創傷云々トアルモ被告ハ彼等ヲ見識ルモノニアラスシテ彼等ハ被告カ商業上儲ケアルヘシト想像シ謂

三百三十五

レナキ無心ヲ言懸テ剩サヘ惡言暴行ヲ加フルニ因リ不得止携ヘ居ル蝙蝠傘ニ仕込ミタル刀ヲ以テ防衛ノ爲メ切付シ迄ニシテ其罪之レナキニ刑ヲ言渡サレシハ不法ナリト云フニアリ因テ專任判事ノ報告立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
本案上告ノ旨趣ハ承審官カ職權上爲シタル事實認定ノ當否ヲ論難シ不服ヲ訴フト雖モ原訴訟書類ヲ鑑査スルニ毫モ違法ノ廉アルナク到底治罪法第四百十條各項規定外ニ涉レハ上告ノ原由ナキモノトス因テ同法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也
第二千四十號

○判文(官林盜伐) 明治十六年一月廿九日上告
同 年十二月廿一日發付

茨城縣下總國岡田郡古間木村平
民宮本清一郎附籍當時同郡向石
下村増田壽三郎方寄留平民僧侶

中 川 良 平

右良平カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十日下妻治安裁判所ニ開キタル土浦輕罪裁判所於テ被告ハ官有ノ樹木ヲ盜伐セシモノト確認シ刑法第二百七十三條及ヒ同第八十九條同第九十條同第七十條等ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮十五日ニ處シ其第二百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當アリトシ被告ハ上告爲シタル要領ハ上告人カ伐採ノ所爲タル一ハ以テ該杉木ノ漸ク蔓延シテ堂宇ノ

屋根ヲ損害スルヲ以テ之ヲ除カンカ爲メナリ一ハ以テ生徒ノ上告人ハ該寺ニアル井中ニ井カワナシノ井ニテ先年人 落入ルノ恐レ勿カラシムル爲メナレハ其目的兩ナカラ道義ヲ破ラノ落入リタルコトアリ 落入ルノ恐レ勿カラシムル爲メナレハ其目的兩ナカラ道義ヲ破ラズ社會ヲ害セサルヤ明ナリ云々又仮リニ其官木タルヲ知ツテ伐採セシモノトスルモ決シテ盜伐ヲ以テ論スヘキモノニアラス云々該所爲タルハ刑法第七十七條ニ據ルヘキモノト思考セリ仮リニ之ヲ罰セラルヘキモノトスルモ明治七年司法省第三十號達ヲ適用シ明治十四年第七十二號布告第四條ニ照依スヘキモノナリト云ヒ同裁判所檢察官茨城縣警部補新階登ハ原裁判相當ナリト答辨シ又同裁判所檢察官警部水野勝ハ被告人ノ所爲ハ惡意ヨリ起ルニ非ズ然レモ故意ナシト云フヘカラス故ニ刑法第五條ニ依リ明治十四年公布第七十二號第四條ニ照シテ處斷スルハ穩當ナラントノ意見書ヲ添ヘタリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事林三介ハ原裁判相當ナリトノ意見ヲ述ヘタリ因テ之ヲ案スルニ被告人ハ該杉樹ヲ伐採スルモ本寺ノ井戸桁ニ使用スルノ念慮ニシテ其惡意ニ出テサルヲ以テ刑法第七十七條ノ處斷ヲ受クヘキモノナリ又假リニ處罰セラル、モ明治七年司法省達第三十號達ニ依リ明治十四年第七十二號布告第四條ニ據ツテ處斷アルヘキモノナリ云々論告スト雖原裁判言渡書中「云々右証憑ニ依リ官有ノ樹木ヲ盜伐セシモノト確認ス」トアツテ事實裁判官カ之ヲ認メテ盜伐ナリト判定シタルニアレハ之ヲ輒シ非難シ得ヘキ所ニアラサルハ治罪法ノ原則ナリ然ラハ則刑法第七十七條ノ問フ所ニアラサルハ勿論明治七年司法省第三十號ノ達等ニ依リ處斷スヘキモノニアラス因テ該上告ハ總テ相立サルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千四十壹號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月廿八日上告
全 十六年十二月廿二日發付

熊本縣肥後國飽田郡古町村千二
十五番地平民車挽業

救 田 三 次 郎

明治十五年十月

二十五年十月

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月二十七日熊本縣裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條同第
三百七十六條ニ依リ重禁錮四月ニ處シ監視七月ニ付スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補三浦隆
臣上告ノ要領ハ被告救田三次郎ノ行爲ハ被害者カ懷中セシ紙入ヲ竊取シタルモ現場ニ於テ
他人ニ撞見セラレ被害者及ヒ其他數人ニ追逐セラレ盜匪ヲ返還シタル事實ナレハ刑法第三
百六十六條ニ依リ尙ホ同第三百七十五條同第一百二十二條ノ未遂犯ノ例ニ照シ處斷スヘキモノ
ナルチ原裁判所カ竊盜既遂ヲ以テ其刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナレハ破毀
ヲ求ムト云フニ在リ

對手人救田三次郎ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
凡ソ犯罪ノ既未ヲ判スルハ其目的ノ了否ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス今原裁判言渡書ニ據
リ訴訟書類ヲ看査スルニ被告三次郎ノ行爲ハ人ノ懷中セシ紙入ヲ竊取シ其場ヲ立去リタル
後ヲ被害者ノ追逐ニ遇ヒ贓物ヲ返還セシモノニシテ一旦之ヲ占有シ業已ニ竊取ノ目的ヲ了

セシモノナルチ以テ原裁判所カ既遂ヲ以テ處斷シタルハ至當ノ裁判ナレハ本按上告ノ旨趣
ハ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千四十二號

○判文(毆打創傷) 明治十六年三月十二日上告
同 年十二月廿二日發付

愛媛縣伊豫國周布郡新屋敷村士
族農業

宇 高 宗 太 郎

明治十六年一月
五十九年六月

毆打創傷被告事件ニ付明治十六年一月廿二日西條治安裁判所ニ於テ松山縣罪裁判所カ刑法
第三百一條第一項ニ依リ一年ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ被
害者日野清十郎ナルモノ、挑撥ニ因リ彼ヲ毆打セシモ決テ負傷セシニアラサルニ醫師不實
ノ診斷書ニ據リ處斷セラレタレハ事實ニ齟齬セシ裁判ナルチ以テ爰ニ破毀ヲ求ムト云フニ
アリ

對手人檢察官警部武司重淵ハ原裁判毫モ不當ニアラストノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處彼レノ挑撥ニ因リ毆打セシモ負傷セシメタルニアラサルニ醫師不實ノ
診斷書ニ依リ負傷セシメタルモノトシ刑ヲ言渡サレタルハ不法ナリト云フニアリト雖モ要

ナルニ事實裁判所カ特權内ニ侵入シ事實認定ニ對シ採証ノ當否ヲ論難シ覆審ヲ請求スルニ過キサレハ破毀ノ原由ト爲スニ足ラス何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告ノ趣旨相立、ス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也
第二千四十三號

○判文(不覺囚徒逃走)明治十六年三月十三日上告
同 年十二月廿二日發付

鳥取縣伯耆國會見郡米子堅町七
百二十一番次九番地士族當時鳥
取縣監獄米子支署押丁

外 江 民 次 郎

明治十五年十二月
三十八歲九ヶ月

囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル被告事件ニ付明治十五年十二月八日米子輕罪裁判所於テ刑法第五百十條第一項ニ依リ二圓五十錢ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ棄キニ被告カ六名ノ囚徒ヲ率ヒ外役セシムル際一名ノ囚徒草鞋ノ紐ヲ結フニ擬シ竊カニ腰索ヲ解除シタルカ故ニ直チニ之ヲ捕拿セントシタルニ該囚忽チ逸失セシヨリ仍ホ數十歩之ヲ追隨シタルモ別ニ殘囚ノ檢束ナケレハ之ヲ顧ミ躊躇シ遂ニ其踪跡ヲ見失ヒタルモノニテ毫モ懈怠アルニ非ラス又其逃走ヲ覺ラサルニアラサルナリ然ルチ原裁判所カ刑法第五百十條第一項ノ罪アリト斷セシハ不法ナルヲ以テ爰ニ其破毀ヲ求ムル爲メ上告及フ所以ナリト云フニ在リ

對手人檢事補脇谷一郎ハ之ヲ辨駁シ以テ原裁判ノ至當ナル旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ之ヲ審按スルニ刑法第五百十條ノ初項ハ(看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ云々)トアリテ其之ヲ覺テ捕獲シ能ハサル場合ニ適用スヘキ法律ニ非ラス而シテ原判文ヲ見ルニ(俄然逸出セシニ依リ直チニ追蹤セシモ終ニ踪跡ヲ失シタル者ニシテ云々)ト明載アルハ蓋シ其被告カ懈怠ニ因テ囚徒ノ逃走ヲ覺ラサリシニアラス覺テ捕拿シ能ハサルモノト認定セシハ顯著ナリ然レハ未タ該法條ノ罪ハ構造セサルモノナルニ原裁判所ガ之ヲ適用シタルハ則チ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニヨリ破毀ノ原由アルモノニ付同法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ本院於テ直チニ其裁判ヲ爲ス左ノ如シ

外 江 民 次 郎

右辨明ノ如ク被告民次郎ノ所爲ハ法律ニ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ罰ス可カラサルモノニ付無罪

第二千四十四號

○判文(車稅犯則)明治十五年十二月廿三日上告
同 十六年十二月廿二日發付

富山縣越中國射水郡高岡舊旅屋
門前百四十三番地平民綿打職

三百四十一

車稅犯則被告事件ニ付明治十五年九月五日高岡治安裁判所ニ開ク富山輕罪裁判所ニ於テ刑法第五條明治八年第二十七號布告車稅規則第六則明治十四年甲第九十八號布達違警罪目第二條刑法第一百一條ニ依リ明治十四年第七十二號第三條ヲ適施シ罰金拾圓ト處斷セシ裁判ニ對シ原檢察官大塚榮次郎上告ノ要領ハ被告周次郎ハ無鑑札ニテ二人乗ノ人力車使用ノ罪ト石川縣違警罪目第七項トヲ犯シタルモノニテ其違警罪ヲ犯シタルハ其第二條ニ依リ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處シ又無鑑札ニテ人力車ヲ使用セシハ車稅規則第六則ニ依ルヘキモノナリ而シテ被告カ該車ヲ購入セシハ明治十五年七月十日ニシテ七月以後ニ係ルヲ以テ同三則ニ照シ其半年分金壹圓ノ脫稅高五倍ヲ科スヘキモノナルニ原裁判所ハ之ニ全年分拾圓ヲ科シ又二罪俱發ハ明治十四年十二月第七十二號布告第五條ニ依リ各事ニ處斷スヘキモノナルニ之ニ數罪俱發ノ例ヲ用ヒ剩サヘ明治十四年第七十二號布告但書ニ仍ラスシテ輕罪裁判所ヲ開キ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人大江周次郎ハ檢察官上告ト同意ノ旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審按スルニ

本按被告ノ所爲ハ原裁判官ノ認ムル所ニ據ルニ無鑑札ニテ二人乗人力車ヲ用ヒ袒裼シテ市街ヲ通行シ車稅規則ト違警罪トヲ犯シタルモノナルニ付明治十四年十二月第七十二號布告第五條ニ依リ其罪ヲ併科スヘキモノナレハ其違警犯罪ハ石川縣違警罪目第七項ニ照シ其第二

條ヲ適用シ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處シ車稅規則第六則ニ依リ而シテ被告カ該車ヲ購入セシハ七月以降ニ係ルヲ以テ同第三則ニ參照シ半年分金壹圓ノ脫稅高五倍ヲ科スヘキモノナリトス然ルニ原裁判官ハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒ一ノ重キ車稅規則ニ依リ處斷セシノミナラス之ニ全年分金二圓ノ五倍ヲ科シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ノ場合ニ適合スル上告ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

大江周次郎

前ニ辨明スル如クナルニ依リ被告カ所爲ハ車稅規則第六則諸車類無届ニテ營業スルカ又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍ヲ科ス其第一則四項ニ人力車二人乗一ケ年稅金二圓其第三則新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ云々トアルニ照シ半年分金壹圓ノ脫稅高五倍即チ金五圓ノ罰金ヲ科シ仍ホ石川縣違警罪目第七項市街ニ於テ袒裼シ又裸体スル者其第二條左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ストアルニ依リ金二十五錢ノ科料ニ處スル者也

第二千四十五號

○判文(毀損器物)明治十六年二月廿二日上告 年十二月廿二日發付

石川縣能登國鳳至郡長尾村平民

農

上野九平

三百四十三

三百四十四
明治十五年十一月

右九平カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十九日七尾輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年七月四日中川惣次郎所有麻ノ柱ニ二ヶ所鉋ヲ打込ニ毀損シ又ハ同人宅前ノ里道ニ沿ヒ生立スル杉木十三本鉋ヲ以テ伐倒シタル者ト判定シ刑法第四百十七條ノ初項同第四百二十七條第十五項及ヒ同第一百一條數罪俱發ノ例ニ照シ一ノ重キ輕罪即チ第四百十七條ノ初項ニ從ヒ重禁錮一月ニ處シ罰金二圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ對シ被告九平上告ノ旨趣ハ第一被告カ無罪ヲ證明スル坂下仁助ノ申立ヲ採用セラレス第二小泉和右衛門宮永米次郎カ被告犯罪ノ事實ヲ目撃シタリトノ曖昧ノ陳述ヲ以テ證據トセラレタリ第三小泉和右衛門ヲ証人トセララル、モ同人ハ告訴人の中川總次郎ノ親屬ナルヲ以テ法律上証人ノ効力ヲ有セサルモノトシ被告ヲ有罪ナリト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告ニ於テ原裁判官カ小泉和右衛門及ヒ宮永米次郎カ曖昧タル陳述ヲ以テ被告事件ノ証憑トセラレ又坂下仁助ノ申立ヲ採用セラレス無罪者ナル被告ヲ有罪者ト判定セラレタルハ不當ナル旨申立ルト雖モ諸般ノ証憑ヲ取捨シ犯罪ノ事實如何ヲ判定スルハ專ラ裁判官ニ任スル所ノ權内ニ在リテ被告ニ於テ其權限ニ侵入シ之ヲ論難シ得可カラサルモノトス

又小泉和右衛門ハ告訴人ノ親屬ナルヲ以テ証人ノ効力ナキ旨申立ルモ之ヲ一件書類ニ徵スルニ告訴人中川總次郎ハ本件ノ民事原告人トナリタルニ非ス故ニ同人スラ証人ノ資格ヲ有スルモノナリ況ンヤ告訴人ノ親屬タル者ニ於テテチヤ故ニ原裁判官カ小泉和右衛門ヲ以テ証

人ト爲シタルハ適當ニシテ之レヲ治罪法第百八十一條ニ觸レタル証人ノ効力ナキモノト云フヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千四十六號
明治十六年三月六日上告
○判文(竊盜)同 年十二月廿二日發付

岡山縣備前國岡山區紙屋町中島
萬次郎同居平民古着商

內 藤 金 太郎
明治十五年八月
二十一年九月生

竊盜被告事件ニ付明治十五年八月十九日岡山輕罪裁判所豫審判官カ公判ニ移ストノ終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ同會議局ニ於テ豫審終結言渡ヲ允當ナリトシ之ヲ認可ストノ判決ニ服セス上告セリ其要領ハ豫審判官ハ被告人カ被害者森虎次郎ノ隣家ナルト二夜續大工道具ヲ散亂シアリシトニ因リ有罪ノ推測ヲ爲シ且被害者ノ衣類ハ被告人カ正シク買受ケタルモノナルニ充分ナル證據ヲモ蒐集セス輒シ竊盜罪アルモノト豫審終結言渡サレタルハ越權ノ處分ナリトシ故障ヲ爲シタルニ會議局ニ於テハ其豫審終結言渡ヲ允當ナリトシ故障ヲ斥ケラレタルハ不法ナリト云フニアリ

對手人檢事友野信平ハ原判決ノ毫モ不法ニアラサルトノ趣旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

三百四十五

上告ノ理由トスル處豫審判官ハ充分ニ證據ヲモ蒐集セス輒ク終結言渡サレタルハ越權ナリトシ故障ヲ爲シタルニ會議局ニ於テモ之カ故障ヲ斥ケ豫審終結言渡ヲ認可セラレタルハ不法ナリト云フト雖モ各種ノ證據ヲ取捨シ其實事ヲ認定スルハ承審官ノ職權タル治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアルヲ以テ明晰ナレハ其探証ノ當否ヲ論難セシ故障ヲ斥ケ豫審終結言渡ヲ認可セシハ允當ナル判決ニテ越權ノ處分ニアラサレハ上告ノ趣旨相立タス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○判文(毆打創傷) 明治十六年二月二日上告
同 年十二月廿二日發付

廣島縣安藝國仁保島丹那浦居住
平民魚市場營業

中 尾 保 平

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十一月十七日廣島縣裁判所ニ於テ刑法第三百一條第二項第九十二條ニ照シ重禁錮六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ被告保平ニ於ル廣澤庄之助ヲ毆傷セシコトハ無之却テ被告カ同人ニ毆打セラレシモノナリ而シテ假リニ被告カ庄之助ヲ毆打シタリトスルモ被告ヲモ罵詈訾且毆打シタルモノナレハ刑法第三百十條ノ明文ニ依據スヘキニ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ不當ナリト云フニアリテ猶明治十六

年一月八日追伸書ヲ提出シ同年五月十九日附テ以テ上告再伸書ト題スルモノヲ呈シテ前趣意ヲ擴張セリ

對手人檢事補緒方敏ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ速ニ棄却ヲ望ムト答辨セリ
上告者ハ再三其趣意書ヲ提出シ喋々スト雖モ其旨意ノ歸スル處ハ保平ニ於テ廣澤庄之助ナル者ヲ毆傷セシ事無ク却テ彼レニ毆打セラレタルニ原裁判所ハ是等ノ審究ニ及ハスシテ被告ヲ罰シタルハ不當ナリト云フニ在リテ原裁判官カ探證ノ可否ヲ非難シ以テ事實ニ入ルト雖モ抑證憑ノ取捨採擇ハ裁判官ノ特權ニシテ漫リニ他ヨリ動カスヲ得サルモノトストナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ依テ上告ノ趣旨相立ストス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第二千四十八號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十二月廿四日發付

佐賀縣肥前國神崎郡杠山士族

寺 田 善 作

明治十五年七月
四十七年二月

右善作長男

寺 田 權 一

明治十五年七月
二十四年
三百四十七

竊盜被告事件ニ付明治十五年七月六日佐賀輕罪裁判所ニ於テ善作ハ刑法第百五條及第三百六十八條ニ照シ權一ハ同法第三百六十八條ニ照シ處斷スヘキモノナルモ所犯情狀原諒スヘキモノアルヲ以テ同法第八十九條及第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ善作ハ重禁錮二年ニ處シ權一ハ重禁錮八月ニ處シ仍ホ刑法第二百七十六條ニ依リ善作ハ監視一年權一ハ監視十月ニ付ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告兩名ハ右裁判ヲ不當ト爲シ上告セリ其要旨タルヤ被告善作ハ自己ノ負債ヲ辨償セシメソカ爲メ其所有地ヲ柴田治七ニ讓渡スノ契約ヲ爲シタルモ其契約ハ治七ニ於テ之ヲ履行セサルニヨリ已ニ無効ニ歸シタリ又被告ノ本宅ハ治七ノ名義ヲ以テ戸長役場ニ騰記アルモ其實被告ノ所有ニ係リ之ヲ賣渡シタルト更ニ之レナキ而已ナラス松石儀助ハ被告ノ雇人ニシテ治七ノ小作人ニ非ス且其地所ヨリ收穫シタル粃ハ無論被告ノ所有ナレハ被告等ニ於テ之ヲ竊取スル理由ナキナリ然ルニ原裁判所ニ於テ右ノ地所ハ治七ノ所有ニシテ其收穫ノ粃ハ儀助ノ所有ニ係ルモノ、如ク事實ヲ誤認シ被告等カ所爲ヲ竊盜ノ罪ト爲シ刑法第三百六十八條ニ擬セラレタルハ頗ル不當ノ裁判ト謂ハサルヲ得テ是レ原裁判ニ服スル能ハサル所以タリ因テ之ヲ破毀シ正當ノ裁判アラントテ請願スト云フニ在リ

原檢察官ハ上告趣旨ノ不理ナルヲ論シ原裁判至當ニシテ毫モ上告ノ原由ナキモノト信認スル旨答辨セリ

本院檢事長渡邊驥ハ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原判文ヲ閱スルニ被告權一カ柴田治七代人唐川唯四郎等ニ於テ封印ヲナシ置キタル粃四十俵餘ヲ善作ノ指圖ニ因リ其封印ヲ破毀

シ之ヲ取り遂ニ他所ニ運搬シタル事實ノミ掲ケ在リテ其封印ヲ施シタル物件及其模様等ニ至テハ一モ之カ明記ナキハ即チ事實ノ理由ニ瑕瑾アルモノトス若シ假ニ竊盜ノ罪アリトスルモ其所爲ハ刑法第三百六十六條ニ擬スヘキモノナルニ同法第三百六十八條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリトス因テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

本院檢事加納久宜ハ被告等カ上告論旨ハ其當ヲ得サルモ原裁判ハ附帶上告趣旨ノ如ク二箇ノ破毀点ヲ兼有スルモノナレハ其事實ノ理由不備ニ係ル点ニ付之ヲ破毀シ他ノ相當ナル裁判所ニ移サレンコトヲ希望スト陳述セリ仍テ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ趣旨ハ專ラ原裁判所カ認メル事實ニ侵入シ其當否如何ヲ論難スルニ過キサレハ採用スルニ由ナシト雖モ附帶上告ノ理由ニ付原判文ヲ閱スルニ權一ハ善作ノ指圖ニ因リ封印ヲ破毀シテ柴田治七ノ小作人ナル松石儀助所有ノ粃四十俵餘ヲ取リタルモノト在ルノミニシテ其封印ヲ施シタル物件及犯罪ノ模様等一モ之カ明示ナキ而已ナラス善作カ權一ヲシテ右粃四十俵餘ヲ運搬セシメタルハ果シテ竊盜ノ念慮ニ出テシモノナルヤ將タ柴田治七ヲシテ負債辨償ノ契約ヲ履行セシムルノ手段ナリシヤ又權一カ之ヲ運搬シタルハ固ト善作ノ指圖ニ因ルト雖モ果シテ罪ヲ犯スノ意アリシヤ將タ其意ナク唯父善作ノ命令ヲ執行シタルニ止ルモノナルヤ其意思如何ヲ審究セサリシヲ以テ罪ノ成否ヲ斷定スルニ由ナシ要スルニ原裁判ハ事實ノ理由不備ニ係ルヲ以テ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ相當スル破毀ノ原由アルモノトス因テ同法第四百二十八條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ被告事件ヲ福岡輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

○判文(證券印紙再貼用)明治十六年二月五日上告

年十二月廿四日發付 大阪府東區島町二丁目五番地平民

富 實 廣 助

明治十五年十一月

証券印紙再貼用被告事件ニ付明治十五年十一月十七日大阪輕罪裁判所カ刑法第百九十九條ニ依リ二圓五十錢ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補秋田政徳ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ被告カ所爲ハ刑法第百九十九條ニ擬スヘキ犯罪ナリトス而シテ其刑ハ罰金ニシテ則チ輕罪ナレハ同法第二百一條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ヲ附加スヘキモノナルヲ敢テ論テ俟タサル所ナリ然ルニ單ニ主刑ヲ科シテ監視ヲ附加セサル所以ノモノハ監視ヲ附加スルハ体刑ニ止リ罰金ニ及ハストスル趣旨ナルモ知ル可カラサレモ未タ如斯ノ法律アルヲ視ス故ニ被告カ所爲ニ對シ單ニ主刑ヲ科シテ監視ヲ附加セサルハ治罪法第四百十條第十項ニ當ル擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ抑モ監視ノ刑ハ犯人ノ身体ヲ檢束スル体刑ニ附加ス可クシテ罰金ノ如キ其身体ヲ檢束セサル刑ニ附加ス可カラサルハ法理ノ然ラシムル所ナリ又刑法第四十條ニ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スト在ルニ依テ見ルモ罰金ノ刑ニ監視ヲ附加スルハ立法ノ本旨ニアラサルヲ了知スルニ足ル故ニ原裁判所カ罰金ノ刑ヲ言渡シ之ニ監視ヲ附加セサリシハ其當チ

得タル裁判ニシテ破毀ノ原由ナキモノナレハ上告趣旨ハ其効ナキモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スルモノ也

第二千五十號

○判文(詐爲私文)明治十五年十二月廿五日上告

同 十六年十二月廿四日發付 長崎縣肥前國南高來郡西鄉村四百八十六番地平民蠟絞職

末 松

明治十五年八月

同縣同郡同村五百番地平民 農業

吉 弘 五 郎

明治十五年八月

詐爲私文書被告事件ニ付明治十五年八月四日長崎輕罪裁判所ニ於テ右被告堀末松カ所爲ハ堀ムラノ家督和續願書ヲ變更増減シテ行使シタル正犯ナリトシ吉弘五郎ハ其犯罪ヲ幫助シタル從犯ナリトシ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ依リ刑法第二百十條第二項ヲ適用シ堀末松ヲ重禁錮二月十日吉弘五郎ヲ重禁錮二月ニ處斷セリ

被告堀末松吉弘五郎ハ該裁判ニ對シ各上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ原裁判所ハ明治十四年八月

七日ニ差出シタル家督相續願書ニ初メ日付無之ヲ後チ三日ト記入シ指令八月二十五日本人
 へ渡ストアルチ十一日ト挑剗描改シタル者ト言渡サレ其證トシテ堀「ムラ」カ印章ヲ彫刻シ
 タル松尾喜一郎ノ証言ヲ採用シタルモ喜一郎ハ本案ノ事件ヲ惹起セシ教唆者荒木喜一ノ從
 兄弟ニシテ且瘖啞者ナレハ固ヨリ證人タルノ資格ヲ有スル者ニアラス又該願書ヲ郡役所ニ
 受付タルハ明治十四年八月八日ナレハ其前日即チ七日ニ郵便ニ投シタルモノ、如ク認定シ
 タレトモ明治十四年八月七日ハ日曜ニシテ通常職務ヲ取扱フヘキ日ニアラス且郡役所モ休
 暇ナレハ假令郵便ハ七日ニ達シ居ルモ八日ニ受付係ニ受理シタルモノナルヲ明瞭ニシテ怪
 ムニ足ラス況ンヤ小田定衛ノ保証及ヒ該願書ヲ代書セシ丸山武次ノ証明アルニ於テチヤ故
 ニ堀「ムラ」カ相續願書ヲ差出ス當時日付ノ無カリシモ後日ノ記入ハ強テ上告人等ノ所爲ト
 推測チ下サル可キ理由ナク堀「ムラ」等ニ於テ上告人等ヲ誣ン爲メ斯ル奸策ヲ爲シタルヤモ
 亦測リ難シ何トナレハ其記入シタル文字ハ上告人等ノ所爲タル証憑ナケレハ也如此事實ニ
 シテ到底原裁判所ハ審理ヲ盡サ、ル不當ノ判決ナリト謂フニ在リ
 原裁判所檢事補村上二郎ハ上告論旨ノ不當ナル理由ヲ排駁シ而シテ附帶ノ上告ヲ爲シタリ
 其趣旨ハ被告兩名ハ堀「ムラ」ノ家督相續願書ヲ挑剗描改シ「ムラ」カ家督相續ノ成就シタル
 ハ八月十一日ト假シ之ヲ端緒トシテ更ニ「ムラ」ム亡夫堀由太郎ヨリ財産ノ贈遺ヲ受ケタル
 如ク地券書換願書ヲ偽造シ「ムラ」其他連署人ノ氏名ヲ偽記シ其印影ヲ盗用シ「ムラ」ノ財産
 ヲ騙取セント試ミ未タ遂ケサル者ナルヲハ豫審中蒐集シタル一切ノ証憑ニ徴シテ明白ナレ
 ハ則文書ヲ詐爲シタルト詐欺取財未遂犯ト數罪俱發ニ係ル者ナルチ原裁判官カ單ニ刑法第

二百十條第二項ニ依リ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ被告人ノ上
 告ハ事實点ノミノ論旨ニ付其理由不立檢察官ノ附帶上告ハ擬律錯誤アリトノ趣旨ナレト
 モ如何セン原裁判ハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ與ヘサル所アルチ以テ之ヲ論究スルニ
 由ナキニ付茲ニ附帶上告ヲ爲ス旨ヲ陳辨シタリ其要領ハ原裁判言渡書ニ堀末松ニ對シテハ
 堀「ムラ」ノ家督相續願書及ヒ地券名前換願書變更増減ノ行使シタル造意者ナリトシ吉弘五
 郎ニ對シテハ西郷村戸長在役中末松カ犯罪ヲ幫助シタル者ナリトシ當輕罪裁判所會議局ニ
 於テ本衙ニ移スノ言渡ニ依リ公訴ヲ受理シ云々以下其事實ノ模様等ヲ列記シ右事實ト推測
 トニ依リ實際明治十四年八月七日ニ差出シタル相續願書ニ初メ日付記載無之ヲ後チ三日ト
 記入シ指令八月二十五日本人へ渡ストアルチ十一日ト挑剗描改シタル者ト確信ス云々トノ
 ミアリテ其地券書換願書増減變更ノ点ハ如何ナル手段ニ出テタル者乎否チ明記セサルノミ
 ナラス果シテ増減變更シタル者ナルヤ否ヤノ事實チモ判定セス所謂請求ヲ受ケタル事件ニ
 付判決ヲ爲サ、ル者ニシテ治罪法第四百十條第七ノ場合ニ相當スルチ以テ破毀ヲ求ムト謂
 フニ在リ依テ判決スルヲ左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ查閱スルニ堀末松吉弘五郎カ所爲ハ堀「ムラ」カ家督相續願及ヒ地券名前書
 換願書變更増減シテ行使シタル犯罪ヲ審判シ其刑ノ適用ニ至リ正從犯ヲ區分シ刑ノ言渡シ
 ナ爲シタルチ見レハ蓋シ家督相續願書ヲ詐爲シタル所爲ノミ証憑充分ナリトシ地券書換願
 書ニ關スル事項ハ不問ニ付シタル者ノ如シ然レトモ已ニ公訴ヲ受理シタル以上果シテ無罪

ニ歸ス可キ者トスレハ其理由ヲ付シテ判然其言渡ヲ爲サ、ル可ラス是レ本院檢事ノ附帶上告アル所以ニシテ治罪法第四百十條第七項ニ定タル場合ニ適當スル不法ノ裁判ナリトス故ニ原檢察官カ上告論旨ノ適否ハ事實ヲ明示シタル後ニアラサレハ之ヲ監査スルニ由ナキ者ナリ又被告人等カ上告ハ單ニ事實認定上ノ當否ヲ批難スルニ外ナラサレハ上告ノ理由ト爲ヌニ足ラサル者トス
前ニ辨明スル如クナルヲ以テ被告人ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ專ラ附帶上告ニ原キ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ熊本輕罪裁判所天草支廳ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第二千五百壹號

○判文(恐喝取財)明治十六年三月十四日上告
同 年十二月廿四日發付

高知縣土佐國香美郡榎ノ山郷仙
頭村平民農

片山重平

明治十五年十一月

右重平カ恐喝取財及ヒ詐稱官被告事件ニ對シ明治十五年十一月十六日高知輕罪裁判所於テ被告ハ山崎鐵藏方ニ立越シ山田警察署詰探偵掛リト詐稱シ鐵藏ヲ恐喝シテ金圓ヲ騙取セント爲シタル者ト判定シ右二罪ヲ刑法第百條第三項ニ照シ人ヲ恐喝シテ金圓ヲ詐取セントシタル罪ヲ重シ刑法第三百九十七條同第三百九十二條ニ照シ二等ヲ減シ重禁錮

六月ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ仍ホ同第三百九十四條ニ依リ監視一年ヲ付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告人カ上告爲シタル要領ハ村田常之丞白井喜太郎等ト通謀シテ山崎鐵藏方ニ立越シ山田警察署詰探偵掛ト詐稱シ鐵藏長女於テ生子壓死シタル聞ヘアルヲ以テ取調ニ來リシ等ノコトヲ申掛ケ鐵藏ヲ恐喝シテ金圓ヲ詐取セントシタル等ノコトナク鐵藏カ頼ミニ依リ内濟ノ談判ニ及ヒタルモノニシテ罪トナルヘキ事實ニアラス云々陳告スルニ外ナラス同裁判所檢事補村田穗ハ原裁判相當ナリト答辨シタリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ徒テ承審官カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定上ニ對シ不服ヲ唱フルモノニ止リ到底治罪法第四百十條ニ規定シタル各項以外ニ涉ル上告ナレハ之ヲ以テ其理由ト爲ヌヲ得サルモノトス因テ同法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第二千五百十二號

○判文(費用寄托物)明治十六年二月廿八日上告
同 年十二月廿四日發付

三重縣伊勢國安濃郡津山ノ世古
町平民商業

井田恒吉

明治十五年十一月

右恒吉カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十日安濃津輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年八月中津地頭領町東海三郎右衛門ヨリ一時寄托ヲ受ケタル物件ヲ費消シタル者ト判定シ刑
三百五十五

法第二百九十五條ニ照シ重禁錮二月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告恒吉カ上告爲シタル要旨ハ東海三郎右衛門ヨリ預リタル本件ノ寫眞器械ハ同人ノ依頼ヲ受ケテ畑中市太郎ヘ金借ノ抵當ニ差入レ而シテ其借用金ハ直チニ右三郎右衛門ヘ相渡シタルモノナレハ毫モ犯罪ノ廉アルナシ然ルチ罪アリト判定セラレシハ不當ナリト云フニアリ原裁判所檢事補横山高成ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ

本院檢事加納久宜ニ於テハ本案ニ對スル意見ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原判文ニ掲ケタル事實ノ理由不備ナルニ付キ之カ破毀ヲ求ムト云フニアリ茲ニ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告カ上告ノ理由トスル所ハ只管事實ノ判定上ニ不服ヲ唱ヘ之カ覆審ヲ求ムルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ規定外ニ涉リ上告ノ理由ナキモノトス然レモ檢察官カ附帶上告論旨ノ如ク原裁判言渡ハ事實理由チ欠クモノト云フヘシ何トナレハ該判文ニハ(被告井田恒吉ハ一時寄托ヲ受ケタル寫眞器械ヲ同町畑中市太郎ヘ私擅ニ抵當トナシ金八圓ヲ借用シタル者ト判定ス)トアルノミニテ果シテ之ヲ擅ニ費消セシモノナルヤ否ノ事實ヲ明示セサルモノナレハナリ故ニ該判文ニ記スル所ノミニ依レハ被告ノ所爲タル未タ刑法第三百九十五條ノ犯罪ヲ組成セサルノミナラス同法第三百九十三條ノ罪ヲ犯シタルモノ、如シト雖モ實際果シテ冒認ノ情狀アリシヤ否ヤ是亦明瞭ナラサルカ故ニ隨テ之ニ對スル法律適條ノ當否如何チ監査スルニ由ナシ畢竟治罪法第三百四條ニ背キタル不法ノ裁判ナルニ付同法第四百二十八條ニ遵ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ更ニ相當ノ裁判ヲ受ケシムル爲メ本件ヲ名古屋輕罪裁判

ニ移スモノ也

第二千五十二號

○判文(費用委託金)明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月廿四日發付

高知縣安藝郡和倉村平民當時土

佐郡本町平民川島幸十郎方雇人

横 田 茂 久 治

明治十五年七月二十三年

明治十五年七月四日高知輕罪裁判所ニ於テ右横田茂久治カ被告事件ヲ審理シ被告人ハ鍋島鹿次ニ雇ハレ造酒賣捌ノ一ヲ負擔中小川銀七ヨリ受取リタル酒代金ヲ擅ニ費消シ又ハ酒代金ヲ擅ニ青木只七ニ貸與ヘタル所爲アリト判定シ刑法第三百九十五條ニ依リ重禁錮一月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人横田茂久治カ上告ヲ爲スノ要旨ハ青木只七ニ金圓ヲ貸與ヘタルハ鍋島鹿次ノ指揮ヲ受ケ貸付タルモノニシテ擅ニ貸與ヘタルモノニアラス又小川銀七ヨリ受取リタル金圓ハ被告人カ父ヨリ貸付ケ被告人カ小遣錢トシテ取立權ヲ讓受ケ居タルニ付返戻ヲ受ケタルモノニシテ酒代金ヲ擅ニ費消シタルモノニアラサルニ原裁判所ニ於テ鹿次カ不實ノ申立等ヲ證據トシ前記ノ如ク判定セラレタルハ不當ナリト謂フニ在リ大審院檢事長渡邊驥カ附帶上告ヲ爲スノ要旨ハ被告人カ犯罪ハ原裁判所カ新法ニ依テ刑ノ言渡ヲ爲シタルヲ以テ觀レハ明治十五年間ノ罪ナルカ如ク又告訴狀等ニ因テ觀レハ十四年間ノ罪ナルカ如ク原裁判所カ犯罪ノ年月日ヲ明示セス直チニ新法ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲シタル

ハ事實理由ノ不備ナルモノニ付破毀シテ他ノ裁判所ニ移サレシト望ムト云フニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
 被告人カ上告ノ趣旨ハ事實ノ有無ヲ陳述シ採証ノ當否ヲ論辨シ裁判官ノ判定ニ對シ不服ヲ
 訴フルニ過キス抑モ証憑ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナ
 レハ其判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得ス依テ上告ノ旨趣ハ相立
 タサルモノトス而シテ檢事長カ附帶上告ニ係ル原裁判所カ被告人カ犯罪ノ年月日ヲ明示セ
 ス直チニ新法ニ從ヒ刑ノ言渡キ爲シタルハ事實理由ノ不備ナル者ニシテ上告ノ旨趣允當ナ
 リトス然レモ被告人カ犯罪ハ明治十四年間に係リ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告
 ニ依リ新舊法ヲ比照スヘキ者タルコトハ原一件書類中ニ於テ明瞭ナリ而シテ之レヲ舊法ニ比
 照スルモ改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ニ一等ヲ加ヘ贓金十圓懲役八十日ニ該リ即チ新
 法主刑ノ期限内ニ在ルヲ以テ到底新法ニ從ヒ處斷セサルヘカラサル者ニシテ犯罪ノ年月日
 ナ明示セサルモ事ニ於テ害ナク又舊法ニ比照セサルモ刑ニ輕重ノ差異ナキニ因リ破毀ノ限
 リニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件二箇ノ上告ハ之レヲ棄却スル者也
 第二千五十四號

○判文(費用受寄財産)明治十六年二月十五日上告
 同 年十二月廿四日發付

兵庫縣但馬國出石郡木村平民農
 業

太田馬次郎

明治十五年十一月
 二十四歲四月

明治十五年十一月十一日豐岡治安裁判所ニ開キタル姫路輕罪裁判所ニ於テ右太田馬次郎カ
 被告事件ヲ審判シ被告人ハ竊盜及ヒ詐欺取財費用受寄財産ノ所爲アリト判定シ其受寄ノ牛
 ナ擅ニ賣却シタル犯罪ハ新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項ニ依リ舊法ノ輕キニ從
 ヒ雜犯律費用受寄財産條ニ照シ懲役四十日ニ該ルモ其竊盜及ヒ無代止宿ノ罪ハ單ニ新法ニ
 依リ刑法第百條第三項ニ照シ一ノ重キ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ヲ適用シ重禁
 錮八月監視六月ニ處斷セリ被告馬次郎ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ告訴人村崎
 太次郎ハ被告ト組合共通ニテ牛賣買ヲ約シ牛ノ買入及ヒ蓄養ノ費用ハ被告ノ自辨スル所ニ
 シテ其實買ノ如キモ被告ノ專任スル所ナレハ其入費等ノ計算ハ爲スヘキモ代金ヲ携帶シタ
 リト謂フヘカラス又吉村寬二ノ所有品ハ同人ト旅宿中兄弟ノ如ク實際ヲ爲シ總テノ財物ハ
 共通同様自他ノ區別ナク互ニ使用シ被告人歸途旅費ヲ辨スル能ハサルヨリ被告人カ所有品
 ナ抵當ノ意ニテ殘シ置キ寬二ノ品ヲ持出シ賣却シタルモノニテ竊盜又ハ喰逃ト爲スヘカラ
 スト謂フニ過キス大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
 原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告人ノ自白證人ノ證言相當官吏ノ調書等諸般ノ徵憑ニ依リ事實
 及ヒ法律ノ理由ヲ明示シ以テ判決ヲ爲シタルモノニシテ毫モ背法ノ廉アルヲ視テ而テ被告
 カ論告スル所ハ漫ニ原判官カ認定シタル事實證憑ニ對シ不服ヲ鳴シ覆審ヲ求ムルノ意ニ過
 キスシテ一モ治罪法第四百十條ノ各項ニ適合スル上告ノ原由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也
二百六十

第二千五十五號

○判文〔官林盜伐〕明治十六年三月七日上告
同 年十二月廿四日發付

茨城縣常陸國那珂郡村松村平民
權十次男農業

須藤 秋次郎

明治十五年十二月
二十三年八月生

同縣同國同郡石神白方村平民屬

藏次男農業

清水 末吉

明治十五年十二月
二十三年生月不知

明治十五年十二月二十八日水口輕罪裁判所ニ於テ右須藤秋次郎清水末吉カ官林盜伐被告事
件ヲ審判シ刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ヲ適用シ各重禁錮一月監視
六月ノ刑ニ處スト言渡シタリ同裁判所檢事補立花敏カ其裁判ニ對シ上告ヲ爲シタルノ旨趣
ハ被告入等ハ官林ニ入り樹木ヲ伐採シ之ヲ束テントスル際逮捕セラレシ者ニシテ未ダ其伐
木ヲ運搬セサルノミナラス現場ヲ離レタルヲモナキニ因リ盜伐ヲ爲サントシテ未ダ遂ケサ
ルノ所爲顯然ナルニ原裁判所カ既遂犯罪ト爲シ刑法第百十二條ノ例ヲ適用セカリシハ擬律
ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコ

ト左ノ如シ

刑法第三百七十三條ニ山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊取シ云々トアリテ已ニ其樹木ヲ
伐採シタル時ハ竊取ノ犯罪成立ヲタルモノニシテ其未ダ現場ヲ離レス之ヲ運搬セスト謂フ
ヲ以テ未遂犯罪ナリト爲スコトヲ得ス本件被告人等ノ犯罪ノ如キハ官林ノ樹木ヲ伐採シ繩
ヲ以テ之ヲ束テントスル際逮捕セラレシ者ナレハ其伐採竊取ノ所爲已ニ遂ケタルモノニシ
テ固ヨリ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷スヘキモノニ非サルナリ故ニ原裁判所カ刑法第百十二
條ノ例ヲ適用セカリシハ相當ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣相立タサルモノトス依テ治罪法第四
百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第二千五十六號

○判文〔持兇器強盜〕明治十五年十二月廿八日上告
同 十六年十二月廿四日發付

愛媛縣伊豫國新居郡北川村平民
古着商

德永 市助

明治十五年六月
三十二年

右市助カ持兇器強盜被告事件ニ付明治十五年六月二十四日高知重罪裁判所ニ於テ被告ハ上
田常太郎外二名カ兇器ヲ携ヘ公文龜太郎方へ押入リタル時同謀同行シ該宅戸口ニ在リテ右
三名カ奪取リテ家内ヨリ投出セル衣類其他ノ物品ヲ荷ヒ其後右強取ノ物品中配分受ケタル
品ノ内縞木綿一反其餘五品ヲ森「イト」へ預ケ置キ殘品ハ賣拂ヒタルモノト認定シ刑法第三
三百六十一

百七十八條及同法第三百七十九條ニ依リ仍ホ同法第四百四條ニ照シ十二年ノ有期徒刑ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告市助カ上告爲シタル要領ハ被告カ山田警察署ニ於テ事實相違ノ申立ヲ爲シタル口供ヲ以テ眞實ノ白狀ナリト認定セラレ又証人田内卯吉外數名カ事實相違ノ陳述其他兇器ヲ以テ被告事件ノ証憑トシ強盜犯ナリト判定セラレタレトモ其証據トスルモノハ眞ノ証據ニ非サレハ裁判官カ妄想ニ出タル判定ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ上告代人北田正董カ陳述ヲ聽クニ本件ニ於テハ正犯ト從犯トナテ區別シテ處斷セサル可ラス今被告カ所爲ハ被害者ノ家ニ入ラスノ外ニ在テ間接ニ常太郎等カ所爲ヲ助ケタル者ニシテ其同行シタルハ專ラ威迫ニ逢ヒ已ムヲ得サルニ出テタルハ被告カ供述ニ徵シテ明白ナレハ則チ刑法第九條ノ所謂從犯ヲ以テ論セサルヘカラス且ツ試ミニニ舊律ニ照シテ論スレハ改定律例第二百二十八條凡強盜外ニ在テ瞭望シ財物ヲ接遞スル者ハ云々本犯ニ一等ヲ減ス其造意者ハ此限ニアラストアリテ正從犯ノ區別果シテ此ノ如クナルトキハ被告カ所爲ハ到底刑法第九條ニ依リ正犯ノ刑ニ一等ヲ減セラルヘキモノナルニ因リ原裁判ヲ破毀シ允當ノ裁判アラントチ請求スル旨陳述セリ立會檢事池上三郎ニ於テハ本案被告カ上告旨趣ハ原裁判官カ探証ノ方法事實ノ認定上ニ不服ヲ鳴スニ止マレハ上告ノ原由ナキモノナリ將タ上告代人ニ於テ云々陳述スルト雖モ刑法第九條ノ從犯ナルモノハ該條明記ノ通り唯其犯スノ情ヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ノ謂ニシテ該被告カ所爲即チ強盜ヲ行ハンコチ謀リ現ニ其場ノ戸口迄同行シ瞭望其他押奪シタル財物ヲ運ヒ以テ強盜ノ事ヲ成了シタルカ如キハ

之ヲ強盜ノ正犯ト謂ハスシテ何ソ勿論舊律即チ改定律例第二百二十八條ニ強盜外ニ在テ瞭望シ財物ヲ接遞スルノ所爲モ現今ニ於テ論定スレハ之ヲ間接ニ正犯ノ所爲ヲ幫助シタル者即チ從犯ト云フ可ラス畢竟舊新律ノ精神ニ於テ各其趣キヲ異ニスル所アレハナリ因テハ本案上告ハ法ノ如ク棄却ノ言渡アラントチ企望スル旨陳述セリ因テ判決スル左ノ如シ
 本案被告カ上告ノ旨趣ハ只管原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル探証ノ方法事實ノ判定上ニ不服ヲ唱フルニ過キスシテ到底治罪法第四百十條ニ規定セル項目外ニ涉レハ上告ノ原由ナキモノトス將タ上告代人ニ於テ被告カ所爲ハ從犯トシテ一等減ノ處斷ヲ受クヘキ旨論告スト雖トモ抑刑法第九條ニ重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアル其從犯者トハ正犯者ノ目的トスル意思ニ同意スルニアラス又其所爲ヲ共謀スルニモ非ス唯其犯スノ情ヲ知テ之ニ器具ヲ資給シ又ハ誘導指示スル等專ラ間接ニ其事ヲ幫助スルニ過キサル所爲ヲ指稱スルモノナリ今本案被告カ所爲ハ原裁判官カ認定スル所ニ據レハ被告ハ他三名カ被害者宅ヘ押入リタル時同謀同行シ戸口ニ在ツテ右三名カ押奪シタル衣類其他ヲ荷ヒ出シタルモノニシテ四人相須ツテ強盜ノ所業ヲ完成シタルモノナレハ則チ他三名ト共ニ正犯タルハ勿論ニシテ此所爲ヲ分別シテ正犯從犯ト爲スヘキモノニアラス故ニ原裁判官カ此所爲ニ對シ刑法第三百七十八條第三百七十九條等ヲ適施シタルハ最モ至當ノ裁判ニシテ上告代人ノ申立モ相立タサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第二千五十七號

三百六十四

○判文(竊盜)同 明治十六年一月三十一日上告
年十二月廿四日發付

三重縣志摩國答志郡鳥羽與谷士
族木本武妹雜業

木

本 明治十五年十一月

四十六年

明治十五年十一月二日山田輕罪裁判所會議局ニ於テ右木本「シカ」ノ被告事件ニ付豫審終結ノ言渡ニ對スル檢察官ノ故障申立ヲ判決シ被告人カ他人ノ金圓ヲ竊取シタリト認ムヘキ確証ナキヲ以テ豫審判事カ被告人ノ供述ニ依リ遺失金ヲ拾ヒ得テ擅ニ之ヲ費用セシ者ト爲シタルハ相當ニシテ故障ノ申立ハ相立クスト言渡シタリ同裁判所檢事補結城顯彦カ其判決ニ對シ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告人ノ費用セシ金圓ハ遺失物タルノ証據ナクシテ竊取シタリト認ムヘキノ徵憑充分ナルニ會議局ハ確乎タル徵憑ヲ拾テ據ルヘキナキノ遺失金ト爲シ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ事實ノ認定ヲ誤リタル不當ノ判決ナリト云フニ在リ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
被告事件ニ對シ諸般ノ証據徵憑ヲ採擇取捨シ以テ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從スル所ナレハ証憑ノ有無ヲ陳辨シ判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告原由ト爲スコト得サルモノトス本案上告旨趣ノ如キハ原會議局ニ於テ被告人カ竊盜ノ証憑ヲ採テラスシテ遺失物ニ關スル罪アリト爲シタルハ認定ヲ誤リタル判決ナリト辨論シ即チ裁判官ノ職

權内ニ侵入シ事實判定ノ不當ヲ訴フルニ過キヌシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナシト判定ス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第二千五十八號

○判文(賭博)同 明治十六年三月十四日上告
年十二月廿四日發付

鳥取縣伯耆國久米郡倉吉東岩倉
町六百番次一番地居住平民農業

前

田 龜 藏

明治十五年十二月

三十九歲

賭博犯罪被告事件ニ付明治十五年十二月十三日米子輕罪裁判所ニ於テ右被告人カ所爲ヲ審判シ刑法第二百六十一條ニ依リ仍ホ嚮ニ得遺失物ノ罪ニ因リ輕罪ノ刑ニ處セラレ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮三月二十二日ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ現場ノ博器ヲ沒収スト言渡セリ
原裁判所檢事補上野露ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人カ曩ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタルハ刑法施行前ノ犯罪ニシテ其施行後裁判ニ付シタルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ刑法ニ從ヒ處斷シタル者ナレハ再犯加重ノ例ヲ用フ可キ者ニアラス然ルヲ刑法第九十二條ヲ適用シタルハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決スルノ左ノ如シ

三百六十五

上告ニ因リ訴訟書類ヲ檢閲スルニ被告人カ拾得遺失物ノ罪ヲ犯シタルハ明治十三年六月中ニ在テ其刑ヲ受ケタルハ明治十五年四月中ニ在リト雖モ刑法第三條ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ストアルニ原キ舊法中ノ犯罪ヲ以テ新法ニ定メタル再犯加重ノ例ヲ用フ可ラサルハ言ヲ俟ス然ルニ原裁判官カ刑法第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ定メタル上告ノ原由アル者トス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直サニ左ノ裁判ヲ言渡ス者ナリ

前 田 龜 藏

前ニ辯明スル理由ナルヲ以テ被告人カ金錢ヲ賭ケ現ニ博奕ヲ爲シタル所爲ハ刑法第二百六十一條ニ依リ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス可キ範圍内ニ於テ重禁錮二月二十日罰金拾圓ニ處スル者也
但現場ニ在ル博具ハ之ヲ沒収ス

第二千五十九號

○判文(詐欺取財) 明治十六年一月三十一日上告
年十二月廿四日發付

長野縣信濃國上高井郡牛島村平
民農業

伊 藤 五 一 郎
明治十五年十一月
二十八年

家資分散ニ關スル被告事件ニ付明治十五年十一月十五日長野輕罪裁判所カ刑法第三條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ同第三百八十八條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ第一被告五一郎ヨリ丸山寅之助ヘ貸付ケタル金員ハ虛偽ノ貸借ニアラストノ一第二被告カ受ケタル配當金ハ二十五圓八十錢九厘ニアラス二十四圓二十五錢ナリトノ一第三假ニ有罪者トスルモ舊法不應爲律ニ依リ處斷セラル可キモノナリトノ一第四舊法共犯分首從條ニ從ヒ一等ヲ減輕セラルヘキモノナリトノ一第五舊法犯罪共逃律ニ準據シ全免セラル、モノナリトノ一以上ノ理由ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手入檢事補小川俊一ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本案ニ對スル意見ヲ述ヘ續テ附帶上告セリ其要點ハ家資分散ニ關スル犯罪ヲ罰スル刑法第三百八十八條ニ附加罰金及ヒ監視ノ刑ヲ科スヘキ明文アルニアラサルニ原裁判所ハ明治十四年第八十一號布告第九條第十條ニ依リ罰金監視ヲ附加セスト宣告シタルハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ因テ之ヲ審按スルニ

上告第一第二ハ原裁判所カ各種ノ證據ヲ取捨採擇シ丸山寅之助カ身代限ノ際同人ノ依頼ニ應シ虛偽ノ契約ヲ承諾シ現ニ受ケタル配當金ハ二十五圓八十錢九厘ナリト認定セシ事實當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ定メタル項目外ニ涉リ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス其第三第五ハ法律上論議ナルモ審ニ一己ノ私見ナルノミナラズ謂レナキ見解ニ過キサレハ是亦破毀ノ原因ト爲スヲ得ス其第四原裁判言渡ノ事實ヲ見ル

ニ(同人ノ依頼ニ應シ虚偽ノ契約ヲ承諾シ被告債主タル二百五十圓ノ貸借証書ヲ詐爲シ云々)トアリテ寅之助ノ依頼ニ應シタルモノナレハ其造意者ハ寅之助ニテ被告人ハ舊法上從犯ナリトセサルヲ得ス然レハ則チ舊法賊盜律詐欺取財條賊金二十圓以上懲役八十日ヨリ一
 等ヲ減シ同七十日ニ該ル新法ニアリテハ刑法第四百四條同第三百八十八條第二項ニ該ル因テ
 明治十四年第八十一號布告第二條ニ照シ二月十五日以上七十日以下ノ重禁錮ニ處スヘキモ
 ノナルニ原裁判ノ論決玆ニ及ハサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス其他附帶上告理由ノ如ク刑
 法第三百八十八條ハ罰金監視ヲ附加スヘキ法文ニアラサルニ明治十四年第八十一號布告第
 九條第十條ニ依リ罰金監視ヲ附加セスト宣告シタルハ是亦擬律ノ錯誤ナリト判定ス
 右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

伊藤 藤五 一郎

原裁判言渡ニ認メタル事實ノ理由及ヒ證據ニ依リ家資分散ノ際虚偽ノ契約ヲ承諾シタル
 ノ罪ヲ犯シタルヲ明白ナリ即チ之ヲ罰スル法律ハ
 刑法第三百八十八條第二項ニ情ヲ知テ虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ
 一等ヲ減ス〔本條刑期二月以上〕トアルニ依リ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下トナル
 而シテ刑法實施以前ニ係ル犯罪ナルヲ以テ之ヲ舊法ニ比照スルニ賊盜律詐欺取財條賊金
 二十圓以上懲役八十日從犯タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七十日ニ該ル新法輕シ仍ホ明治十
 四年第八十一號布告第二條ニ照シ二月十五日以上七十日以下ノ重禁錮ニ相當ス
 因テ被告伊藤藤五一郎ヲ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ虚偽ノ契約證書ハ沒収スル者也

第二千六十號

○判文(囚徒逃走) 明治十五年十一月廿八日上告
 全 十六年十二月廿四日發付

京都府山城國伏見區兩替町三十
 七番地平民

高野 松之助

明治十五年七月
 二十年一月

囚徒逃走被告事件ニ付明治十五年七月五日大坂輕罪裁判所カ刑法第四百四十二條第一項ニ依
 リ重禁錮一月二十日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官ハ上告セリ其要領タルヤ被告
 ハ主刑滿期ニ至テ逃走シタルモノニシテ法律ニ所謂已決ノ囚徒ナラサルヲ著明ナレハ刑法
 第四百五十五條ニ依リ處斷スヘキナリ然ルニ原裁判所カ同法第四百四十二條第一項ヲ適用シタ
 ルハ擬律錯誤ノ裁判ナルニ付之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決
 スル左ノ如シ

原裁判言渡ヲ閱スルニ被告ハ嚮ニ處刑ヲ受ケ其主刑滿期ニ至テ監視執行ノ爲メ監獄署ヨリ
 管轄警察署ヘ護送ノ途中逃走シタル者ナリ其所爲ハ主刑滿期後ニ係ルモノナレハ已決ノ囚
 徒逃走シタル者ト爲シ刑法第四百四十二條第一項ニ照シ處斷スルヲ得サルハ勿論監視規則中
 逃走スル者ヲ罰スル明文ナキヲ以テ其罪ヲ不問ニ措キ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然ル
 ニ原裁判所カ刑法第四百四十二條第一項ニ依リ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナ
 ルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ基キ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ無罪ノ言渡ヲ爲スモノ

也

第二千六十壹號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿一日上告
明治十六年十二月廿四日發付

神奈川縣相模國大住郡大島村平
民農業

落

合長輔
明治十五年十月
二十六年

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月十日横濱輕罪裁判所ニ於テ犯罪ノ証憑ナキヲ以テ無罪且
旅費日當ハ被告負擔スルノ責ナキニ因リ民事原告人ノ請求相立タスト云渡シタシ裁判ニ對
シ檢事補島村文耕民事原告人水島村次郎各上告セリ

島村文耕上告ノ要領ハ被告長輔カ罪証ハ現場目撃者前田初五郎ノ証言現在ノ冬青木ヲ以テ
充分ナリト認ムヘキニ原裁判官ハ被害者ノ失言ト辨護人ヲシテ直接ニ尋問セシメシコトア
リタルヨリ集証ノ目的ヲ顛倒シ豫審ノ証言ヲ取ラスシテ却テ犯罪ノ端緒ナル証明書ニ依着
シ無罪ト判決ヲナセシハ心証ヲ取ルニ失セシヨリ生スル擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破
毀シ更ニ相當ノ裁判ヲ求ムト云フニ在リ

民事原告人水島村次郎上告ノ要領ハ証明書ハ証人初五郎及告訴人村次郎カ無筆ナルヲ以テ
瀬戸利恭ヘ托シタル者ニ付或ハ初五郎ノ証言ヲ書誤リタルヤモ圖リ難キモ豫審ニ於テノ初
五郎調書ハ相當官吏ノ作りタル者ナレハ事實相違アルヘカラス良シヤ初五郎ノ証言ノ齟齬

ナルヲ以テ證據トナスニ足ラストスルモ被告カ豫審調書中冬青木ヲ村次郎ヨリ貰受タルト
供出スルモ其貰受タルヲ証明スヘキ反証ナク又公判審理ニ際シ被告ハ明治十二年三月中モ
テノ木ヲ村次郎ヨリ貰受タリト云ヒ又証人前田卯七ハ其相違ナキヲ証言シ且該木ヲ掘り取
ル爲メ鐵ヲ被告ヘ貸渡シタルト陳述スルモ吉野「ナミ」カ其土地ノ讓與ヲ受ケタルハ明治十
二年五月二十日ナレハ其以前即チ二月ニ在テハ村次郎關係ナキヲ以テ該木ヲ被告ヘ與フヘ
キ道理アラサルナリ又被告カ貰受タルト供出スルモテノ木被告ノ手裏ニ存在セル以上ハ仮
令他ニ理由アリテ其刑ハ不問ニ措カルヘモ賠償ノ道ハ消滅シタリト爲スヲ得サルヲ原裁判
官ニ於テ初五郎カ証言齟齬スルノミヲ以テ無罪ノ宣告ヲ爲シ隨テ民事原告人ノ請求ヲ棄却
シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ速ニ平翻アランコトヲ希望スト云フニ在リ

對手人落合長輔カ檢事補島村文耕上告ニ對スル答辨ノ要領ハ被告ヲ罪アリトスル所以ノ者
ハ初五郎ノ証言及冬青木アルトノ旨趣ニ過キササルカ如シ然ルニ初五郎カ証明書ニハ長輔カ
モテノ木二本持去候儀ハ其節不心付追テ承知云々トアリ而シテ豫審及ヒ公判ニ於テノ証言
ニハ之ト相違ノ申立ヲナシ又竹ノ方ニ於テモ前同様相違ノ申立ヲナシタリ又民事原告人カ
公判ノ陳述ハ始終曖昧ニ渉ルヲ以テ汝カ告訴ハ據ルヘキ處ナシトノ裁判官ノ問ニ唯ハイ々
々トノミ答ヘ他ニ答辨セサリシヲ見レハ民事原告人ハ告訴ニ就テノ証言ハ終ニ證據ニ立サ
ルノ理由ヲ自得セシニ相違ナカルヘシ故ニ原裁判ハ適當ニシテ毫モ擬律錯誤ノ廉ナキヲ信
ス又民事原告人水島村次郎上告ニ對スル答辨ノ要領ハ上告狀ニ第一証人前田初五郎ノ証明
書第二豫審ノ調書第三被告任意ノ白狀トアレヒ被告ハ一言半句モ犯罪アリト白狀セシコト

ナシ又証人ノ証明書ト証書ニ相違アルコトハ前ニ辨セシ通ニテ尙公判筆記ニ據レハ証人及民事原告人ノ陳述ノ信スヘカラサルヲ証スヘシ其他民事原告人ノ陳述ハ一々信取スルニ足ルモノニ非サルヲ以テ原裁判官カ被告ヲ無罪トシ民事賠償相立タスト判定セシハ至當ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告書類ヲ查スルニ檢事補島村文耕カ上告ノ申立ヲ爲シタルハ明治十五年十月十二日ニシテ其趣意書ヲ差出セシハ明治十五年十月十九日ナレハ其間已ニ七日ヲ經過スルヲ以テ治罪法第四百十七條ニ定メアル上告申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ差出スヘキ成規ニ牴觸スルニヨリ該上告ハ其效無キモノトス

民事原告人島水村次郎カ上告ノ論旨ハ縷々數百言ノ多キニ至ルト雖既ニ原裁判所カ本案被告ニ對シ犯罪ノ証憑之レ無キヲ以テ無罪ト言渡ヲナシタル上ハ私訴ノ請求不相立ト判決セシハ至當ナルヲ以テ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ總テ棄却スルモノナリ

第二千六十二號

○判文(詐稱氏名) 明治十六年二月十七日上告
全 年十二月廿四日發付

愛知縣三河國碧海郡刈谷村居住
平民庄八二男土方稼

加藤 鐵 五 郎

明治十五年十一月二十五日

賭博犯罪及ヒ違警罪併發被告事件ニ付明治十五年十一月三十日彦根輕罪裁判所ニ於テ右被告人カ錢賭ケ博奕ヲ爲シタル所爲ニ對シ刑法第二百六十一條ヲ適用シ重禁錮一月十五日罰金六圓ニ處シ賭場現在ノ骨牌ハ沒收スト言渡シ但被告人カ滋賀縣ノ布達ニ違反シ住所氏名ヲ詐稱シタル公訴ハ豫審終結ノ言渡ニ依リ受理ス可キ者ニシテ其以外ノ起訴ハ治罪法第二百四十七條第二項及ヒ第二百七十七條第二項ニ照シ受理ス可ラサル者ト裁判セリ

原裁判所檢事補阿部克己ハ違警罪事件豫審ヲ經サルニ因リ受理ス可ラサル者ト言渡タル裁判ニ對シ上告ヲ爲シタル其要領ハ違警罪ノ性質タル只警戒ニ違背スル輕少ノ罪ニシテ更ニ豫審ノ手數ヲ借り證據物件ヲ蒐集スルノ煩ヲ取ルニ及ハサルハ法律ノ命スル所ニシテ又其豫審ヲ爲スヲ要セサルナリ故ニ輕罪違警罪並起ルル輕罪ハ豫審ニ付シ違警罪ハ搜查ニ止メ輕罪事件豫審終結ヲ待テ併テ公訴ヲ爲ス可キヲ當然ニシテ決テ手續キニ背キタルニ非ラサルヲ信ス夫レ如此上等ノ裁判所併テ之ヲ管轄ス可キハ事理明瞭ナルニ係ハラス原裁判官カ受理シサル者ト爲シタルハ不法ノ裁判ニ付更ニ至當ノ判決ヲ望ムト謂フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百廿五條ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ治罪法第三十八條ニ輕罪及ヒ違警罪ニ付同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所併テ之ヲ管轄ストアリテ本案上告事件ノ如キ一ノ輕罪既ニ公判ニ着手シタル後更ニ違警罪ノ起訴アリタル場合ト雖モ併テ之ヲ管轄ス可キハ論ヲ俟ス况ヤ治罪法第二百七十六條ヲ按スルニ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ト雖モ附帶及ヒ公廷内ノ犯罪ハ直ニ之ヲ裁判